



Beyond your Imagination

# AURORA 9

9 CHANNEL 2.4GHz AIRCRAFT COMPUTER RADIO SYSTEM

◎輸入販売元  
お問い合わせ、修理品送付先  
株式会社 ハイテック マルチプレックス ジャパン  
〒133-0057 東京都江戸川区西小岩1-30-10-1F

サポート電話: 050-5519-4989  
受付時間: 月曜日~金曜日(祝祭日・夏期休暇・年末年始を除く)  
10:00~12:30, 13:30~17:00  
サポートメールアドレス: support@hitecrcd.co.jp  
ホームページ: www.hitecrcd.co.jp



Made in the Philippines



Ver 2010. 4

Beyond your Imagination

# AURORA 9

9 CHANNEL 2.4GHz AIRCRAFT COMPUTER RADIO SYSTEM

 2.4GHz ADAPTIVE  
Telemetric FREQUENCY HOPPING  
AFHSS SPREAD SPECTRUM



日本語説明書

初めに

この度はお買い上げ誠にありがとうございました。安全のためにも本説明書を最後までお読みになり、紛失しないように保管してください。

- ・従来には無い画期的なAFHSS-2.4Gを装備した新フラッグシップモデル「オーロラ9」登場！
- ・飛行中の機体情報が送信機で確認できる2.4G双方向通信テレメトリー・システムを装備！！
- 従来フライヤーの経験値や予測でしか、解り得なかつた機体の情報が受信機から逐次データー送信され手元で確認できる「ほんとうに役立つ」実用的システムです。
- ・大型の見やすいLCD（バックライト付）
- 入力は最先端のユーザーインターフェイスである「タッチスクリーン」を採用。
- LCD画面のアイコンをタッチするだけの簡単操作パネル。直感的に簡単操作設定！

#### ◆2.4G-AFHSSシステム

- ・AFHSS (Adaptive Frequency Hopping Spread Spectrum)  
Hitecの2.4G-AFHSSは送信機が最初に2.4G帯域内の電波状況をサーチ、そして空いているバンドを自動選択してホッピング・チャンネルを自動設定する理想的な周波数ホッピング・システムです。（業界初：FHSSキャリアセンス機能装備）  
これは自分の通信安全性が高まるだけで無く、他への影響も極力軽減する完全な2.4G-FHSS方式と言えます。  
従来キャリアセンス機能はDSSS方式で電波法的に必須条件でしたがFHSSには不要とされています。しかしHitecはより安全で相互干渉の少ないシステムを目指してこの技術を完成させました。

#### ・テレメトリー・システム 2.4Gの特徴を生かした双方向通信システム。

- 受信機からも送信機にデーターを送信。これにより送信機でも機体側の情報を逐次モニターできる実用的な便利システムです。  
標準セットで受信機のバッテリー電圧低下警告、そして電波障害が発生したり電波の到達範囲を逸脱しそうな場合の警告（ブザー）が鳴ります。  
この為に危険状態をいち早く知る事ができ、不測の墜落事故を回避する事が可能になりました。  
受信機にオプションのセンサーステーションを接続するとオーロラ9のテレメトリー画面に各種データーが表示されます。またパソコンに各データーをリアルタイムに表示するオプションも発売予定です。

#### ※発売予定計測センサー

（各電圧、各温度、回転数、高度、速度、燃料タンク残量、GPS、）

#### ・受信機

- オムニブースト・アンテナを採用、他社製に比べ2倍の広い電波の受信角度（指向性）を持つ高性能アンテナで送信機の電波をしっかりと受信します。  
通常必要な2本（ダイバシティ）のアンテナ同等の受信能力を誇ります。  
またSPCシステムにより動力用バッテリー（3.7～35V）を直接に受信機に接続し動力バッテリーの電圧を逐次監視してテレメトリーによって送信機にデーターを送信すると同時に受信機電源も取込む事ができ、モータースピコンのBEC容量に負担を掛けません。

目次

## Section One

## Introduction

- 2----- 初めに
- 3----- 目次
- 6----- 使いこなすために  
説明書の見方  
クイックガイド  
ソフトウェアの構造
- 7----- 新しい特徴
- 8----- サポート
- 9----- システム定格
- 9----- 用語説明 1
- 10----- 用語説明 2
- 11----- 安全の為に  
警告
- 13----- 送信機の充電
- 14----- 72MHzRFモジュール
- 15----- 2.4GHz時の設定  
RFモジュール  
受信機
- 18----- 2.4Gの設定と使用法  
距離テスト  
スキャンモード  
フェイルセーフ  
テレメトリー  
SPC電源接続
- 22----- 送信機アクセサリー
- 23----- 送信機各部名称と使用法
- 27----- 起動画面  
マルチI/Oポート
- 28----- ホーム画面メニュー

## Section Two

## クイックスタート（エンジン／電動モーター）

- 30----- System Menu Programming システムメニュー設定
- 34----- Model Menu Programming モデルメニュー設定

## Section Three

## クイックスタート（ヘリ）

- 38----- System Menu Programming システムメニュー設定
- 41----- Model Menu Programming モデルメニュー設定

## Section Four

## システムメニュー

47-----	MDL Select モデルセレクト	新規モデル モデル選択 モデルコピー メモリーリセット メモリー名称の変更
49-----	MDL Type モデルタイプ	飛行機、グライダー、ヘリ
54-----	Timer タイマー機能	タイマーメニュー
56-----	Channel チャンネル変更	各チャンネルの機能割当
57-----	Modulation 変調方式	2.4G以外のRFモジュール
59-----	TrimStep トリムステップ	トリム動作幅の設定
60-----	Trainer トレーナー	送信機2台での親子教習
62-----	Power パワーマネジメント	電源の管理とバックライト
63-----	MODE モード切替	ステイックモードの切替
64-----	Info インフォ	Ver情報とユーザー名登録
65-----	Freq Sel バンド切替	72MHz RFモジュール用
65-----	Sensor 受信機センサー	2.4G受信機のセンサー接続

## Section Five

## モデルメニューの、より高度な使い方

## 有用な特別ヒント

67-----	メニューの追加
67-----	メニュー項目の選択

## 各スイッチ選択の手順

68-----	レバースイッチの選択と役割
71-----	ファンクションスイッチの設定
72-----	キャンバー設定（グライダー）
73-----	ピッチ、スロットルカーブの設定
74-----	トリムリンクの設定
75-----	スロットルカットの設定
76-----	ステイックスイッチの設定

## 標準的なモデルメニュー

77-----	EPA 各チャンネルのエンドポイント
78-----	D/R & EXP デュアルレート&エクスプロ
79-----	Sub-Trim サブトリム
79-----	Reverse サーボリバース
80-----	S. Speed サーボスピード
80-----	Monitor サーボモニター
81-----	P. Mixs プログラムミキシング
83-----	FailSafe フェイルセーフ (72MHz)
84-----	Gyro ジャイロ設定

## Section Six

## モデルメニュー

## 飛行機&amp;グライダー用メニュー

86-----	FLT.COND フライトコンディション
91-----	Airbrake エアブレーキ
92-----	ABR-ELE エアブレーキ→エレベーターミックス
94-----	AIL-RUD エルロン→ラダーミックス
95-----	ELE-CAM エレベーター→キャンバーミックス
96-----	RUD-AIL ラダー→エルロンミックス
97-----	AIL DIFF エルロンデファレンシャル
98-----	AIL-FLP エルロン→フラップミックス
99-----	CAMBMIX キャンバーミックス
100-----	FLP CON フラップ→エレベーターミックス
101-----	V.Tail Vテールミックス
102-----	AILEVATR エイルベーターミックス
103-----	Elevon エレボンミックス（無尾翼）
104-----	Fuel Mix フューエルミックス ACRO only
105-----	Thro.Cut スロットルカットポジション ACRO only
106-----	T.Curve スロットルカーブ ACRO only
107-----	IdleDown アイドダウン ACRO only
108-----	B-fly バタフライミックス GLID only
109-----	SnapRoll スナップロールミックス ACRO only
112-----	Motor モーターコントロール GLID only
113-----	Launch ランチモードミックス GLID only

## Section Seven

## モデルメニュー

## ヘリ用メニュー

116-----	FLT.COND フライトコンディション
122-----	P. & T. Curve ピッチ&スロットルカーブ
123-----	Needle ニードルコントロール
124-----	SWH-THR スワッシュ→スロットルミックス
125-----	RUD-THR ラダー→スロットルミックス
126-----	T. HOLD スロットルホールド
127-----	SwashMix スワッシュミキシング
129-----	REVO Mix レボリューションミックス
130-----	Gyro ジャイロ
132-----	Governor ガバナー

## AUROLA9を使いこなす為には

当説明書は多機能な製品のため、ページ数が多くなっております。ご面倒でもお読み頂くようお願い致します。AUROLA9の機能を理解して性能を発揮するために詳細に記述されています。各機能においても読み直すことも重要です。それはAUROLA9への理解を深める事でしょう。

当説明書は7セクションで構成されています。

- セクション1：最初の導入のために必要な情報が記載されています。
- セクション2：飛行機/グライダー用クイックスタートガイドです。
- セクション3：ヘリ用クイックスタートガイドです。
- セクション4：システムメニューの説明
- セクション5：標準モデルメニューの説明、追加メニューと各スイッチの割り当て
- セクション6：アクロ/グライダー用モデルメニューの詳細
- セクション7：ヘリ用モデルメニューの詳細

## 警告、注意等のアイコン説明

警告  
例

Warning

もしレンジチェックで30m以上到達しなかった場合は絶対に飛行させないでください。

## クイックスタートガイド

セクション1をお読みになりましたらクイックスタートガイドに進むのも、素早くAUROLA9を使いこなす為の一つの方法です。クイックスタートに沿って設定を行ううちにAUROLA9のプログラミング手法に慣れていくと思います。そして実際に飛行される前に、いくつかの機体をプログラミングしてみる事を推奨します。実際に機体をセットアップするうちにAUROLA9独自の理解しやすいメニュー構成がお分かり頂けるでしょう。

## AUROLA9のアーキテクチャ（設計思想）

AUROLA9は設定や操作を全てタッチパネルで行います。それは画面ごとに必要なアイコンが表示され指でタッチするだけで色々な画面に進むように導かれます。不要な情報画面が表示されないので設定は考えることなくAUROLA9が画面で案内してくれます。

AUROLA9は一種のオープン思想のコンピューターです。お客様の思うように全てのスイッチやレバーに自由な機能が設定できますので制約のない、自由なお客さま独自の送信機に仕立てる事ができます。AUROLA9を使いこなす程に説明書のページ数とは相反する容易な操作性にお気づきになられると思います。

## 仕様 &amp; 主要機能

## 1) 基本機能

- ・9チャンネルシステム
- ・大型5.1インチ、タッチスクリーンLCD (320×80ドット、バックライト付)
- ・フリー設定：レバースイッチ（8個）、デジタルスイッチ（3個）  
サイドレバー（2個）
- ・両軸ダブルBB支持、新スティックジンバル
- ・飛行中の各種機体データーリアルタイム表示 (2.4G-AFHSS)
- ・受信機用バッテリー電圧低下警告、
- ・到達レンジアウト警告アラーム (2.4G-AFHSS)
- ・フェイルセーフシステム
- ・モデルタイプ切換。（飛行機、グライダー、ヘリ）
- ・メニュー画面カスタム設定
- ・30機モデルメモリー
- ・モデルネーム登録（20文字）
- ・フライトコンディション8タイプ。（各10項目設定可能）
- ・各種タイマー
- ・EPA
- ・デュアルレート&EXP（最大24系統）
- ・サブトリム
- ・トリムステップ
- ・サーボリバース
- ・サーボスピード（最大24系統）
- ・サーボモニター
- ・プログラムミキシング（最大8系統）
- ・データーリセット
- ・トレーナーシステム

## 2) アクロ用機能

- ・9ウイングタイプ選択
- ・5テールウイングタイプ選択
- ・7Pスロットルカーブ（最大24系統）
- ・スロットルカット
- ・アイドルダウン
- ・燃料ミクスチャー（最大24系統）
- ・エアブレーキ
- ・エアブレーキ→エレベーターMIX（最大8系統）
- ・エルロン→ラダーMIX（最大8系統）
- ・エレベーター→キャンバーMIX（最大8系統）
- ・ラダー→エルロンMIX（最大8系統）
- ・エルロンディファレンシャル（最大24系統）
- ・エルロン→フラップMIX（最大8系統）
- ・フラップコントロール（最大24系統）
- ・3軸ジャイロ感度設定（最大24系統）
- ・スナップブロール（最大8系統）
- ・Vテール（最大8系統）
- ・デルタ翼（最大8系統）
- ・エイルベーター（最大8系統）

## 3) グライダー機能

- ・9ウイングタイプ選択
- ・5テールウイングタイプ選択
- ・SWモーターコントロール（最大8系統）
- ・エアブレーキ
- ・エアブレーキ→エレベーターMIX（最大8系統）
- ・エルロン→ラダーMIX（最大8系統）
- ・エレベーター→キャンバーMIX（最大8系統）
- ・ラダー→エルロンMIX（最大8系統）
- ・エルロンディファレンシャル（最大24系統）
- ・エルロン→フラップMIX（最大8系統）
- ・ランチポジション（最大8系統）
- ・キャンバーMIX（最大8系統）
- ・フラップコントロール（最大24系統）
- ・バタフライMIX（最大8系統）
- ・ジャイロ感度設定（最大24系統）
- ・Vテール（最大8系統）
- ・デルタ翼（最大8系統）
- ・エイルベーター（最大8系統）

## 4) ヘリコプター機能

- ・6スワッシュタイプ選択（90,120,140,180度）
- ・7Pピッチカーブ（最大24系統）
- ・7Pスロットルカーブ（最大24系統）
- ・スロットルカット
- ・ジャイロ感度（最大24系統）
- ・ニードルコントロール（最大24系統）
- ・スワッシュ→スロットルMIX（最大24系統）
- ・ラダー→スロットルMIX（最大24系統）
- ・燃料ミクスチャー（最大24系統）
- ・スロットルホールド（最大3系統）
- ・スワッシュキャリブレーション（最大24系統）
- ・レボリューションMIX（最大24系統）
- ・ガバナー（最大24系統）

## Product Support

## 修理・お問い合わせ

## ●修理依頼について

- ・修理を依頼される時は必ず下記項目をメモで同封下さい。
  - 1) 使用模型、2) 故障状況または依頼内容、3) 修理上限希望金額
  - 4) 製造ID番号 (Info画面で確認できます)
- ・ご連絡がない場合、修理の上限金額は最大定価の 50%以内で行います。 (送料別)  
それ以下の金額をご希望する場合は必ず事前に連絡をお願い致します。
- ・弊社の製造上の責任による故障の場合は購入後半年までは無償にて修理致します。必ず**日付の入った購入時の領収書** (模型店印が必須です)を必ず同封してください。
- ・保証期間内でも消耗部品や外部、機構の破損は保証対象外です。
- ・高温、多湿、水や薬品による故障も保証対象外です。
- ・特にお客様の指示が無い場合、各部は販売時の状態に戻します。
- ・修理において各データーメモリーを消去する場合があります。
- ・点検の結果、異常が発見されない場合でも作動点検料金は発生する事があります。
- ・当製品は修理にお時間がかかる場合があります。

※製品の仕様は予告無く変更することがあります。

## ◎輸入販売元

## お問い合わせ、修理品送付先

株式会社 ハイテック マルチプレックス ジャパン  
〒133-0057 東京都江戸川区西小岩1-30-10-1F

サポート電話 : 050-5519-4989

受付時間: 月曜日～金曜日(祝祭日・夏期休暇・年末年始を除く)  
10:00～12:30、13:30～17:00

サポートメールアドレス :support@hitecrcd.co.jp  
ホームページ : [www.hitecrcd.co.jp](http://www.hitecrcd.co.jp)



## 送信機、受信機定格

## ●AUROLA9 送信機

制御チャンネル数 : 9

高周波変調方式

AHFSS 2.4GHz(スペクトラ 2.4モジュール使用)

72MHz PPM-FM (スペクトラ・プロシンセザイザーモジュール使用)

72MHz QPCM (スペクトラ・プロシンセザイザーモジュール使用)

電源 : 7.2V Ni-MH電池 (7.4V Li-po使用可能)

消費電流 : 約300mA

## ●Optima 2.4GHz シリーズ受信機

品名	寸法	重量	品番
- Optima 7	56.9 x 20.8 x 11.6mm	17g	28414
- Optima 9	47.7 x 29.1 x 15.5mm	22g	28425

電源 : 4.8V～7.4V 受信機バッテリー&ESC BEC

4.8V～35.0V SPC端子、動力電池直接入力 (BEC負担低減用)

消費電流 : 190mA

## LCD画面のアイコン説明

アイコン名	説明
MODEL	現在選択されているモデルのメニュー
ACRO	固定翼機のメニュー（エンジン、電動）
GLID	グライダーのメニュー（電動含む）
HELI	ヘリコプターメニュー
EXIT DOOR	前の画面に戻る
FOLDER	カスタムメニューに設置するショートカットアイコン
WRENCH	システムメニューにある特徴的なセットアップメニュー
ADJUST	各機能メニューで数値設定を素早く行う箇所
AILE	固定翼やヘリコプターのロール軸の制御
ELEV	固定翼やヘリコプターのピッチ軸の制御
RUDD	固定翼やヘリコプターのヨー軸の制御
1/2, 1/3, 1/6 FRACTIONS	表示メニューに複数のページがある場合に表示される
+ RST -	数値の増減調整やリセットを行う
Arrow	メニューオプションを表示する
C	フライトモードでグループ化した場合の表示
S	フライトモードでセパレート化した場合の表示
INH	OFF、機能停止
SEL	各メニューを表示選択する
ACT	ON、機能有効
NULL	機能のON-OFFにスイッチが選択されていない、常にON
AUX	予備チャンネル
J1	右スティック（ジンバル）の上下操作
J2	右スティック（ジンバル）の左右操作
J3	左スティック（ジンバル）の上下操作
J4	左スティック（ジンバル）の左右操作
T1	右スティック（ジンバル）の上下操作トリム
T2	右スティック（ジンバル）の左右操作トリム
T3	左スティック（ジンバル）の上下操作トリム
T4	左スティック（ジンバル）の左右操作トリム
LT	左スイッチ操作VR
CT	左中央スイッチ操作VR
RT	右スイッチ操作VR
RS	右サイドレバーVR
LS	左サイドレバーVR
Multi-I/O	PCインターフェイスや送信機同士のケーブル接続
DataTran	PCとモデルデーターの通信
T.Pupil	トレーナーモード

## 安全の為に

警告！：ラジコン模型は使用方法を誤ると大変危険な結果を招きます。

下記の説明事項を全部お読みになり確実にお守りください。またお客様が下記の指示を履行せずに起きました結果に関しまして当社は一切の保証を致しかねます。また保証範囲はお買い求められましたプロポセットの範囲内までといたします。あらかじめご了承ください。

■下記の注意事項を守らなかった場合、最悪の場合には死亡又は重傷を負う可能性が想定され、高い頻度で物損事故が発生する事が想定されます。

■表示記号の意味



（義務事項）この記号は必ず実行する項目です。



（禁止事項）この記号はやってはいけない事項です。

■使用前のメカ搭載の時の注意

- （○）・本製品はホビー用ラジコン向けに販売されています、他用途には使用しないでください。
- （○）・改造はおやめください。いかなる改造に関しても、当社は一切責任を負いません。
- （△）・純正品と組合せてご使用ください。他社製品との組合せに関しまして、当社は一切の責任を負えません。
- （△）・充電式のバッテリーを送信機の充電ジャックを通して急速充電する場合は充電電流を最大1A以内にしてください。但しバッテリーの許容急速充電電流に注意してください。
- （△）・サーボを搭載したら送信機で動作させてリンクエジロッドが他に接触しないか、動作角度一杯で舵がロックしていないか良く確認してください。電池の消耗を早めます。
- （△）・受信機用のSWを胴体に取付ける場合、SWのスライドノブの動作範囲を阻害しないように開口部分を加工してください。
- （△）・受信機のアンテナは波長に合わせ長さが設定されています。カットすると到達距離が短くなり危険ですので絶対にカットしないでください。
- （△）・胴体が金属やカーボン製の場合、その内部にあるアンテナ部分は電波が遮断されて有効に受信できません。受信機の近くから胴体外部にアンテナを出し胴体から離して張ってください。
- （△）・エンジン機の場合、受信機とバッテリーを防振スポンジで包み防振対策を行ってください。
- （△）・本製品をお子様に使用させてはいけません。また、幼児やお子様の触れる可能性のある場所に置いてはいけません。

## LCD画面 警告表示

電源-ON時に下の警告表示が出ることがあります。

## スタートアップ警告

電源スイッチを入れた時にスロットルスティックが最スローになっていないと警告が出ます。電動モデルの場合、非常に危険なのでスロットルスティックを下げるください。

もしフライトコンディションを設定している場合、コンディションスイッチの位置によっては大変危険な場合があります。コンディションスイッチ位置をOFFかノーマル位置にしてください。

**[Condition Warning] NORMAL**  
To transmit radio frequency.  
-turn off all switch's condition.  
-descend the throttle stick down.

スロットルスティックを下げるください。

**[Condition Warning] Cond-2**  
To transmit radio frequency.  
-turn off all switch's condition.  
-descend the throttle stick down.

フライトコンディションスイッチをOFF位置にしてください。

## フライト中の警告

フライト中に警告アラーム音が聞こえたらすみやかに機体を着陸させて対処してください。

## アラーム内容

1：送信機バッテリーの電圧低下

2：受信機バッテリーの電圧低下

AFHSS2.4GHzのテレメトリー機能によって

受信機用バッテリーの電圧低下を送信機に伝えアラーム音が鳴ります。

## 送信機の電源と充電

AUROLA9の内臓バッテリーはAAサイズ7.2V（6セル）1300mA,のNi-MHバッテリーを使用しています。

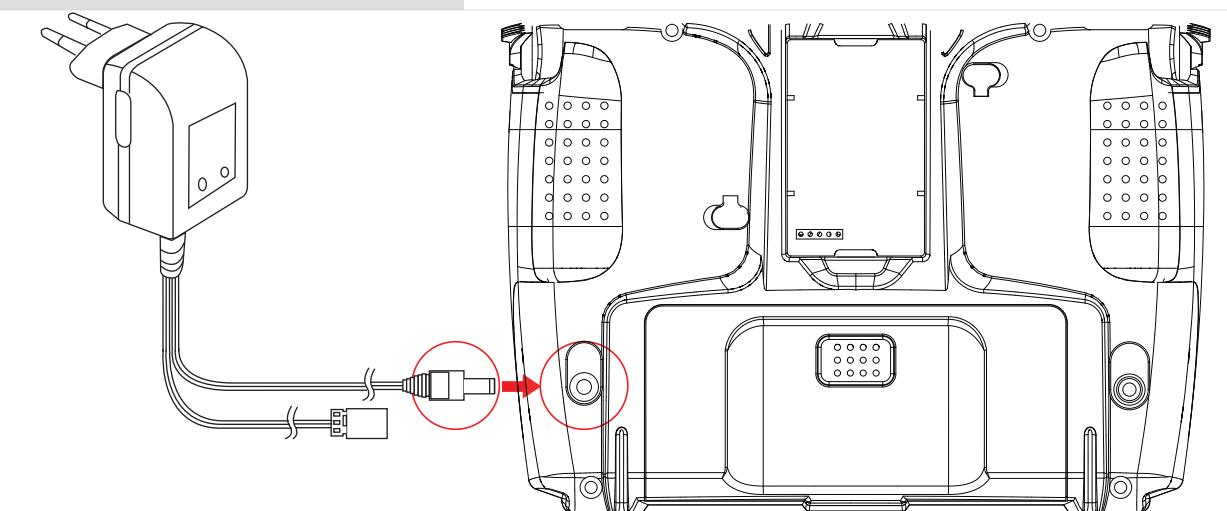
イラストのように家庭用充電器を接続します。

送信機用は赤LED,受信機用は緑LEDが点灯します。

飛行させる前の晚から16時間ほど充電を行ってください。（イラストは海外用コンセントの充電器です）

急速充電器で充電する場合は電池を取り出して充電器に接続してください。

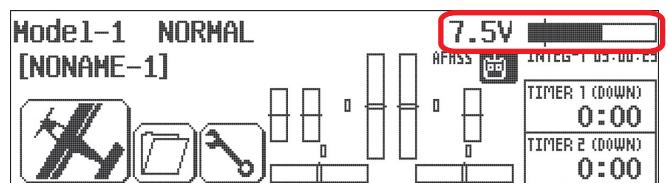
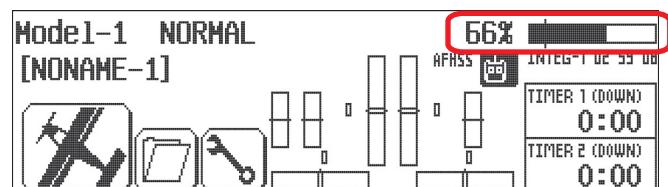
急速充電の電流は2A以下を推奨します。



注意：AUROLA9を充電す時は必ず送信機の電源をOFFにしてください。

Li-po電池の使用：AUROLA9はLi-po電池2セル（7.4V）を使用する事ができます。ただし使用改造はお客様の責任において行ってください。電池極性の逆配線による故障は保障されません。

LCD画面の電源メーター  
電源のバーグラフはタッチする事で電圧表示と残量表示に切替できます。  
お好きな表示タイプをお選びください。



送信機にLi-po電池を使用する場合は絶対に家庭用充電器は接続しないでください。  
最悪の場合Li-po電池が破裂して火災を起こし危険です。

## 周波数帯の変更

AOUROLA9は2.4GHzでの販売ですがRFモジュールを変更すると72MHz帯での使用が可能です。  
(2010年4月現在、日本未発売)

## スペクトラ プロ 72MHz RFモジュール

スペクトラプロはシンセサイザRFモジュールで送信機LCD画面で直接バンドを選択することができます。Modulation (変調) をPPMに設定すれば多くのFM受信機が動作します。QPCMはHitec QPCM受信機を動作させます。

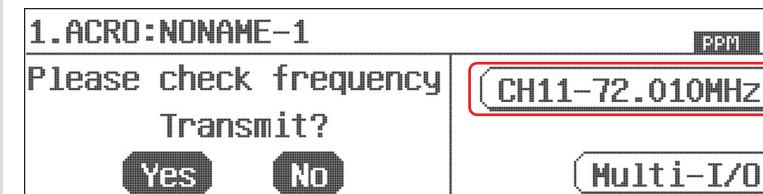
## RFモジュール交換時の注意

- ・送信機の電源をOFFにしてください。
- ・送信機背面の接続ピンを曲げないようにRFモジュールのピン穴に合わせて慎重に入れてください。

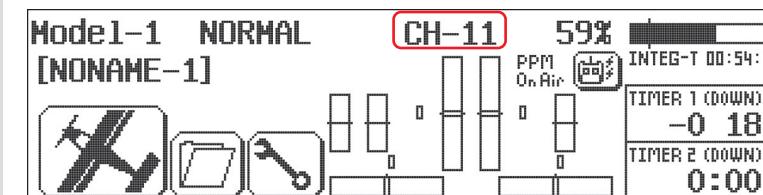


信号変調方式 (Moulation) が受信機に合わせ、PPMかQPCMか確認してください。

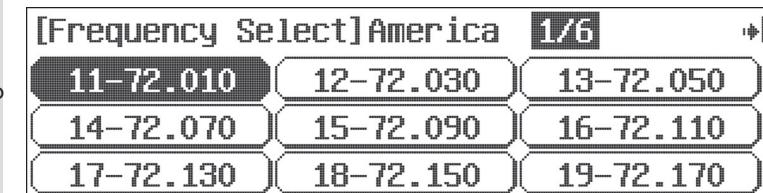
1 : 最初の画面でバンド (チャンネル) アイコンをタッチします。



2 : ホームスクリーン画面でバンド アイコンをタッチします。



3 : システムメニューの (Frequency Select) 画面で希望する バンドをタッチします。

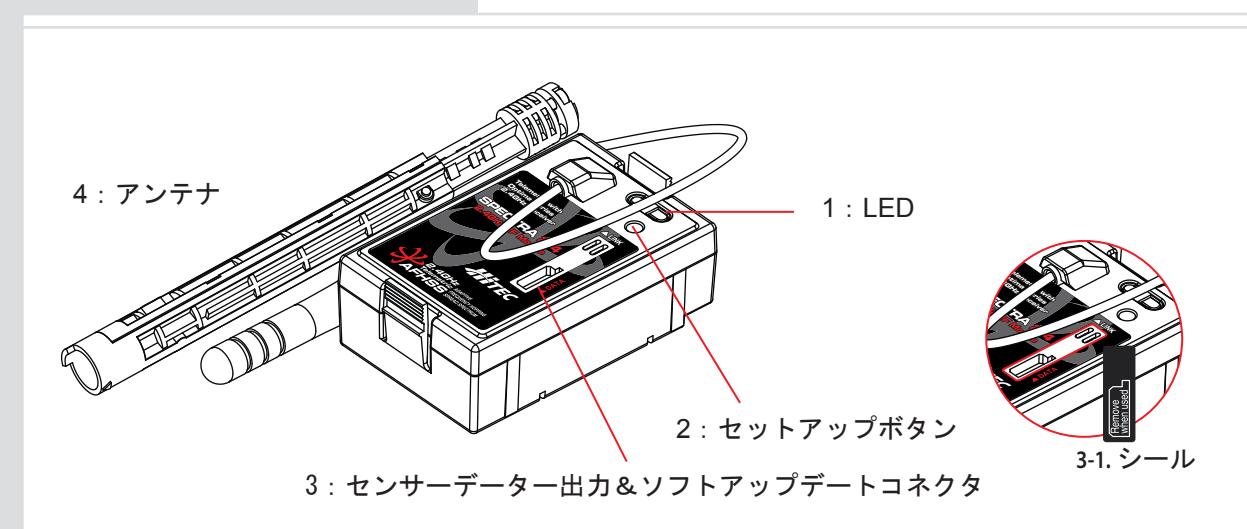


P57にバンド変更の詳細説明があります。

## 2.4GHz システム セットアップ

## スペクトラ2.4GHz RFモジュールの概要

- 1 : 青&赤 表示LED  
セットアップや状態表示を分かりやすく表示します。
- 2 : セットアップボタン  
バインド設定や距離テスト用の出力ダウンモードに設定を行います。
- 3 : センサーデーター出力 & ソフトアップデートコネクタ  
別売りPCインターフェイスアダプター (HPP-22) を接続してソフトウェアのアップデートや受信機からのセンサーステーションのデータを出力します。
- 4 : 角度調整式アンテナ  
従来のアンテナ部分に差込、アンテナを設置します。



## オプティマ シリーズ受信機の概要

- 1 : テレメトリーセンサー&システムポート  
別売りPCインターフェイスアダプター (HPP-22) を接続してソフトウェアのアップデートや別売りセンサーステーションを接続します。
- 2 : 青&赤 表示LED  
セットアップや状態表示を分かりやすく表示します。
- 3 : セットアップボタン  
バインド設定や距離テスト用の出力ダウンモードに設定を行います。
- 4 : ブーストアンテナ  
従来の2.4GHzアンテナに比較して2倍の広範囲な受信&送信範囲を持ちます。

## 2.4GHz システム セットアップ

## 5 : SPC サプリメント電源システム

受信機はテレメトリーの為に電波を送信します。このために週費電流が190mA流れます。お使いのESCのBECの容量が少ない場合は動力用電池（4.8~35.0V）をこの端子に直接接続してください。受信機内部にDC-DCコンバーターが内蔵され安定した電源を受信部のみに供給します。

## 6 : サーボ&amp;電源コネクター

受信機サーボの電源バッテリーやジャイロ、ESCを接続します。

## 7 : ジャンパーコネクター

SPC電源システムを使用しない場合はこのジャンパーコネクタをSPCコネクタに差込みます。



接続するサーボの使用可能電圧範囲に注意してください。

## FHSSホッピング方式選択

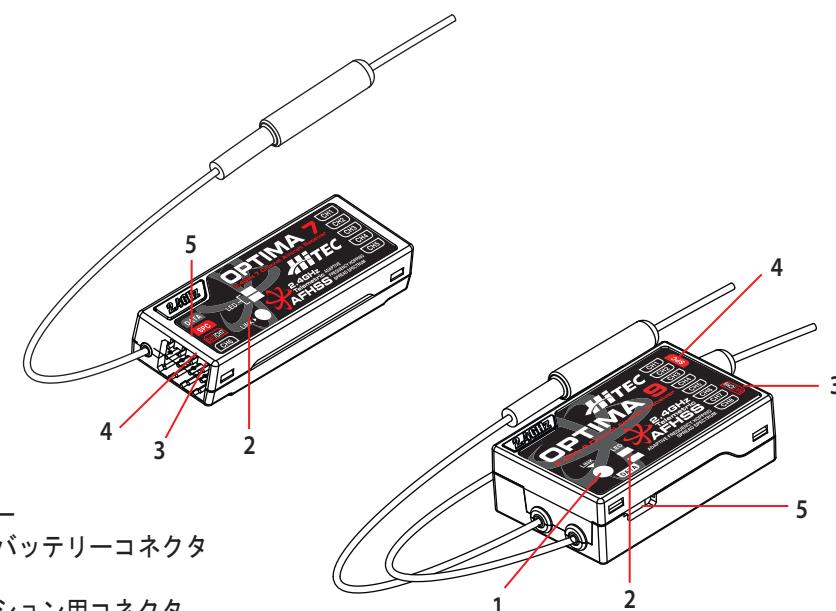
2.4GHzのホッピングモードを二通りに選択できます。（P19参照）

## フェイルセーフ機能

受信機が電波を正常に受信できなくなった時に各チャンネルのサーボを予め設定した位置に移動させる機能です。（P19参照）

## 受信機バッテリー電圧低下警告

受信機のバッテリーが低下した場合、送信機に知らせてアラームを鳴らします。



1 : セットアップボタン

2 : 2色LEDインジケーター

3 : サーボ&受信機サーボバッテリーコネクタ

4 : SPCコネクター

5 : 別売りセンサーステーション用コネクタ

※OPTIMA9の場合、2本のアンテナは先端の太い部分をお互いに90度に配置してください。

## 2.4GHz システム セットアップ

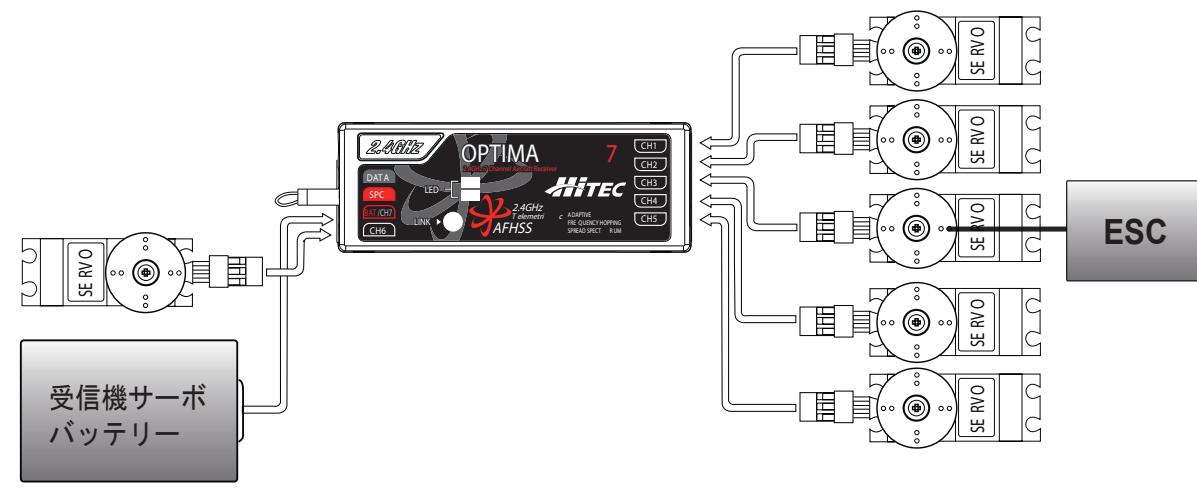
## 受信機 接続例

エンジン機、別電源でのESC（電動アンプ）接続例。

受信機サーボバッテリーは4.8~6.0V Ni-MH電池、又は2セルLi-po電池が使用できます。

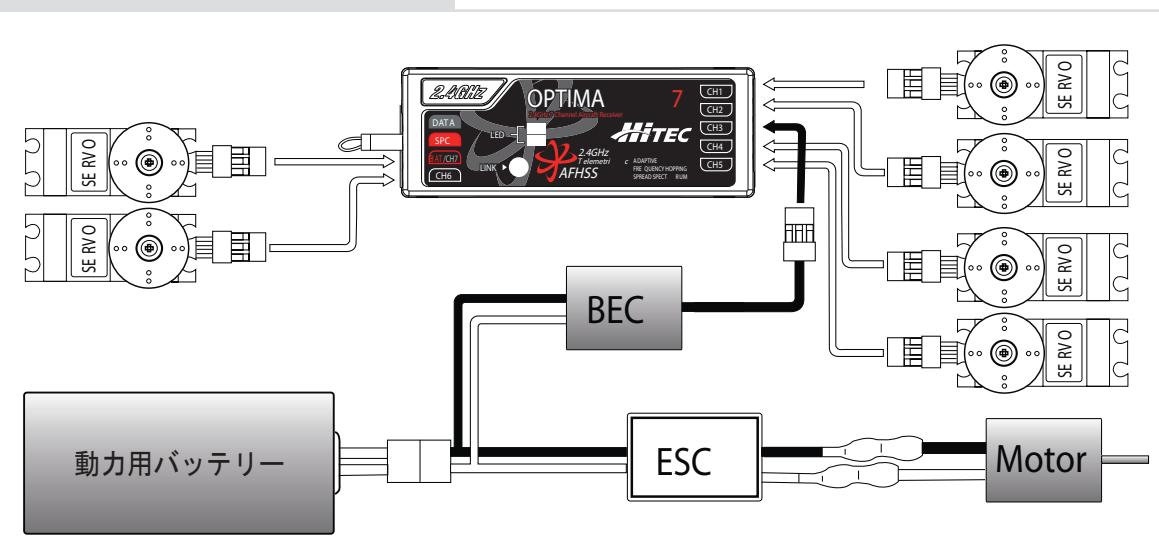


接続するサーボの使用可能電圧範囲に注意してください。



電動飛行機で外部BECで受信機サーボ電源を供給する場合。

デジタルサーボ使用でESCのBEC容量に不安のある場合



## 2.4GHz システム セットアップと使用方法



## 電源の入れ方の順序

ONにするとき：送信機をいONにして「YES」を押してから受信機をONにします。  
OFFにするとき：受信機を先にOFFにしてください。

## 飛行前の確認

エンジンスタートやモーターを回す前に必ず各サーボがスティックやスイッチ通りに動作するか確認してください。

## 距離テスト（レンジチェック）

安全の為に飛行前には「P20」のレンジチェックを毎回行ってください。



お買い上げのsetは工場でバインド登録が完了しています。  
新たに別の受信機を購入した場合はバインド登録作業が必要です。

## バインド（ID登録）の方法

## ノーマルモード

- 1: RFモジュールのセットアップボタンを押しながら送信機をONにして「YES」をタッチします。  
赤LEDが点滅したらボタンを離してください。
- 2: 受信機のセットアップボタンを押しながら受信機をONにします。赤LEDが点灯たらボタンを離します。するとRFモジュールの青LEDが点滅します。
- 3: 受信機→送信機の順で電源をOFFにします。
- 4: 送信機をONにして「YES」をタッチしますと赤LEDは点灯します。
- 5: 受信機をONにすると赤LEDが点灯した後にRFモジュールが短く4回鳴ります。
- 6: サーボが動作するようになります。

## スキャンモード

- 1: RFモジュールのセットアップボタンを押しながら送信機をONにして「YES」をタッチします。  
赤LEDが点滅したらボタンを離してください。
- 2: 受信機のセットアップボタンを押しながら受信機をONにします。赤LEDが点灯たらボタンを離します。そして送信機とリンクが確立すると赤青のLEDが点灯します。
- 3: 受信機→送信機の順で電源をOFFにします。
- 4: 送信機をONにして「YES」をタッチしますと赤LEDが点灯、青LEDは点滅します。
- 5: 受信機をONにすると赤LEDが点灯した後に青LEDも点灯します。  
後にRFモジュールが長いビープ音を出します。
- 6: サーボが動作するようになります。



バインド登録をする際は付近に無線LAN等の2.4G機器が無いところで行ってください。  
また送信機と受信機の間隔は45cm~5m以内の距離で作業してください。



スキャンモードの場合、送受信間にホッピングするバンド情報が毎回更新されます。  
ですので送信、受信機の電源が片方OFFにした場合、ONにしただけでは動作しません。  
送信機と受信機の電源の再投入（リブート）が必要です。

## 2.4GHz システム セットアップと使用方法

## スキャンモード、ノーマルモードの切替

Hitec-AFHSS 2.4Gシステムの電波モードにはスキャンモードとノーマルモードの2種類があります。

## ●ノーマルモード

一般的なFHSS（周波数ホッピング）方式でバンドの混雑状況に関係なく電波を発射します。電波や電源によって送信機と受信機のリンクが途切れても再開されればサーボは動作を開始します。また電源ON後に直ぐに動作します。工場出荷時はノーマルモードになっています。

## ●スキャンモード

電波を発射する前に送信機と受信機でバンドの使用状況をスキャンしてバンドの空いている範囲を検出します。そして空いている範囲でFHSS方式で電波を発射する方式です。このモードはバンドの混雑によって操作が遅延する影響を極力排除する新方式のFHSSです。  
ただし送信機と受信機でバンドホッピング情報を通信しているので電波や電源によりリンクが途切れると送受信機の電源の再投入までサーボは動作しません。  
また、スキャン時間が必要なので電源ON後からサーボ動作まで時間が必要です。

## ノーマルモードからスキャンモードへの切替方法

- 1: 送信機→受信機の順でONにしてサーボ動作を確認します。
- 2: RFモジュールのセットアップボタンを6秒間押すと短く2回ビープ音が鳴りますので、その後にボタンを離します。
- 3: 約1秒後に1回ビープ音が鳴って赤青LEDが点灯します。
- 4: 受信機→送信機の順で電源をOFFにします。
- 5: 送信機、受信機の電源をONします。
- 6: スキャン完了後にリンク確立でサーボが動作開始します。

## スキャンモードからノーマルモードへの切替方法

- 1: 送信機→受信機の順でONにしてサーボ動作を確認します。
- 2: RFモジュールのセットアップボタンを6秒間押すと短く2回ビープ音が鳴りますので、その後にボタンを離します。
- 3: 約1秒後に2回ビープ音が鳴って赤LEDがだけが点灯になります。
- 4: 受信機→送信機の順で電源をOFFにします。
- 5: 送信機、受信機の電源をONします。
- 6: スキャン完了後にリンク確立でサーボが動作開始します。



多くのFHSS送信機が使われている場所ではサーボの反応が遅いと感じる時があります。これは2.4GHz帯の混雑によるものです。このような場合はノーマルモードよりスキャンモードを推奨します。  
ただし送信機と受信機のリンク確立時間はノーマルモードより必要です。

## 2.4GHz システム セットアップと使用方法

## フェイルセーフ&amp;ホールド モード

もしもの場合に備えフェイルセーフは必ず設定してください。  
特に電動モーターはフェイルセーフで停止させないと危険です。

## ・ フェイルセーフの設定方法

- 1: 送信機、受信機をONにしてサーボ動作を確認します。
- 2: 受信機のセットアップボタンを6秒間押して離すと赤と青のLEDが交互に点滅します。
- 3: その後5秒以内に送信機をフェイルセーフで希望するスティック＆スイッチ位置にします。5秒を過ぎると受信機のLEDは赤点灯になりフェイルセーフ位置は記憶されます。

## ・ フェイルセーフの確認

送信機、受信機を動作させているときに送信機をOFFにします。  
すると各サーボはフェイルセーフ位置に約1秒後に移動します。

## ・ フェイルセーフの解除（ホールドモードへ切替）

- 1: 送信機、受信機をONにしてサーボ動作を確認します。
- 2: 受信機のセットアップボタンを6秒間押して離すと赤と青のLEDが交互に点滅します。
- 3: その後、直ぐにボタンを再度押しますと赤LEDだけの点灯になりフェイルセーフは解除されます。

## ・ ホールドモードの確認

送信機、受信機を動作させているときに送信機をOFFにします。  
すると各サーボは送信機がOFFになった瞬間のスティック位置で固定（ホールド）されます。



一旦フェイルセーフを解除すると各サーボ位置は消去されます。  
飛行前に必ずフェイルセーフ位置を確認してください。

## レンジチェック機能（距離テスト用）

距離テストの為に送信機の出力をパワーダウンさせる機能です。

## ・ 使用方法

- 1: 送信機、受信機をONにしてサーボ動作を確認します。
- 2: RFモジュールのセットアップボタンを約3秒間押すとLEDが消えますのでボタンを離します。
- 3: 赤と青のLEDが素早く交互に点滅してビープ音が短く断続します。  
この状態が送信機のパワーダウン中です。
- 4: パワーダウンは安全上90秒しか持続しません。  
この間に約30mほど距離が届くか確認してください。
- 5: 飛行させる前には必ず、この距離テストを行ってください。



もしレンジチェックで30m以上到達しなかった場合は絶対に飛行させないでください。

## 9 CHANNEL 2.4GHz AIRCRAFT COMPUTER RADIO SYSTEM

## 2.4GHz システム セットアップと使用方法

## ・ テレメトリーシステム

受信機から各データーがダイレクトに送信機にフィードバックされる双方向通信システムです。  
今後センサーステーションの発売により色々な機体の情報が手元でリアルタイムに監視できるようになります。センサーシステムの情報は当社WEBサイトで発表します。

## ・ 受信機電源の電圧低下警告

現在標準で受信機に装備されています電源電圧の検出機能はバッテリーのセル数を自動的に検出します。以下の電圧の場合、ビープ音で電圧低下を知らせると同時にRFモジュールのLEDが青点灯、赤点滅の表示になります。

## 警告電圧

- 4セルNi-MH 4.5V以下
- 5セルNi-MH 5.6V以下

2セルのLi-poを受信機に使用する場合は別売りの「HPP-22」で警告電圧を設定変更してください。



2.4Gシステムと高電圧(HV)対応サーボを使用する際は必ず高容量のバッテリーを満充電でご使用ください、そして受信機電圧は常に注意を払ってください。

## ・ SPCサプリメント電源コネクタ

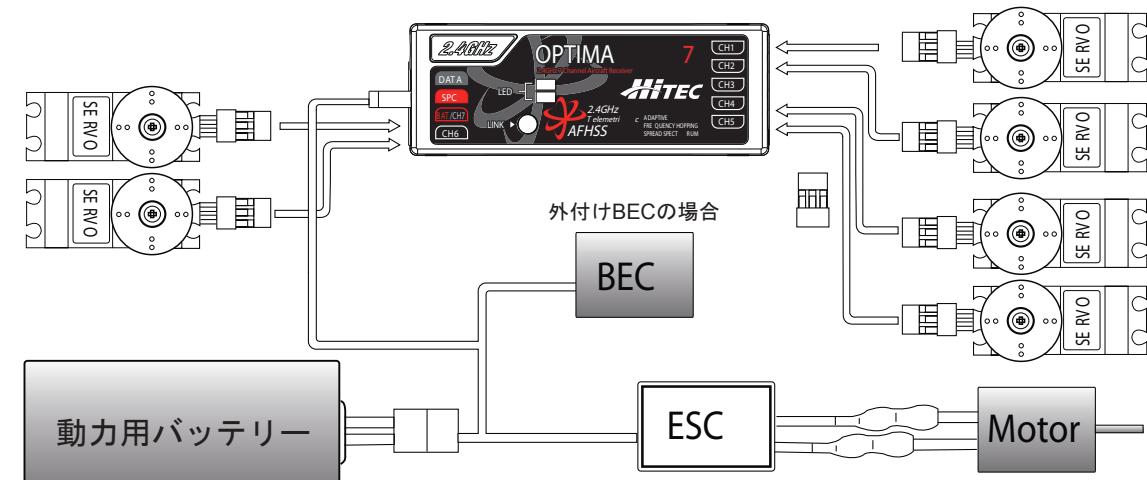
受信機はテレメトリーの為に電波を送信します。このために消費電流が190mA流れます。  
お使いのESCのBECの容量が少ない場合は動力用電池(4.8~35.0V)をこの端子に直接接続してください。

受信機内部にDC-DCコンバーターが内蔵され安定した電源を受信部のみに供給します。  
しかしサーボへは供給されませんのでサーボ用電源をESCのBECか外付けBECで供給してください。



7.4V対応のサーボがハイテック製でも数種類ありますが、使用可能電圧の違うサーボを混載してご使用になる場合は低いものに合わせて受信機用バッテリーをお選びください。  
BECの場合も同じように設定をしてください。

## SPC電源システムの接続例



AUROLA9 アクセサリー

各種アクセサリーを用意してございます。

●高周波モジュール

- ・SPECTRA 2.4 AFHSS RFモジュール #28321

●送信機バッテリー

- ・7.2V 6N1300mAh Ni-MHバッテリー #54128

●受信機

- ・7チャンネル OPTIMA7 #28415
- ・9チャンネル OPTIMA9 #28426



Warning

2.4Gの受信機にはヘビーデューティスイッチハーネス(大電流用)を必ずご使用ください。(#54407S)

●HPP-22 PCインターフェイス

- ・AUROLAのシステムバージョンアップやデーター転送に使用します。 #44470

●ネックストラップ #58311

首かけストラップです。

●トレーナーコード #58321

2台の送信機で教習を行う時に使用します。

●サーボ用ケーブル

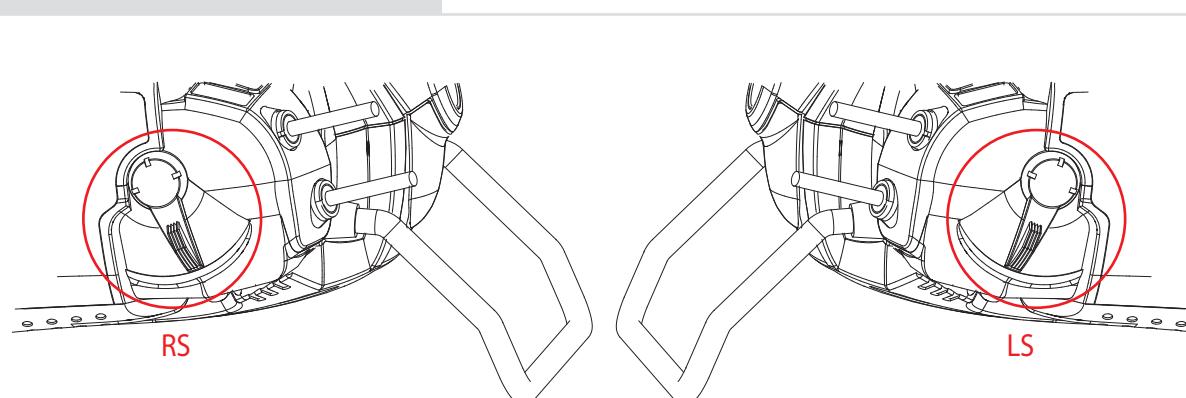
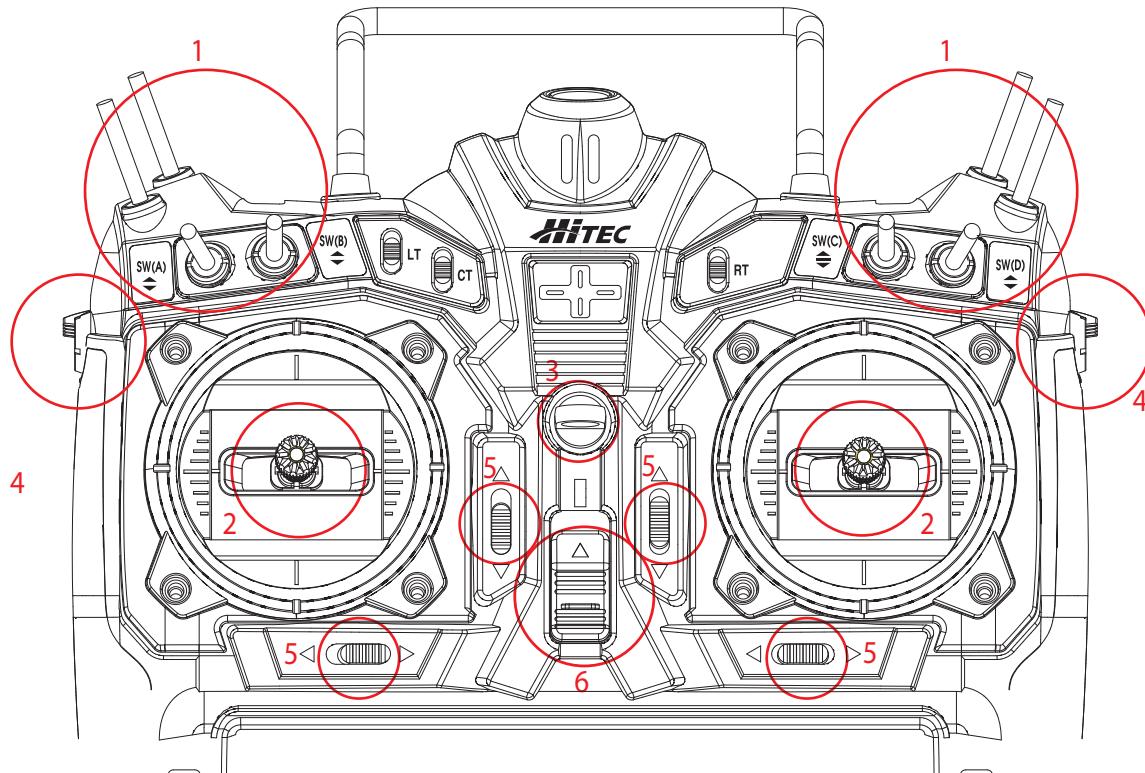
延長コードや二股コード、電流容量も各種用意してございます。  
純正品は有数プロポメーカー以外の製品に比べ確実なコネクタ接点構造を持ち線材も高品質です。大切な機体の安全の為に純正品を強く推奨します。

●サーボ

Hirec製品以外にも「1.5mS」ニュートラルの全サーボが使用できます。

送信機各部名称

1:A,B,C,D,E,F,G,H スイッチ 2:J1, J2, J3, J4 スティック  
3:首賀用ホルダー 4:LS, RS サイドレバー  
5:T1, T2, T3, T4, トリム 6:電源スイッチ



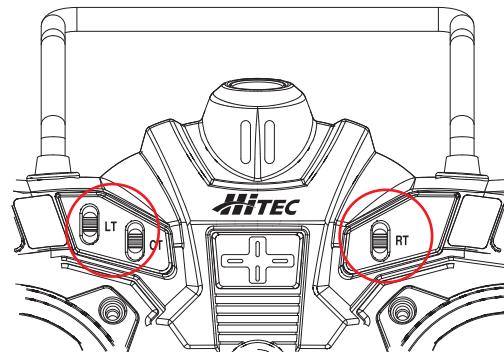
サイドレバー

側面のスライドレバーはスティックのようなアナログ操作に利用できます。  
役割の割り当ては自由に選ぶことが可能です。

## 送信機各部の名称

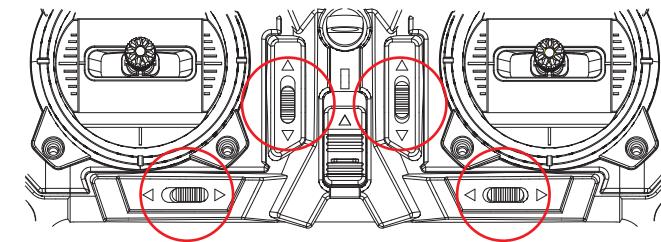
## ●デジタルスイッチ LT,CT,RT

このデジタルスイッチはホバリングピッチやフラップ操作など、細かな位置調整に利用できます。位置はLCD画面に表示されます。



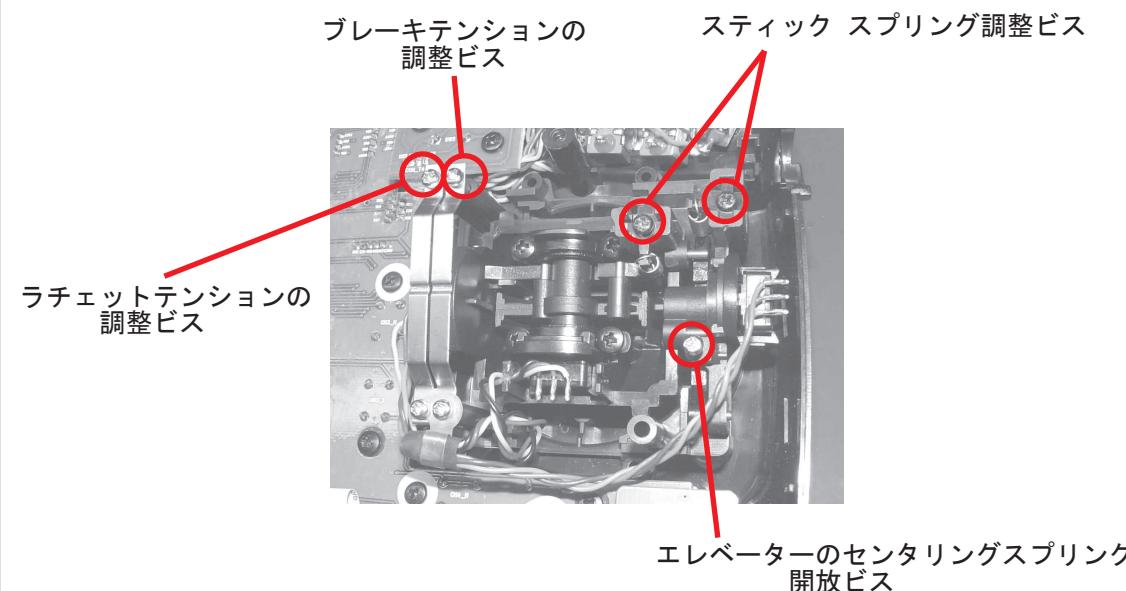
## ●デジタルトリム

各スティックにはデジタル式のトリムが装備されています。ステップ毎にビープ音が鳴りますがセンター位置を通過した時と端一杯すると音が変化して画面を見なくても確認できます。各トリム位置はモデルメモリー毎に記憶されます。トリム位置はLCD画面に表示されます。



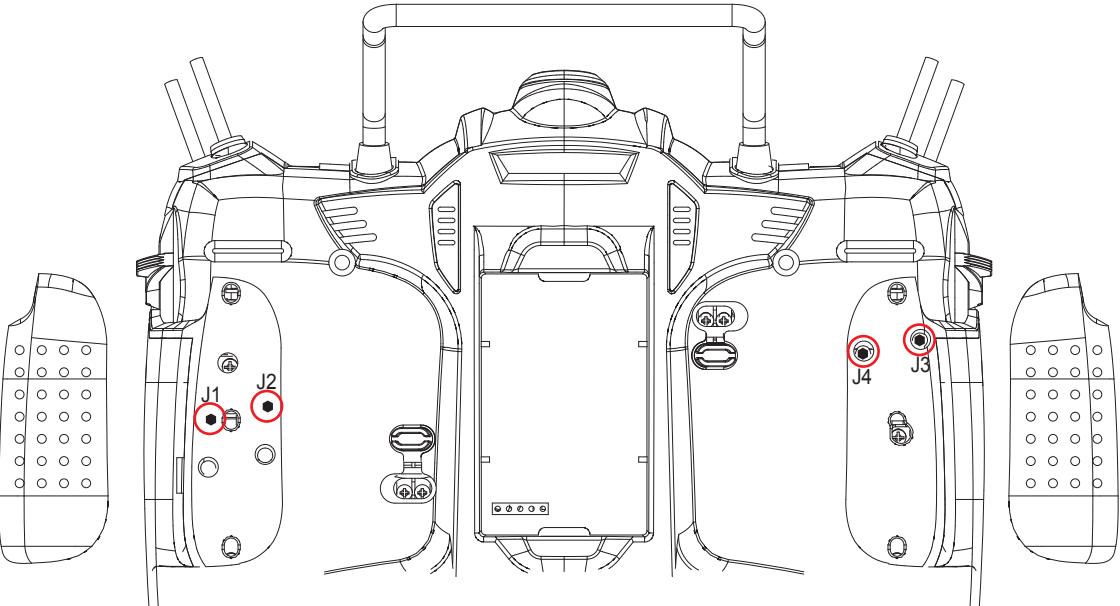
## ●スティックの構造

AUROLA9は他社に無い独自な構造で、ラチェットやブレーキ、センタリングの選択、そしてスプリング調整が裏ケースを開ける事無く可能になっています。



## 送信機各部の名称

## ●スティックのスプリング調整

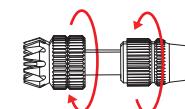


- 1: ケース背面のラバーパッドを取り外します。
- 2: 適合するドライバを穴にあわせ入れて慎重に調整します。
- 3: 右回転でテンションは強くなり、左回転で弱くなります。
- 4: 調整が完了したらラバーパッドを取り付けます。

注意：テンション調整が変化しなくなる範囲はビスを回さないでください。  
回しすぎるとスプリングが外れたり、部品が破損する事があります。

## ●スティックヘッドの長さ調整

図のようにダブルナット方式になっています。  
緩めてから長さを調整して締めて固定します。



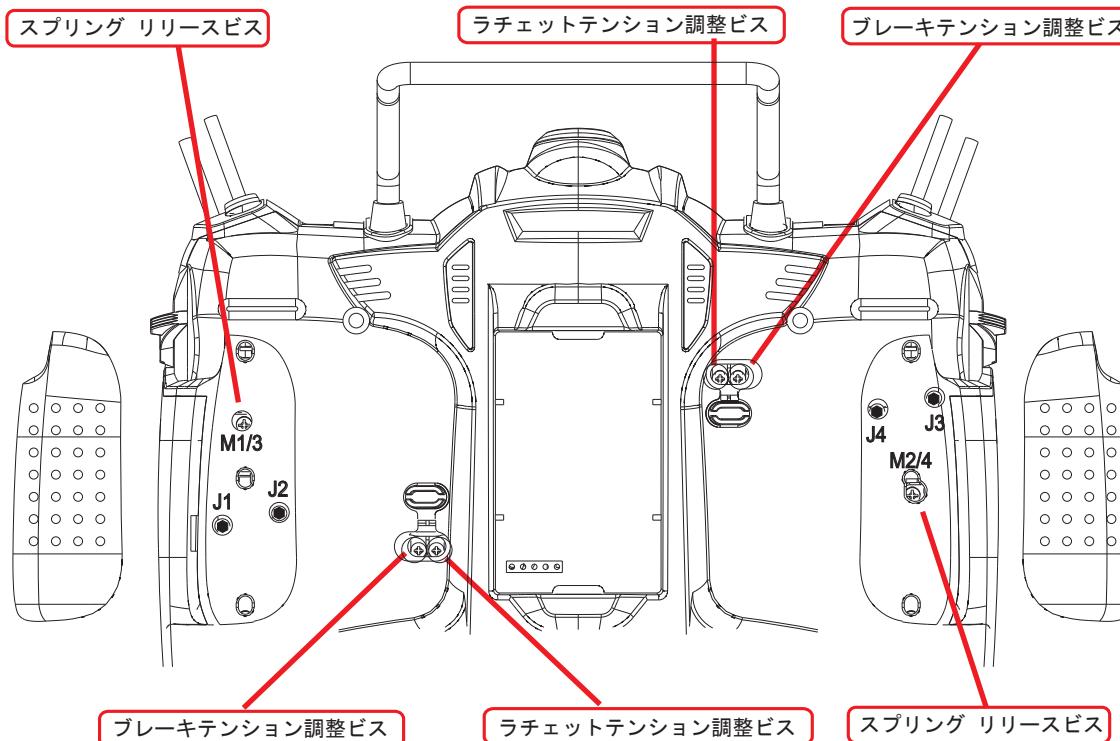
## 送信機各部の名称

## ●ステイックモードの変更

AUROLA9は裏蓋を開ける事なくスティックのスプリング開放やラチエット&ブレーキ調整が可能です。（P-24参照）

## 手順（モード1→2の場合）

- 1: ケース背面のラバーグリップを取り外します。
- 2: 裏面を見て左側スティックの「ラチエットテンション調整ビス」と「ブレーキテンション調整ビス」を左回転させると各テンションが弱まり接触を感じなくなります。  
注意：テンションを感じなくなった後も無用にビスを回しますと部品が外れる恐れがあります。  
感触の変化の無い領域ではビスを不用意に回さないでください。
- 3: 同じく左側の「スプリングリリースビス」を左回転するとスティック動作範囲の端からスプリングによるセンタリング範囲が狭まってきます。
- 4: スプリングでしっかりと中立が出るところまでビスを回転させます。  
注意：中立が出た後に不用意にビスを回転させるとビスが脱落する恐れがあります。  
感触の変化の無い領域ではビスを不用意に回さないでください。
- 5: 次に背面から見て右側のスティックに上記と逆の作業を行います。
- 6: 右側の「スプリングリリースビス」を右回転するとスティックのセンタリング範囲が広がります。  
スティックの動作範囲にスプリングのテンションを感じなくなる箇所までビスを回します。
- 7: 右側スティックの「ラチエットテンション調整ビス」と「ブレーキテンション調整ビス」の希望する方のビス右回転させてしめ込んでいきます。希望する感触位置でビス回転を止めます。
- 8: これでスティックは機械的に変更されました。
- 9: スティック機構の変更後は「P-63」を参照してLCD画面での電気的なモード切替を行ってください。  
モード切替はモード1や2だけでなく3や4も可能です。



## 電源投入後の初期画面

電源をONにした後の初期画面はRFモジュールの種類によって二通りあります。

## ●2.4GHz モード

- ・最上段には選択されているモデルNoと名前が表示されます。
- ・右上にFHSSの表示とノーマルモードかスキャンモードの表示があります。

・電波の送信を行う時は「YES」  
電波を出さずに設定を行うときは「NO」をタッチします。

1.ACRO:NONAME-1

Please check frequency  
Transmit?

Yes No



## ●72MHz モード

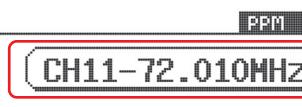
- ・最上段には選択されているモデルNoと名前が表示されます。
- ・右上に変調方式の表示と選択されているバンド周波数が表示されます。

・電波の送信を行う時は「YES」  
電波を出さずに設定を行うときは「NO」をタッチします。

1.ACRO:NONAME-1

Please check frequency  
Transmit?

Yes No



## 電源投入後の初期画面

## マルチ I/O ポート

将来のもう一つの機能でトレーナーケーブルやPCと接続されている場合に、この表示が出ます。

## ●マルチI/Oポートスクリーン

- ・トレーナーケーブルや「HPP-22」PCインターフェイスを接続する場合は電源がOFFのときに接続してください。
- ・次に送信機の電源をONにします。
- ・アイコンをタッチします。

- ・データー転送を送信機やPCと行う場合は「Data tran」をタッチします。
- ・教習モードで生徒側を選択する場合「T. Pupil」をタッチします。

1.ACRO:NONAME-1

Please check frequency  
Transmit?

Yes No



[Multi-I/O]

DataTran T.Pupil

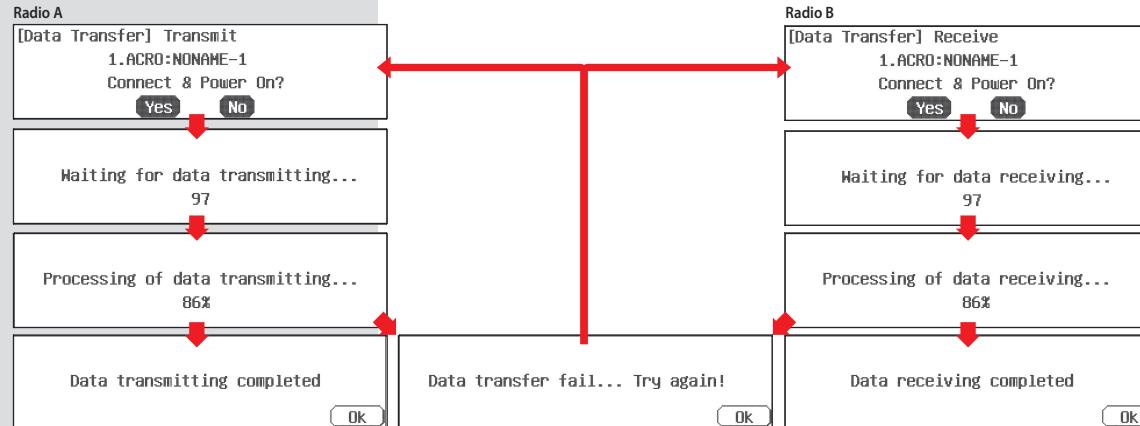


トレーナーケーブルでの生徒側は多少の機能制限を受けます。

## ホームスクリーン画面 説明

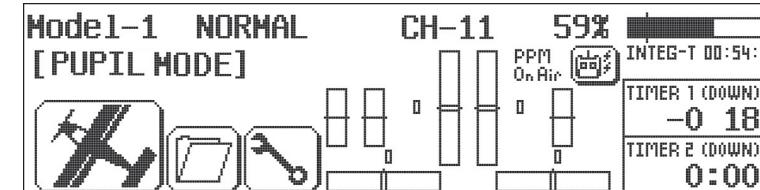
## ●データー転送機能

「Data Tran」を選択した場合、トーラーネーケーブルでAURORA9間のデータの転送が可能です。



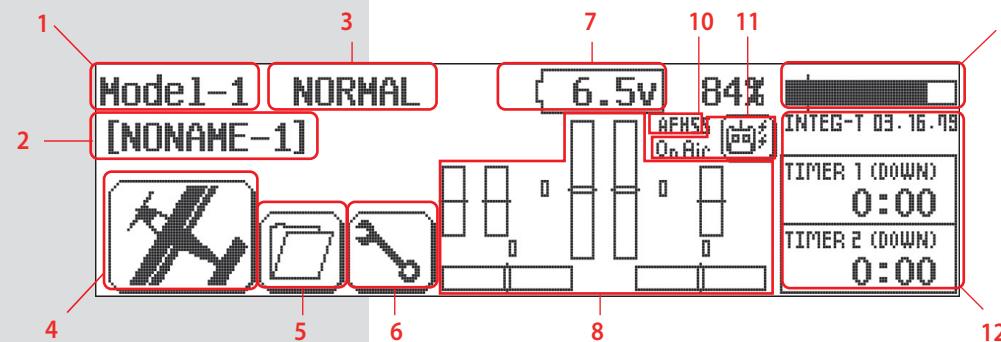
## ●教習モード生徒側

生徒側の送信機の画面です。  
生徒側は専用のモードになり機能は  
使用不可となります。  
詳しくは「P-60」を参照ください。



## ●ホームスクリーン画面説明

画面の各アイコンをタッチするとその関連する設定画面へ進みます。主なアイコンを覚えてください。



## 1: モデルNo

現在選択されているモデルメモリーの番号です。1~30番まで登録できます。

## ホームスクリーン画面 説明

## 2: モデルネーム

現在のモデルメモリーの名称です。タッチするとモデル切替画面に進みます。

## 3: フライトコンディション表示

現在、選択されているフライトコンディションの名称です。  
タッチするとフライトコンディション設定画面に進みます。

## 4: ウイングタイプ表示

このアイコンをタッチするとモデルファンクションメニューに進みます。

## 5: カスタムフォルダー

良く使用する機能を、このカスタムフォルダーに登録できます。

## 6: システムメニュー

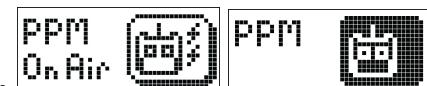
このアイコンをタッチすると基本システム機能が入っているシステムメニューに進みます。

## 7: 受信機電圧の表示

このアイコンをタッチすると受信機に接続したセンサーステーション（別売）の画面に進みます。

## 8: デジタルトリム、&amp;デジタルスイッチ表示

このアイコンをタッチするとサブトリム画面に進みます。



## 9: 電源電圧表示

このアイコンをタッチすると電圧数値表示が残量表示に切り替わります。

## 10: 信号変調モード表示

2.4GHzは「AFHSS」72MHzは「PPM」もしくは「QPCM」が出ます。

## 11: 電波送信状況

アイコンが黒の場合は電波は出ていません。

「OnAir」が出て白いアイコンの時に電波は発射されています。

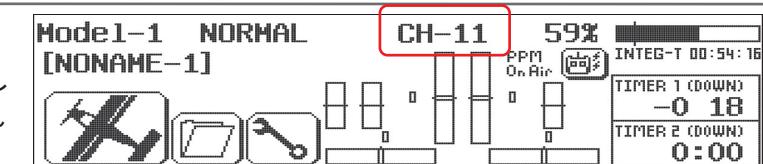
## 12: タイマー表示

二種類のタイマーが表示されます。タッチするとタイマー設定が出来ます。

## 72MHz モジュールの画面

## 13: バンドNo

これは72MHzモジュールを使用し  
た時のみ表示されます。選択され  
ているバンド（周波数）



が表示され、タッチするとバンド切替画面に進みます。

## クイックスタートガイド（アクロ）

一般的な機体を例にしたクイックセットアップガイドです。

AOUROLA9の操作を簡単に習得できます。



もし機体タイプでグライダーを選んだ場合、アクロと重複する機能名が出てきます。

## ●受信機のサーボ接続チャンネル

## 単発エンジン-2エルロンの機体例

CH1 : エルロン-1  
CH2 : エレベーター  
CH3 : スロットル  
CH4 : ラダー  
CH5 : エルロン-2

## 2チャンネルグライダー（動力無し）

CH1 : エルロン又はラダー  
CH2 : エレベーター



安全の為に電動機体のセットアップ中はプロペラを外してください。

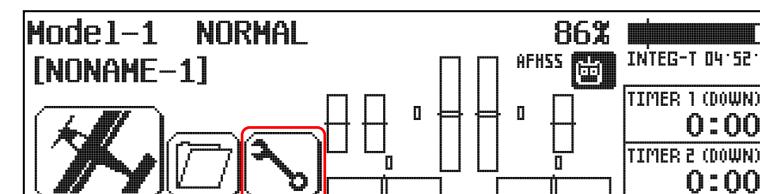
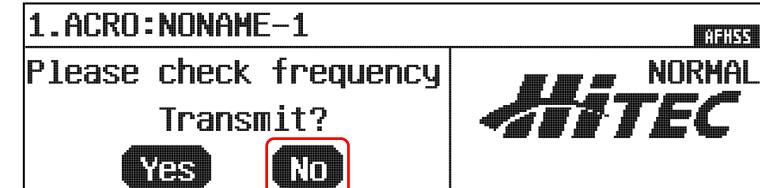
## システムメニューの設定

1 : 送信機の電源をONにします。  
(受信機はOFF)

2 : 最初に電波を出して良いか聞いてくるので「No」をタッチします。

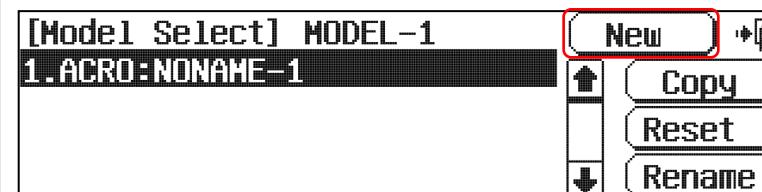
3 : これはホームスクリーン画面です。  
レンチのアイコンをタッチしてシステムメニューに進みます。

4 : 他のアイコンには触れないで「MDL Sel」アイコンをタッチします。



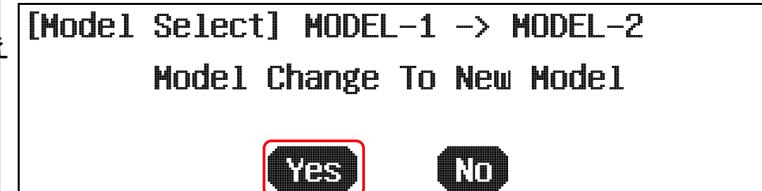
## システムメニューの設定

5 : モデル選択画面で「New」をタッチして新しいモデルを作成します。



練習の為に、新たなモデルメモリーを新設してトレーニングします。

6 : 新しく作るモデルメモリーに切り替えて良いか聞いてくるので「Yes」をタッチします。

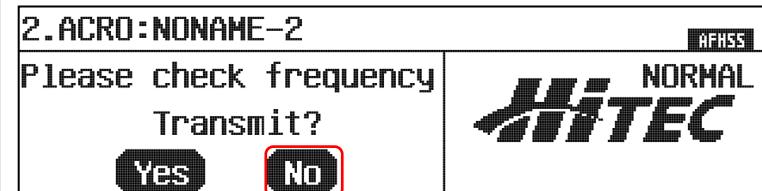


7 : モデル名称の入力画面で機体名を入力します。

- Shiftで数字記号の表示になります。
- CapsLockで大文字、小文字の表示になります。
- 完了したら「Enter」をタッチします。



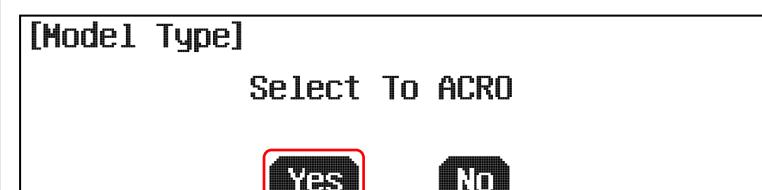
8 : 電波の発射を聞いてきますが、未だ設定は完了していないので「No」をタッチします。



9 : 機体タイプ選択画面が表示されますので「ACRO」をタッチします。



10 : 機体タイプの確認画面になりますので「Yes」をタッチします。



## システムメニューの設定

11：主翼のタイプを選択します。

[Wing Type]        



「1/2」の表示が出ている場合、続きのページがある事を表します。  
この「1/2」アイコンをタッチすると次ページに進めます。

ここで例はエルロンサーボ1個「1AILE」をタッチしますが  
機体がセパレートの2エルロンサーボの場合は「2AILE」を  
タッチして選択して「SET」アイコンでのタッチで完了します。



主翼タイプの選択によって、後の不要なメニューは自動的に表示されません。

12：尾翼のタイプを選択します。

- 「Normal」をタッチして  
「SET」で完了します。

[Tail Type]    

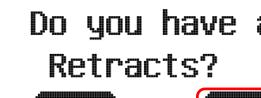
13：エンジンの数を選択します。

- 「Single Engine」をタッチして  
「SET」で完了です。

[Engine Type]   

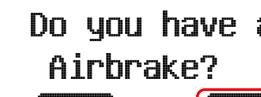
14：引込脚の有無を選択します。

- 「No」をタッチします。

[Retracts]   

15：エアブレーキの有無を選択します。

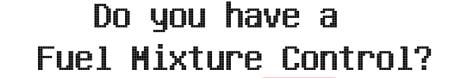
- 「No」をタッチします。

[Airbrake]   

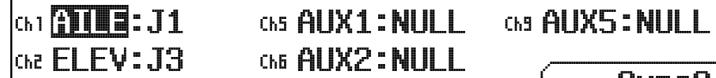
## システムメニューの設定

16：フーエルミクスチャーの有無を選択します。

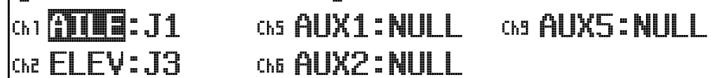
「No」をタッチします。

[Fuel Mixture]   

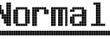
17：各サーボをどのスティックや  
スイッチ、レバーで操作するかの  
設定画面（Channel Function）に  
なります。ここでは表示のままでOK  
なので「Yes」をタッチします。

[Channel Function]     

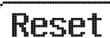
18：設定を確認したら画面右上の  
「EXIT」ドアアイコンをタッチします。

[Channel Function]     

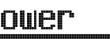
19：ここまで設定したモデルタイプが  
表示されますので確認します。  
OKで有れば「EXIT」アイコンを  
タッチしてモデルセレクト画面に  
戻ります。

[Model Type]     

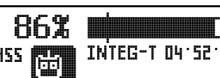
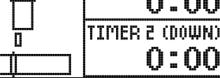
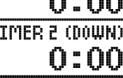
20：モデルセレクト（選択）画面を  
確認して「EXIT」アイコンをタッチ  
します。

[Model Select] MODEL-2        

21：システムメニュー画面に戻りました  
ので、再度「EXIT」アイコンを  
タッチします。

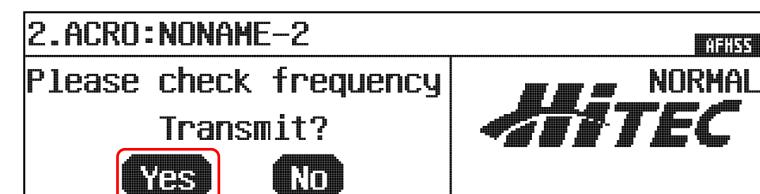
System Model Custom            

22：ホームメニュー画面に戻ります。  
少し間をおいてから電源をOFFに  
すると設定は完了します。

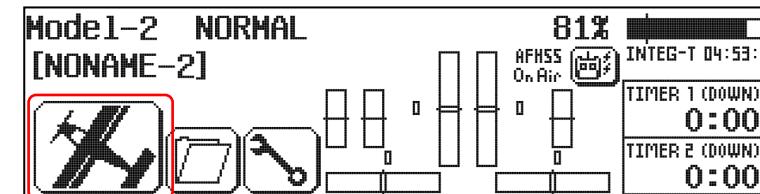
Model-2 NORMAL   INTEG-T 04-52-17  

## システムメニューの設定

23：送信機の電源をONにして「Yes」をタッチして電波を発射します。



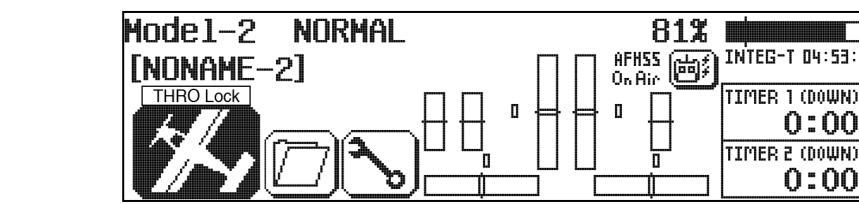
24：ホームスクリーン画面の左下のモデルアイコンをタッチしてモデルメニューに進みます。



## スロットルロック

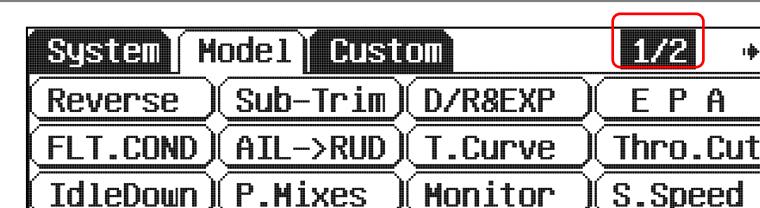
エンジンが始動した機体や電動機を離陸場所に移動中に誤ってスロットルスティックに触れてプロペラが不用意に回ってしまう事故を防ぐ為の機能です。

Tip

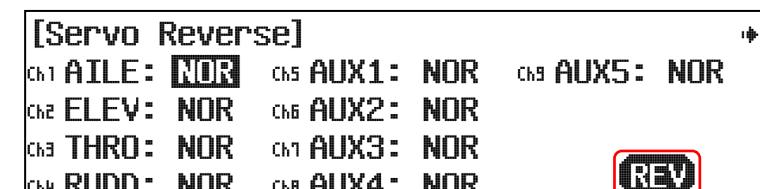


画面左下のモデルアイコンを1秒間押し続けるとアイコンは黒になり「THRO LOCK」マークが表示されます。スロットル位置はアイコンを押した時の位置に固定されます。

25：システムメニュー画面には設定した機体で利用できる全ての機能アイコンが収納されています。この画面は2ページあります。



26：システムメニューで「Reverse」アイコンをタッチしてサーボリバース画面を出します。



希望するチャンネルをタッチして「REV」アイコンで方向を設定します。完了したら「EXIT」アイコンで画面を抜けます。

## システムメニューの設定

27：サブトリム「Sub trim」画面を出します。

希望するチャンネルをタッチして選択します。

数値設定は「+・RST・-」アイコン部分で行います。RSTで数値は0に戻ります。

完了したら「EXIT」アイコンでメニュー画面に戻ります。

[Sub Trim]	
Ch1 AILE:	0
Ch2 ELEV:	0
Ch3 THRO:	0
Ch4 RUDD:	0
Ch5 AUX1:	0
Ch6 AUX2:	0
Ch7 AUX3:	0
Ch8 AUX4:	0

+ | RST | -



サブトリムはできるだけ多く使用しないように  
サーボホーンとリンクエジでニュートラルを合わせてください。



ここまで少しお疲れだと思いますが、「もう分かった」とやめずに  
残りの「EPA」や「Dual rate」、「EXPO」にも是非お進みください。

[End Point Adjustment]		1/2	
Ch1 AILE	Ch2 ELEV	Ch3 THRO	Ch4 RUDD
L 100%	D 100%	H 100%	L 100%
R 100%	U 100%	L 100%	R 100%

+ | RST | -

サーボの動作角度を左右別レベルに調整する機能です。

調整を希望するチャンネルをタッチしてスティック等を操作します。

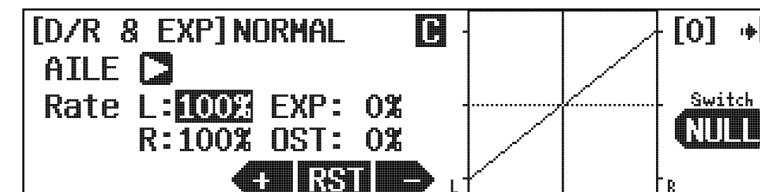
すると操作に合わせて数値が反転表示になりますので「+・RST・-」アイコンで数値調整します。

完了したら「EXIT」アイコンでシステムメニューに戻ります。

このEPA画面は2ページあります。

## システムメニューの設定

29: システムメニューから「D/R&EXP」画面を開きます。



この画面では「D/R」デュアルレートと「EXP」エクスボンシャルを設定できます。  
また切替スイッチの選択も行います。

「D/R」デュアルレートは2種類の舵角を切り替える事ができます。

(3Pスイッチを選択すれば3種類の舵角)

機体が離陸や着陸のときは大きな舵角、上空で高速飛行の時は少な目の舵角にすると良いでしょう。  
この「D/R」はスティック操作に対し左右（上下）別々に舵角が設定できます。

「EXP」エクスボンシャルはスティックの動作に対してサーボの動作にカーブを持たせて舵の効き方を変化させる機能です。

両機能共にスティックを操作すると画面右のグラフでサーボの動作を確認する事ができます。

画面で表示が反転している箇所の数値を「+ RST -」アイコンで調整できます。

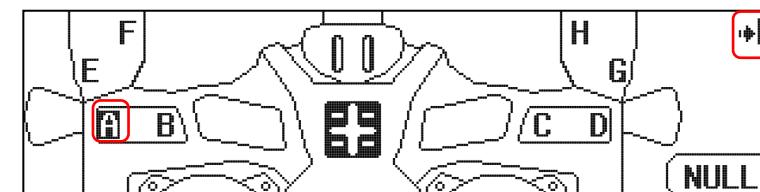
「D/R」はスティックを倒すと反転部分が移動して調整できる向きが変わります。

- 最初の画面はエルロンの調整です。
- 最初にL側とR側を舵角の数値を調整します。  
画面右で切替スイッチを設定していない場合は、この舵角が適用されます。
- 次にスイッチを割当てる為に画面右の「NULL」アイコンをタッチします。  
NULLとは何も選択されていないと言う意味です。

30: スイッチ設定画面になります  
ので「SEL」アイコンをタッチします。



31: 送信機上部のイラストが表示され好きなスイッチを選びタッチします。  
ここでは「A」スイッチを選びます。



スイッチ選択を解除する場合は「NULL」アイコンをタッチします。  
設定が完了したら「EXIT」アイコンで元の画面に戻ります。

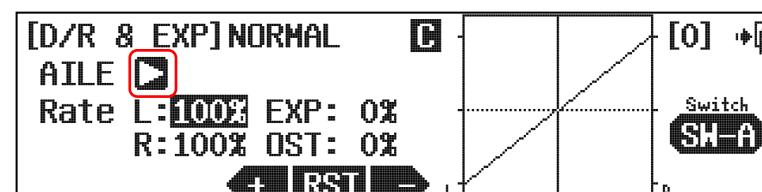
## システムメニューの設定

32: 最初の「D/R & EXP」画面を表示させます。

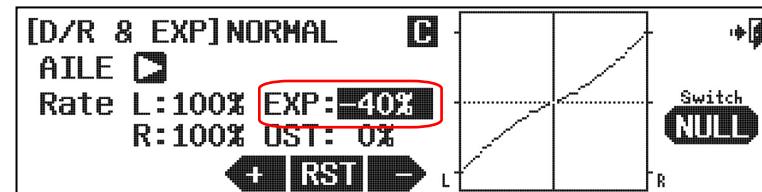
今までではエルロンの「D/R」を設定しましたので次にエレベーターの「D/R」を設定します。

- 画面の三角マークアイコンをタッチします、すると「AILE」表示が「ELEV」→「RUDD」と切り替ります。

33: エレベーターの画面もエルロン画面の時と同じように各設定を行います。  
切替スイッチを別にしたりエルロンとの共用にもできます。



34: 「EXP」エクスボンシャルの設定



画面の「EXP : 0%」のアイコンをタッチすると表示が反転してカーブの調整ができます。  
右側のグラフに、設定した一ブが表示されますのでスティックを操作しながら確認してください。

マイナス側の数値ではニュートラル付近の動作が少なくなり細かな操作が可能です。  
一方プラス側の数値はニュートラル付近の動作が急になりクイックな反応になります。

35: 「OST : 0%」と「C」アイコン  
これは高度な設定を行う時に  
使用しますのでここでは何も設定しません。



 Note この「D/R&EXP」設定はフライトコンディションごとに組合わせると多くの異なった設定が可能になります。

ここまで、ようやく飛行が可能な状態になりました！！

## クイックスタートガイド（ヘリ）

一般的なピッチコンヘリや120° CCPMヘリなどの機体を例にしたクイックセットアップガイドです。AOUROLA9の操作を簡単に習得できます。

## ●受信機のサーボ接続チャンネル

- CH1 : エルロン（ロールサイクリック）
- CH2 : エレベーター（ピッチサイクリック）
- CH3 : スロットル
- CH4 : ラダー（テールローターピッチ）
- CH5 : ジャイロ感度
- CH6 : コレクティブピッチ

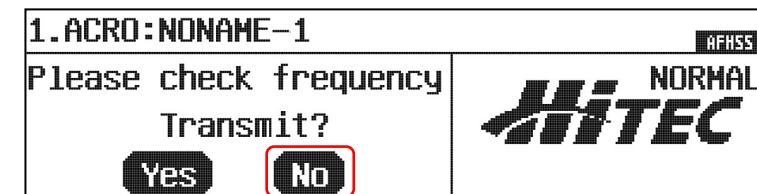
## システムメニューの設定

1: 送信機の電源をONにします。（受信機の電源は安全上OFFにします。）

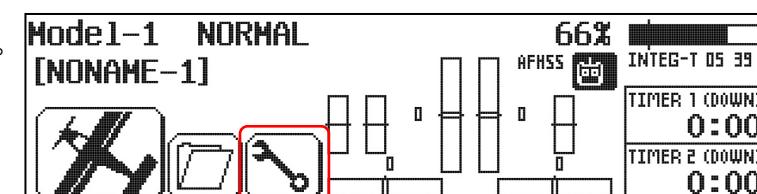


安全上、電動ヘリのセットアップ中、スピードコントローラーにモーターは絶対に接続しないでください。

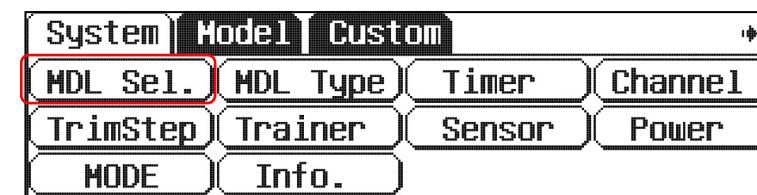
2: 最初の画面で「No」をタッチします。  
全ての設定が完了するまで電波は出さないでください。



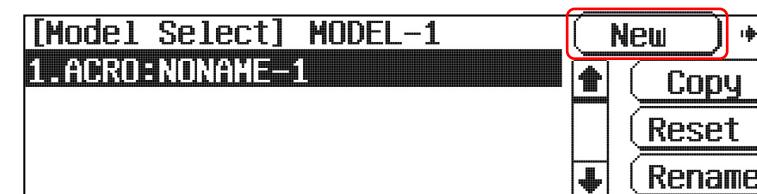
3: これはホームスクリーン画面です。  
レンチのアイコンをタッチしてシステムメニューに進みます。



4: 他のアイコンには触れないで  
「MDL Sel」アイコンをタッチします。



5: モデル選択画面で「New」をタッチして新しいモデルを作成します。



## システムメニューの設定

6: 新しく作るモデルメモリーに切り替えて良いか聞いてくるので「Yes」をタッチします。

[Model Select] MODEL-1 → MODEL-2

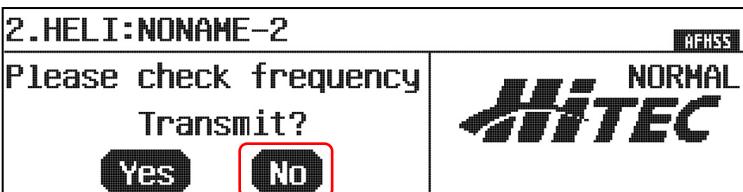
Model Change To New Model

**Yes** **No**

7: モデル名称の入力画面で機体名を入力します。  
・Shiftで数字記号の表示になります。  
・CapsLockで大文字、小文字の表示になります。  
・完了したら「Enter」をタッチします。



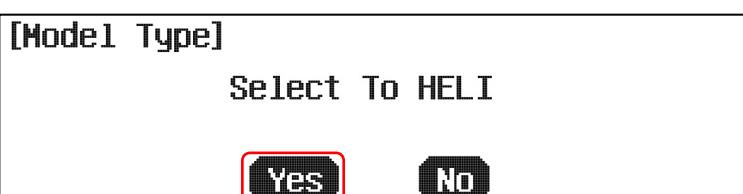
8: 電波の発射を聞いてきますが、未だ設定は完了していないので「No」をタッチします。



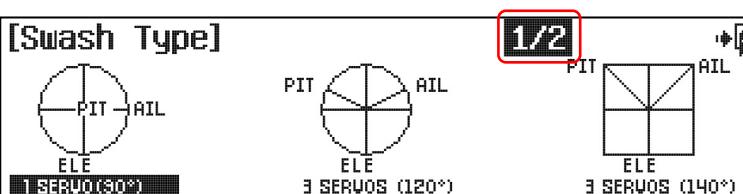
9: 機体タイプ選択画面が表示されますので「HELI」をタッチします。



10: 機体タイプの確認画面になりますので「Yes」をタッチします。



11: 機体のスワッシュプレートの種類を選択してタッチします。



このページは2ページあります。

## システムメニューの設定

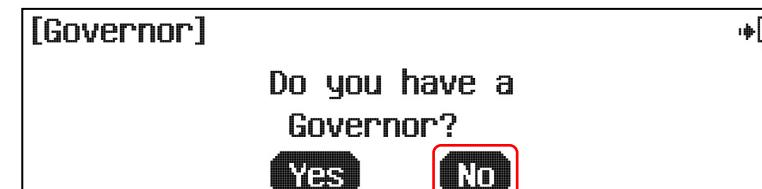


「1/2」の表示が出ている場合、続きのページがある事を表します。  
この「1/2」アイコンをタッチすると次ページに進めます。

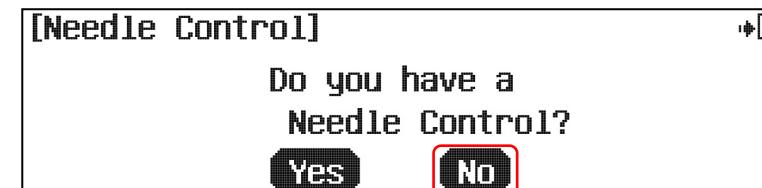


各選択によって、後の不要なメニューは自動的に表示されません。

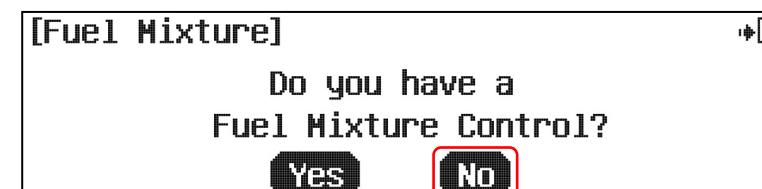
12：ガバナーの使用を聞いてきますので「No」をタッチします。



13：ニードルコントロールの使用を聞いてきますので「No」をタッチします。



14：フーエルミクスチャー使用を聞いてきますので「No」をタッチします。



15：各サーボをどのスティックやスイッチ、レバーで操作するかの設定画面（Channel Function）になります。ここでは表示のままでOKなので「Yes」をタッチします。

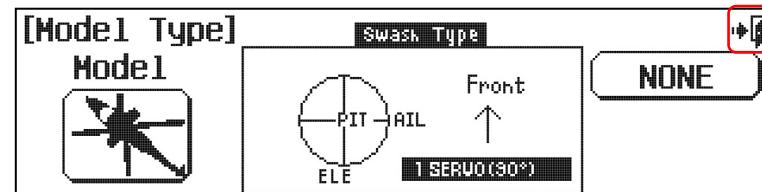


16：設定を確認したら画面右上の「EXIT」ドアアイコンをタッチします。

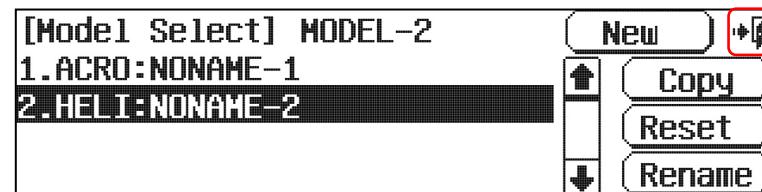


## システムメニューの設定

17：スワッシュタイプの確認画面になります。確認したら画面右上の「EXIT」アイコンをタッチします。



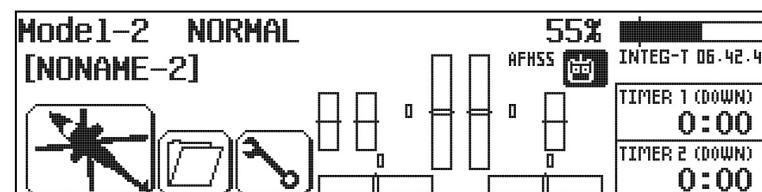
18：モデルセレクト（選択）画面を確認して「EXIT」アイコンをタッチします。



19：システムメニュー画面に戻りましたので、再度「EXIT」アイコンをタッチします。

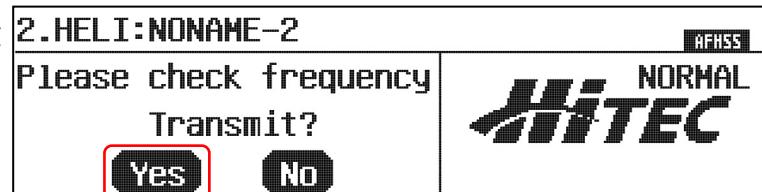


20：ホームメニュー画面に戻ります。少し間をおいてから電源をOFFにすると設定は完了します。

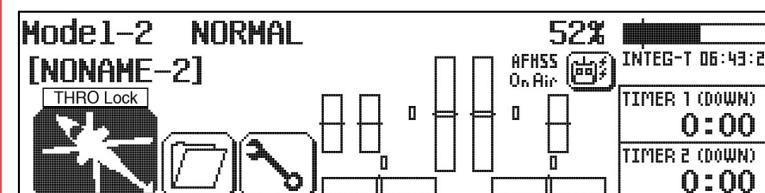


## モデルメニューの設定

21：送信機の電源を再投入すると電波の発射確認画面になりますので「Yes」をタッチしてサーボを動かします。



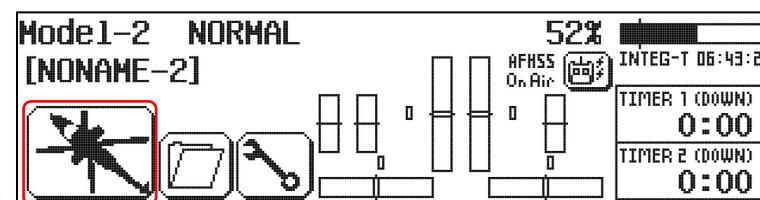
**スロットルロック**  
エンジンが始動した機体や電動機を離陸場所に移動中に誤ってスロットルスティックに触れてローターが不用意に回ってしまう事故を防ぐ為の機能です。



画面左下のモデルアイコンを1秒間押し続けるとアイコンは黒になり「THRO LOCK」マークが表示されまスロットル位置はアイコンを押した時の位置に固定されます。

## モデルメニューの設定

22: ホームスクリーン画面の左下のヘリマークのアイコンをタッチするとモデルメニューに進みます。



23: モデルメニュー画面は設定した機体で利用できる全ての機能アイコンが収納されています。この画面は2ページあります。



Warning  
送信機のスティックを操作してもサーボ動作の端端でリンクエージがロックしない事を確認してください。ロックしている場合はリンクエージを再調整してください。ロックしたままですとサーボが故障します。

このヘリでは以下の機能が使用できます。

Reverse	サーボの回転方向を変更します。
Sub-Trim	サーボのニュートラル位置を細かく調整します。
EPA	サーボの左右（上下）の舵角を別々に調整します。
Gyro	ジャイロの感度調整/切替を設定します。
Pitch Curve	ピッチの動作カーブを自在に設定します。
Throttle Curve	スロットルの動作カーブを自在に設定します。
D/R&EXP	デュアルレート/エクスパンション（カーブ）の調整を行います。

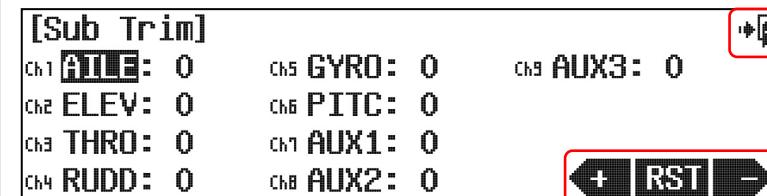
24: システムメニューで「Reverse」アイコンをタッチしてサーボリバース画面を出します。



希望するチャンネルをタッチして「REV」アイコンで方向を設定します。確認アイコンが出ますので「Yes」をタッチします。完了したら「EXIT」アイコンで画面を抜けます。

## モデルメニューの設定

27: サブトリム「Sub trim」画面を出します。

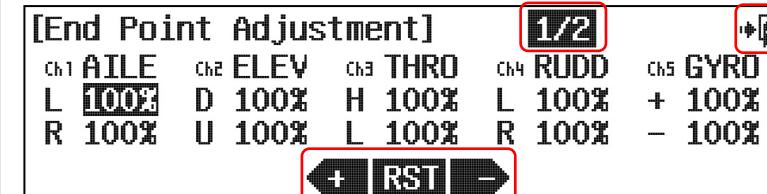


希望するチャンネルをタッチして選択します。数値設定は「+・RST・-」アイコン部分で行いRSTで数値は0に戻ります。完了したら「EXIT」アイコンでメニュー画面に戻ります。



サブトリムはできるだけ多く使用しないようにサーボホーンとリンクエージでニュートラルを合わせてください。

28: エンドポイントアジャスト「EPA」画面に進みます。



EPAはサーボの動作角度を左右別ペルに調整する機能です。調整を希望するチャンネルをタッチしてスティック等を操作します。すると操作に合わせて数値が反転表示になりますので「+・RST・-」アイコンで数値調整をします。完了したら「EXIT」アイコンでシステムメニューに戻ります。このEPA画面は2ページあります。



電動ヘリの場合、安全の為に調整中は必ずスピードコントローラー（ESC）からモーターを外してください。



コレクティブピッチは機体の指定通りのピッチ角度になるようにEPAでピッチゲージで確認して調整してください。

## モデルメニューの設定



EPA機能をスロットルキャブレターのハイとロー位置の調整に利用すると簡単です。

## 27: ジャイロ感度機能

お手持ちのジャイロにリモート感度機能が付いている場合にこの機能を使用します。詳しくは (P-84) を参照ください。

## 28: ピッチカーブ&amp;スロットルカーブ

コレクティブピッチのカーブとスロットル (モーター) のカーブを最適に調整すると機体はとても操縦し易くなります。詳しくは (P-73, 74) を参照してください。

最初は何も調整しないで送信機出荷時のリニア (直線) カーブのまま飛行して様子を見る事を推奨します。

## 29: システムメニューから「D/R&amp;EXP」画面を開きます。

この画面ではデュアルレートとエクスボンシャルを設定します。また切替スイッチの選択も行います。

「D/R」デュアルレートは2種類の舵角を切り替えることができます。この「D/R」はスティック操作に対し左右 (上下) 別々に舵角の設定ができます。

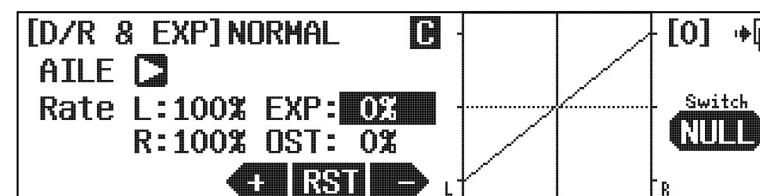
「EXP」エクスボンシャルはスティックの動作に対してサーボの動作にカーブを持たせて舵の効き方を変化させる機能です。両機能共にスティックを操作すると画面右のグラフでサーボの動作を確認することができます。

画面で表示が反転している箇所の数値を「+ RST -」アイコンで調整できます。「D/R」ではスティックを倒すと反転表示部分が移動します。

・例としてエルロンの調整です。

・最初にL側とR側を舵角の数値を調整します。画面右で切替スイッチを設定していない場合は、この舵角が適用されます。

・次にスイッチを割当てる為に画面右の「NULL」アイコンをタッチします。NULLとは何も選択されていないと言う意味です。



## モデルメニューの設定

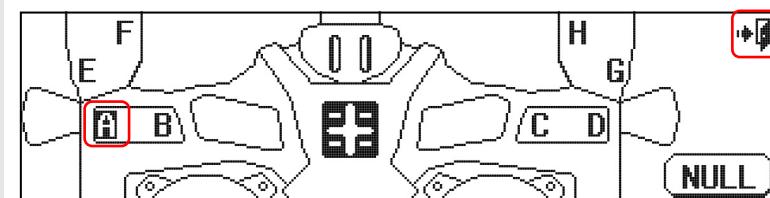
30: スイッチ設定画面になりますので「SEL」アイコンをタッチします。

[D/R & EXP] NORMAL

Switch : NULL

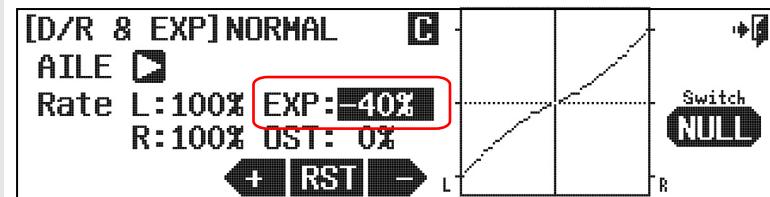


31: 送信機上部のイラストが表示され好きなスイッチを選びタッチします。ここでは「A」スイッチをえらびます。



スイッチ選択を解除する場合は「NULL」アイコンをタッチします。設定が完了したら「EXIT」アイコンで元の画面に戻ります。

34: 「EXP」エクスボンシャルの設定



画面の「EXP: 0%」のアイコンをタッチすると表示が反転してカーブの調整ができます。右側のグラフに、設定したカーブが表示されますのでスティックを操作しながら確認してください。

マイナス側の数値ではニュートラル付近の動作が少なくなり細かな操作が可能です。一方プラス側の数値はニュートラル付近の動作が急になりクイックな反応になります。

35: 「OST: 0%」と「C」アイコン

これは高度な設定を行う時に使用しますのでここでは何も設定しません。



この「D/R&EXP」機能はフライトコンディションごとに設定する事ができます。

これで一通りのヘリの設定が完了しました。より高度な設定をしたい場合は下記のページを参照ください。

ピッチ&スロットルカーブ

P-73, 74

スロットルホールド

P-126

フライトコンディション、アイドルアップ

P-116

フェイルセーフ

P-19

## システムメニュー

AUROLA9は大きく分けて二種類のメニューが二種類のメニューを持ちます。一般的な送信機の設定を行うのがシステムファンクションメニュー、そして機体ごとの色々な機能を設定するモデルファンクションメニューです。



ここからお読みになる前に、理解が早まりますのでクイックスタートガイドをお読みになる事を推奨します。

## ●システムメニューの機能

Model Select menu	新規の機体モデルの作成 モデルメモリーの切替 モデルメモリーのコピー モデルメモリーの初期化 モデルメモリーの名称変更
MDL Type	モデルタイプの変更 (ACRO、GLID、HELI)
Timer	タイマー機能
Modulation	電波の変調信号の切替
TrimStep	デジタルトリムのステップ調整
Trainer	トレーナー (教習) 機能
Power	電源関連、バックライトの管理
MODE	スティックモード変更
Info	個別ID&Ver情報
Channel	受信機のチャンネル配置
Freq Sel	バンド (周波数) 切替 : <b>72MHzのみ</b>
Sensor	テレメトリーセンサー : <b>2.4GHzのみ</b>
FailSafe	フェイルセーフ機能

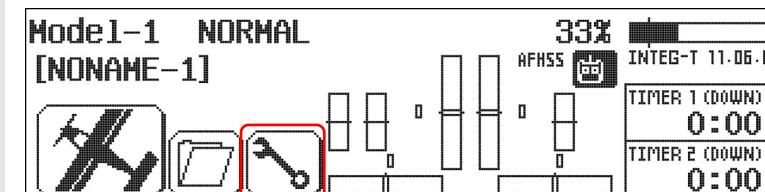
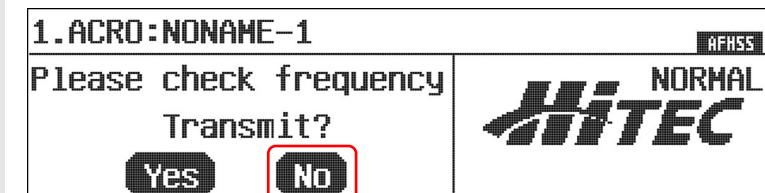
1: 送信機の電源をONにします。

2: 電波の発射を聞いてきますので現在は「**No**」をタッチします。



もし電波を出してサーボ動作を確認しながら設定したいときは「**Yes**」をタッチしてください。

3: システムメニューに入るにはホームメニュー画面のレンチ型のアイコンをタッチします。



## システムメニュー

システムメニューの各機能のアイコンが一覧で表示されます。希望するアイコンをタッチして、その画面に進みます。



72MHzモジュールの使用時は若干表示が異なります。

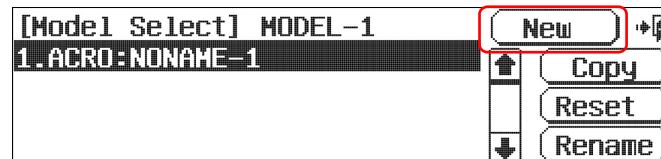
## モデルセレクトメニュー

ここでは次の作業が行えます。

- 1: 新しいモデルメモリーの作成
- 2: モデルメモリーの切替
- 3: モデルデーターのコピー
- 4: モデルメモリーのリセット
- 5: モデルメモリーの名称

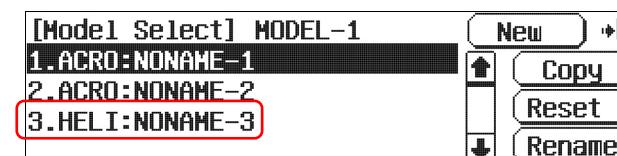
## 1: 新しいモデルメモリーの作成

モデルメモリーは最大30台まで登録できますがAUROLA9では新規に追加登録する方式になっています。この方がモデル選択を間違える事なく混乱しません。

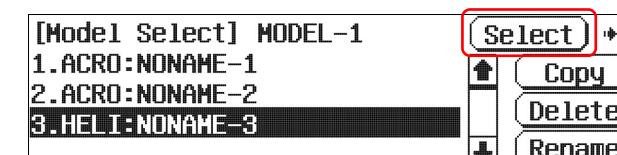


## 2: モデルメモリーの切替

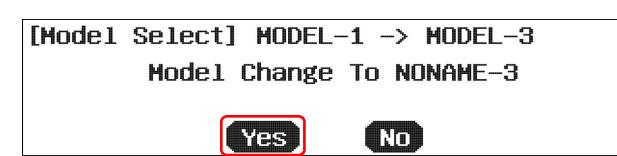
- ・モデル一覧の中から希望するモデルを見つけてタッチします。



- ・「**Select**」をタッチして切り替えます。



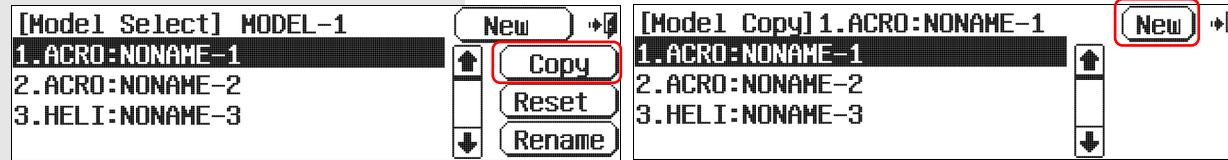
- ・確認の画面で「**Yes**」をタッチします。
- ・電波発射を聞いてきますので確認するまで「**No**」をタッチします。



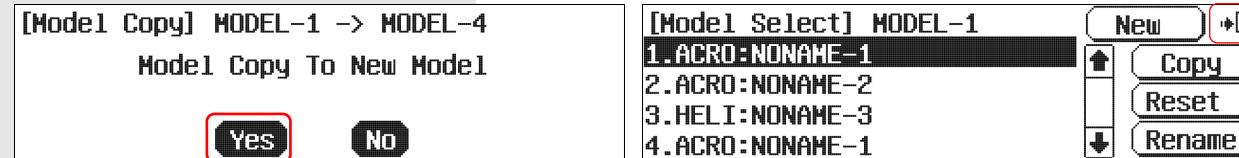
## モデルセレクトメニュー

## 3: モデルメモリーのコピー

- 「Copy」アイコンをタッチします。
- 「New」アイコンをタッチします。



- モデルコピーの許可を聞いてきますので「Yes」をタッチします。
- 「EXIT」アイコンのタッチで完了です。



## 4: モデルメモリーのリセットと消去

- リセットや消去したいモデルをタッチして選択します。
- リセットして工場出荷時に戻したい時は「Reset」を押します。ただしメモリーNo1のみ可能です。
- メモリーを消去するには消去したいメモリーをタッチして「Delete」をタッチすると登録は消去されます。
- いずれも確認の画面が出ますので「Yes」をタッチして完了です。
- 「EXIT」のタッチで前の画面に戻ります。

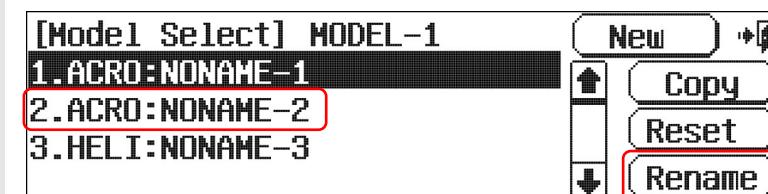


現在選択されているモデルメモリーは消去できません。

## 5: モデルメモリーの名称

- 「Model Select」画面にします。
- 名称を変更したい芽も出るメモリーをタッチします。
- 「Rename」をタッチします。

- キーボードが表示されますので好きな名称に変更します。
- 完了したら「Enter」をタッチします。



## モデルタイプメニュー

モデル（機体）のタイプを選択するとモデルタイプに適合した機能が自動的に選択されて表示されます。モデルメモリーを新しく登録するときにAUROLA9が聞いてきますのでアイコンで選びます。それぞれのモデルタイプにて、より高度な機能を使用するか？もAUROLA9は画面で聞いてきますので必要以上の機能は表示されません。使いやすく機体に合わせシンプルな送信機になります。

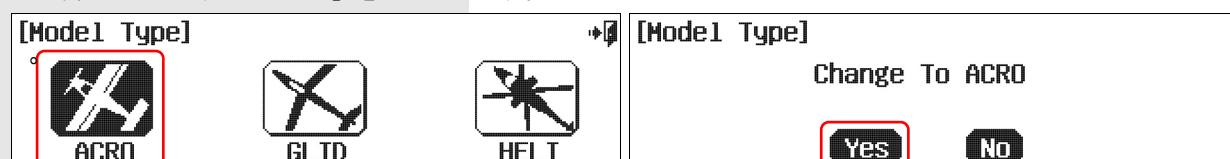
ACRO		エンジンや電動の一般的な飛行機の時に選択します。
GLID		グライダー（電動含む）の時に選択します。
ELI		ヘリコプターの時に選択します。

## モデルタイプ アクロのメニュー

- 「MDL Type」画面を出します。
- 「Model」アイコンをタッチします。



- 「ACRO」をタッチします。
- 確認してきますので「Yes」をタッチします。



- 主翼のエルロンやフラップの制御数であるウイングタイプを選択します。この画面の2ページ目は無尾翼タイプです。ウイングタイプを選択したら「SET」をタッチします。



- 尾翼の種類を選択します、通常型の場合は「Normal」です、「SET」をタッチして完了です。
- 無尾翼の場合ラダーの有無を聞いてきますので選択して「SET」で完了です。

## モデルタイプメニュー

- ・画面はエンジン（モーター）の数を聞いてきますので選択して「SET」で完了です。

[Engine Type]

**Single Engine** **Dual Engine** **SET**

- ・画面は引込脚の有無を聞いてきますので選択して「SET」で完了です。

[Retracts]

Do you have a Retracts?

**Yes** **No**



引込脚を有に選択した場合、(P-56) のチャンネルファンクションで引込脚をどのスイッチで操作するか設定しなくてはなりません。

- ・画面はエアブレーキ（spoiler）の有無を聞いてきますので選択して「SET」で完了です。

[Airbrake]

Do you have a Airbrake?

**Yes** **No**

- ・画面はフューエルミクスチャの有無を聞いてきますので選択して「SET」で完了です。

[Fuel Mixture]

Do you have a Fuel Mixture Control?

**Yes** **No**

- ・画面はどの操作をどのスティック等で操縦するか聞いてきます。  
変更があれば(P-56)を参照して変更設定してください。  
「Yes」で完了です。

[Channel Function]

Ch1 AILE:J4	Ch5 AIL2:J4	Ch9 AUX4:NULL
Ch2 ELEV:J2	Ch6 AUX1:NULL	
Ch3 THRO:J3	Ch7 AUX2:NULL	
Ch4 RUDD:J1	Ch8 AUX3:NULL	

**Sure?** **Yes** **No**

- ・今までの設定一覧が表示されます。  
確認して「EXIT」でモデルタイプ選択画面に戻ります。

[Model Type]

**Model** **Wing** **Tail**

**1AILE** **NONE**

これでACROタイプの主要設定は完了です。

## モデルタイプメニュー

## モデルタイプ グライダーのメニュー

- ・「MDL Type」画面を出します。
- ・「Model」アイコンをタッチします。

[Model Type]

**Model** **Wing** **Tail**

**2AILE** **NONE**

- ・「GLID」をタッチします。
- ・確認してきますので「Yes」をタッチします。

[Model Type]

**ACRO** **GLID** **HELI**

[Model Type]

Change To GLID

**Yes** **No**

- ・エルロンとフラップの制御数のウイングタイプを選択します。
- ・このページの2ページ目は無尾翼タイプです。ウイングタイプを選択したら「SET」をタッチします。

[Wing Type]

<b>1AILE</b>	<b>1AILE+1FLAP</b>	<b>1AILE+2FLAP</b>
<b>2AILE</b>	<b>2AILE+1FLAP</b>	<b>2AILE+2FLAP</b>

**SET**

[Wing Type]

**2/2**

Type : Flying Wing(Elevon)

<b>2AILE</b>	<b>2AILE+1FLAP</b>	<b>2AILE+2FLAP</b>
--------------	--------------------	--------------------

**SET**

[Tail Type]

**Normal** **V-tail** **Ailelevator**

**SET**

[Tail Type]

**NONE** **1 Servo** **2 Servo**

**SET**

- ・尾翼の種類を選択します、通常型は「Normal」です、「SET」をタッチして完了です。
- ・無尾翼の場合、ラダーの有無を聞いてきますので選択して「SET」で完了です。

[Motor Control]

Do you have a Motor Control?

**Yes** **No**

[Retracts]

Do you have a Retracts?

**Yes** **No**

## モデルタイプメニュー

- エアブレーキ（spoiler）の有無を聞いてきますので選択して「SET」で完了です。

**[Airbrake]**

Do you have a Airbrake?

**Yes** **No**

- 画面はどの操作をどのスティック等で操縦するか聞いてきます。  
変更があれば（P-56）を参照して変更設定してください。  
「Yes」で完了です。

**[Channel Function]**

Ch1 AILE:J4	Ch5 FLAP:LS	Ch9 AUX3:NULL
Ch2 ELEV:J2	Ch6 FLP2:LS	
Ch3 AIL2:J4	Ch7 AUX1:NULL	
Ch4 RUDD:J1	Ch8 AUX2:NULL	

**Sure?**

**Yes** **No**

- 今までの設定一覧が表示されます。  
確認して「EXIT」でモデルタイプ選択画面に戻ります。

**[Model Type]**

Model	Wing	Tail
	<b>1AILE</b>	<b>Normal</b>
	<b>NONE</b>	

モデルタイプ  ヘリメニュー

- 「MDL Type」画面を出して「Model」をタッチします。

**[Model Type]**

Model	Wing	Tail
	<b>2AILE+2FLAP</b>	<b>Normal</b>
	<b>MOTOR</b>	

- 「HELI」をタッチします。

**[Model Type]**

		
<b>ACRO</b>	<b>GLID</b>	<b>HELI</b>

- 確認してきますので「Yes」をタッチします。

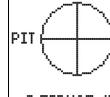
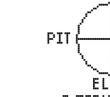
**[Model Type]**

Change To HELI

**Yes** **No**

## モデルタイプメニュー

- スワッシュプレートのタイプを選択します、このページは2ページあります。

<b>[Swash Type]</b>	<b>1/2</b>	<b>[Swash Type]</b>	<b>2/2</b>
			
PIT	AIL	PIT	AIL
ELE		ELE	
1 SERVO (90°)	3 SERVOS (120°)	2 SERVOS (180°)	3 SERVOS (90°)

- ガバナーの使用を聞いてきますので選択します。

**[Governor]**

Do you have a Governor?

**Yes** **No**

- ニードルコントロールの使用を聞いてきますので選択します。

**[Needle Control]**

Do you have a Needle Control?

**Yes** **No**

- フューエルミクスチャの使用を聞いてきますので選択します。

**[Fuel Mixture]**

Do you have a Fuel Mixture Control?

**Yes** **No**

- 画面はどの操作をどのスティック等で操縦するか聞いてきます。  
変更があれば（P-56）を参照して変更設定してください。  
「Yes」で完了です。

**[Channel Function]**

Ch1 AILE:J4	Ch5 GYRO:NULL	Ch9 AUX3:NULL
Ch2 ELEV:J2	Ch6 PITC:J3	
Ch3 THRO:J3	Ch7 AUX1:NULL	
Ch4 RUDD:J1	Ch8 AUX2:NULL	

**Sure?**

**Yes** **No**

- 今までの設定一覧が表示されます。  
確認して「EXIT」でモデルタイプ選択画面に戻ります。

**[Model Type]**

Model	Wing	Tail
	<b>1AILE</b>	<b>Normal</b>
	<b>NONE</b>	

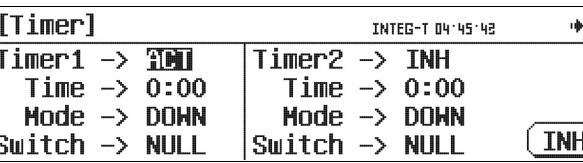
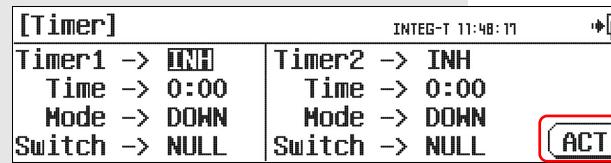
### タイマーメニュー

タイマー機能には2つの多機能タイマーと送信機の電源ON時間を積算するインテグラルタイマーが装備されています。

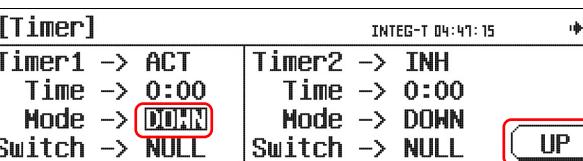
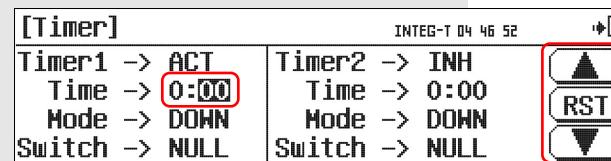
- システムメニュー画面から「Timer」をタッチしてタイマー画面に入ります。又はホームスクリーン画面からタイマー部分をタッチしても直接入れます。



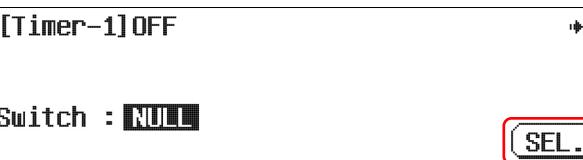
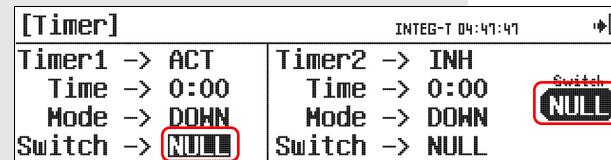
- 最初、タイマーは解除状態なので「ACT」をタッチして動作状態にします。
- 一度計測終了後の再計測時は「INH」にしてから「ACT」にします。



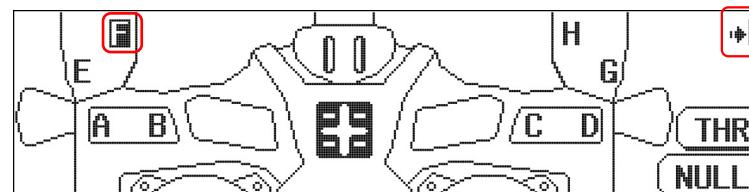
- タイマーの時間設定は分と秒の部分をタッチして「▲RST▼」で設定します。
- 「Mode」でアップタイマー/ダウンタイマーを選択します。



- タイマーのSTART/STOPを行うスイッチを選択します。
- 「NULL」をタッチして「SEL」でスイッチ選択画面に入ります。

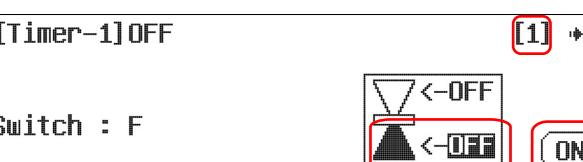
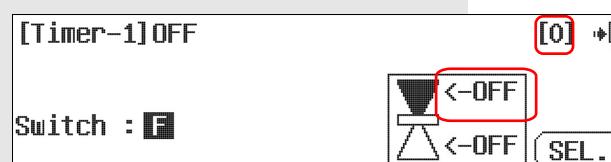


- この画面でタイマーのSTART-STOPを行うスイッチをタッチして決めます。例として「F」を選択した後に「EXIT」をタッチします。



2Pスイッチ以外の3Pスイッチやセルフリターンスイッチも使用できます。

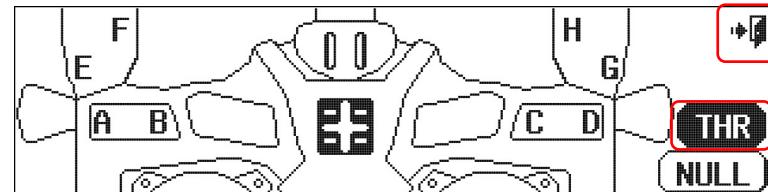
Fスイッチを動かすと画面も反応します。アイコンタッチで好きな方向でON-OFFが設定できます。



### タイマーメニュー

#### スロットルスティックでのタイマー操作

- タイマーはスロットルスティックでもON-OFFできます。スイッチ選択画面で右端アイコンを「THR」→「EXIT」とタッチします。



- スロットルのどの位置でタイマーをON-OFFするか設定します。

- スティックを操作し画面を確認しながら上下のON-OFFを選択します。



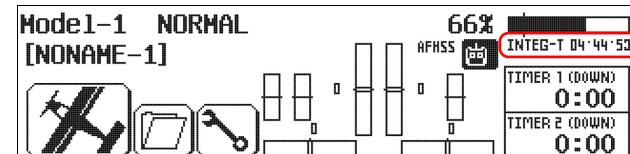
- 次に切り換える位置にスティックを操作して「SET」をタッチします。



#### 積算タイマー

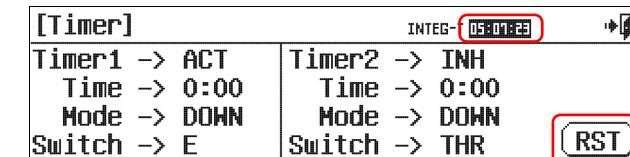
- 送信機の電源がONの時間を積算するインテグラルタイマーです。

- ホームスクリーン画面の右上に表示されています。



- 積算タイマーのリセットはタイマー画面で行います。

- 右上の積算タイマー部分をタッチして反転させ「RST」でリセットされます。



## チャンネルファンクションメニュー

この画面は、受信機のチャンネル番号、操作機能種類、そして操作スティックや操作スイッチを自由に割当てる事が出来る画面です。

ご自身に合った操作しやすい送信機にカスタマイズできます。

●例としてチャンネル9番にフューエルミクスチャを設定します。

1: システムメニューから「Channel Function」画面を出します。

2: 「AUX5」→「SET」の順でタッチします。



3: 操作機能を選択します。

4: 「Fuel-Mix」→「SET」の順でタッチします。



この画面は2ページあります。「1/2」アイコンをタッチすると次ページに進みます。

5: 「EXIT」で前の画面に戻ります。

6: スイッチを選択します。

最初は「NULL」で何も選択されていません。

7: 「NULL」→「SET」とタッチします。



8: ここでフューエルミクスチャの入力のスロットルスティックを選択します。(本例ではJ3)



9: 「SET」→「EXIT」で設定完了です。

## 信号変調切替 (72MHzのみ)



この機能は72MHzスペクトラプロのRFモジュールを使用時に有効です。  
2.4GHzをご使用の場合は機能しません。  
2010年4月時点では日本では発売しておりません。

信号の変調信号は3種類から選択できます。  
市販のFM受信機を全て使用可能です。

- PPM/N (ネガティブ) 双葉電子タイプ
- PPM/P (ポジティブ) Multiplex、JR、三和タイプ
- QPCM Hitec QPCM受信機

## ★2.4GHzからの変更方法

1: 2.4GHzモジュールを取り外します。

2: 2.4GHzアンテナの角度ジョイントの下を摘んで引き抜きます。(若干固めとなっています)

3: 2.4GHzアンテナの取付けベースを左に回転して抜きます。

4: 72MHzアンテナとRFモジュールを取り付けます。

## 1.ACRO:NONAME-1

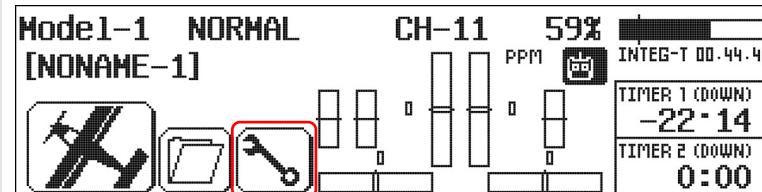
Please check frequency  
Transmit?

CH11-72.010MHz

Yes

No

2: システムメニューのアイコンをタッチします。



3: 「Modulat」(変調)アイコンをタッチします。



4: 使用するFM受信機に合わせてタッチします。

## [Modulation]

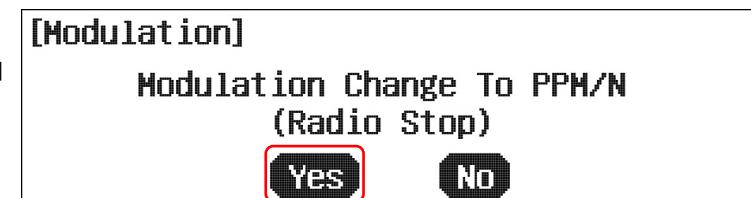
PPM/P

PPM/N

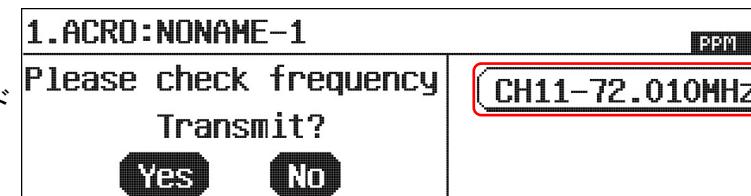
QPCM

## 信号変調切替 (72MHzのみ)

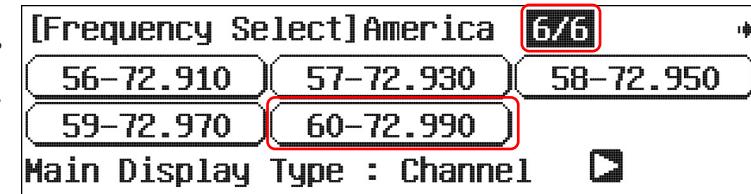
5: 画面が確認してきますので「YES」をタッチします。



6: ここでバンド(周波数)の確認をします。変更したい場合は「No」をタッチして画面右上のバンドアイコンをタッチします。

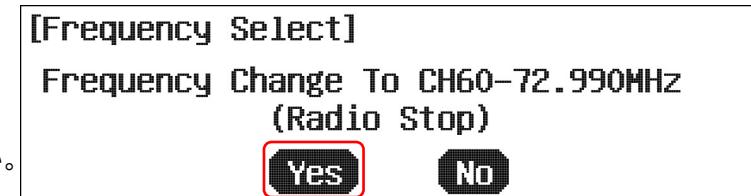


7: バンドを選択する画面になります。このページは2ページあります。希望するバンドのアイコンをタッチします。



8: バンドの確認を聞いてきますので「YES」をタッチします。

注意: 飛行場で使用されていないバンドか?再度よく確認してください。

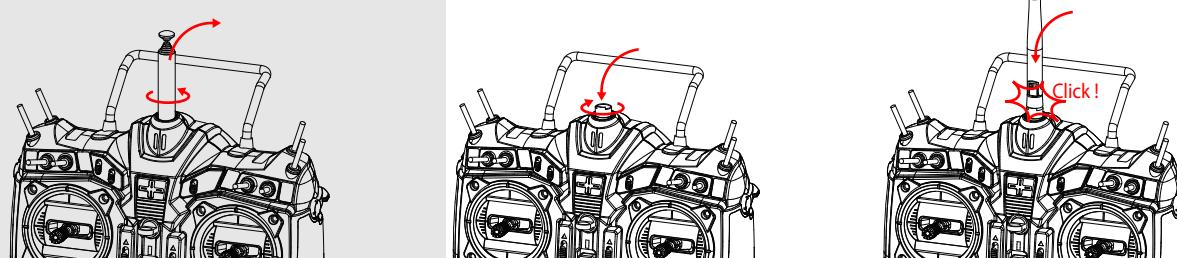


## 72MHzから2.4GHzへの変更

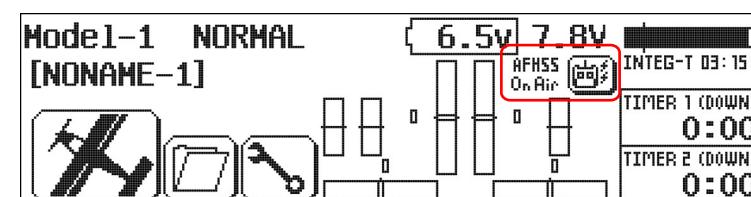
1: アンテナとRFモジュールを取り外します。

2: 2.4GHzアンテナの取付けベースを72MHzアンテナのように回転させて固定します。

3: 2.4GHzのRFモジュールを取付けた後に2.4GHzアンテナをパチンとはめ込みます。



4: 電波を出すとホームスクリーン画面にFHSSのアイコンが表示される事を確認してください。



## トリムステップ

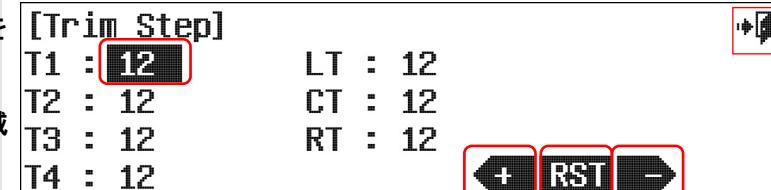
ステイックのトリムと3個のデジタルスイッチにて、1クリックでのサーボの動作角度をお好みに調整できます。

1: システムメニュー画面で「TrimStep」アイコンをタッチします。



2: 希望するトリムやデジタルスイッチをタッチして選択します。

3: 「+・RST・-」アイコンで数値を増減します。「RST」で初期値に戻ります。



4: 設定が完了したら「EXIT」アイコンでシステムメニュー画面に戻り設定を確定します。



数値は1~200です。数値が小さいほどトリム1コマは少ない動きになります。一般的の推奨値は12です。

## トレーナーメニュー

別売のトレーナーコードでAUROLA9同士を接続すると初心者の指導が手軽に効率よく行えます。

さらに生徒の技量に応じて生徒が操作できるチャンネルや生徒と先生のスティック操作がミキシングする動作も可能ですので従来のようにスイッチで頻繁に切り替える必要もありません。

万一の事態に対処でき安全です。

## 重要



- 先生側の送信機は練習に使用する機体のモデルメモリーに切り替えてます。
- 生徒側の送信機のリバース方向やトリム位置は事前に先生側の送信機と同一に合わせておいてください。
- 安全上、生徒側のRFモジュールは取り外してください。

## マスター(先生)用送信機の設定

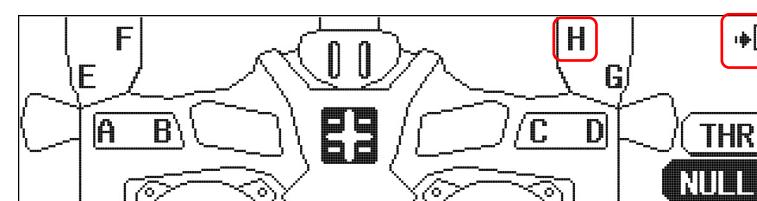
1:システムメニューから「Trainer」画面を出します。



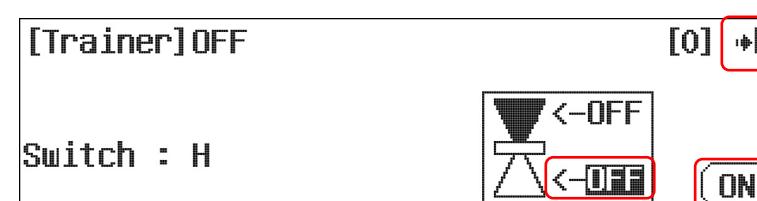
2:最初この機能はOFF「INH」になっていますので「ACT」をタッチしてONにします。



3:生徒側送信機との切替用のスイッチを選択します。



4:最初は未設定「NULL」なので「SEL.」をタッチしてスイッチ選択画面に行きます。

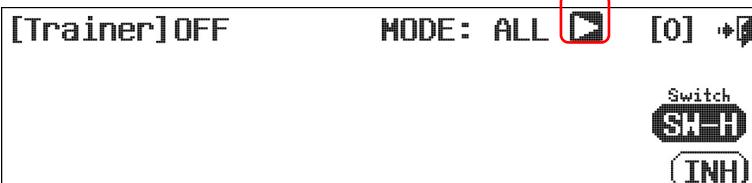


6:次にスイッチの方向を設定します。ONIにした方をタッチして画面右下の「ON」をタッチして、この向きをONにします。方向はご自由に設定してください。

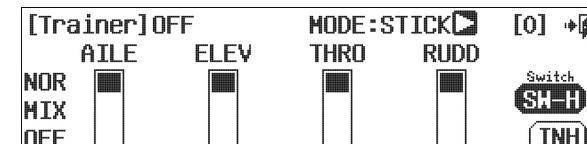
7:「EXIT」でスイッチ設定は完了です。

## トレーナーメニュー

8:トレーナーのモードを設定します。初期状態では全スティックを生徒側に許可する「ALL」になっていますので横の矢印アイコンをタッチします。



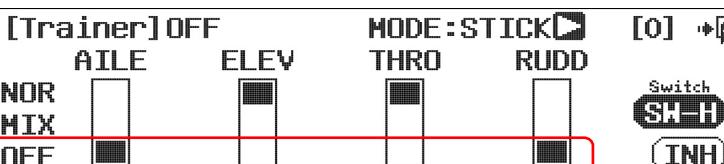
9:それまでのスティック操作の許可モードを設定する画面になります。



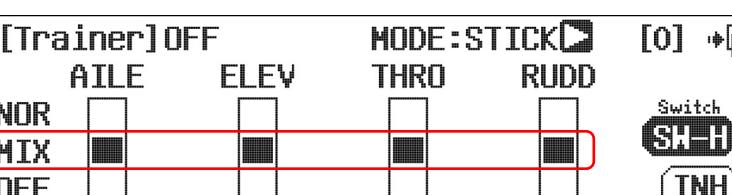
NOR:スイッチの切替で生徒側の操作になります。

MIX:先生と生徒のスティック操作がミキシングされます。  
OFF:生徒の操作は無効です。

10:ここでは生徒のエルロン/ラダーの操作をOFFにしています。

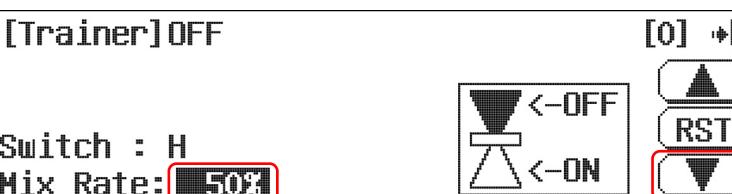
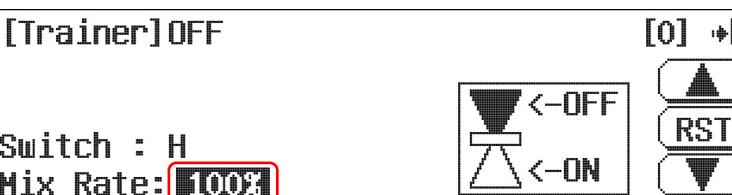


11:先生と生徒のスティック操作をミキシングするには「MIX」に設定します。



12:生徒側送信機のスティック操作のミキシング量を設定します。

「Mix Rate」横の数値をタッチして画面右端の「▲RST▼」アイコンで調整してください。  
最初は50%を推奨します。



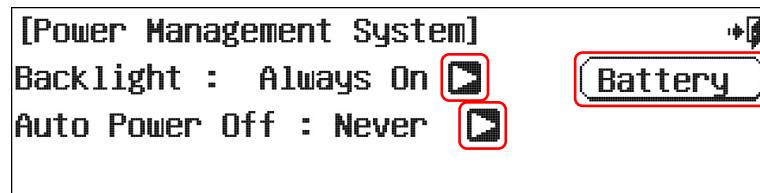
## パワーメニュー

この画面では次の設定ができます。

- ・LCDのバックライトの設定
- ・電源のオートパワーOFF設定
- ・電源の電池種類の設定

1: システムメニュー画面から「Power」をタッチしてこの画面にします。

2: 「Backlight」はバックライト点灯時間を設定します。矢印アイコンをタッチして選択します。



3: 「Auto Power OFF」は何も操作をしない状態で電池の消耗を防ぐオートパワーOFF機能です。電源を入れたままの放置を防ぐ機能です。矢印アイコンをタッチして選択します。

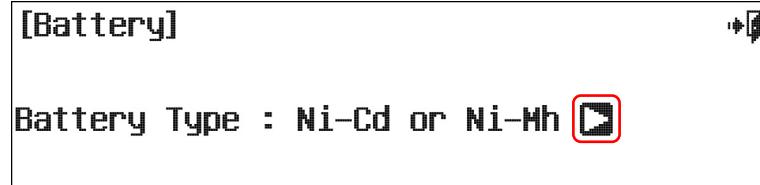
**注意！！：オートパワーOFFで長期間放置すると待機微小電流で電池はやがて放電してしまいますので注意してください。**



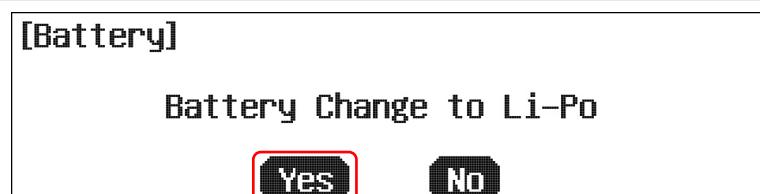
Li-po電池を使用時は必ずLi-po専用充電器で送信機から取り外して充電を行ってください。付属の家庭用充電器では絶対に充電しないでください。大変危険で最悪発火する事があります。

4: 「Battery」アイコンをタッチすると電池の種類が変更できます。

標準では6セル7.2VのNi-cdかNi-MHとなっています。



矢印アイコンをタッチするとLi-poに変更するか確認しますので「YES」をタッチします。



5: Li-po電池の場合、完全放電してしまうと電池にダメージを与えるのでオートカット電圧を設定できます。電池種類にあわせたカット電圧を「+・RST・-」で設定します。

6: 「EXIT」で画面から抜けます。



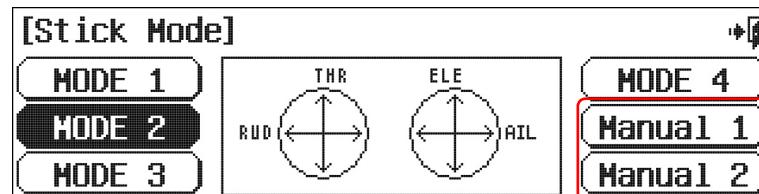
殆どのLi-po電池は1セル当たり3.0Vを使用下限として推奨しています。本機に使用できるのは2セル（2S）ですので6.0Vを推奨します。

## スティックモード

スティックモードはどのスティックでどの舵の操作を行うかを切り替える機能です。日本では通常モード1、アメリカでは通常モード2と呼ばれる配置です。これだけでなく全てのモードを選択できます。また自由な配置も選べます。

1: システムメニューから「Mode」をタッチしてこの画面に入ります。

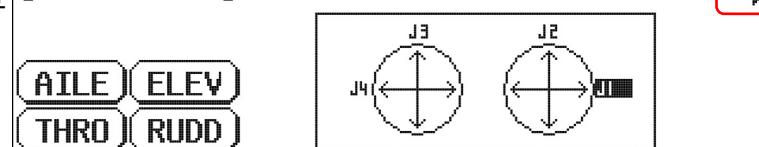
2: お好きなモードをタッチするとスティック配置が画面中央に表示されます。



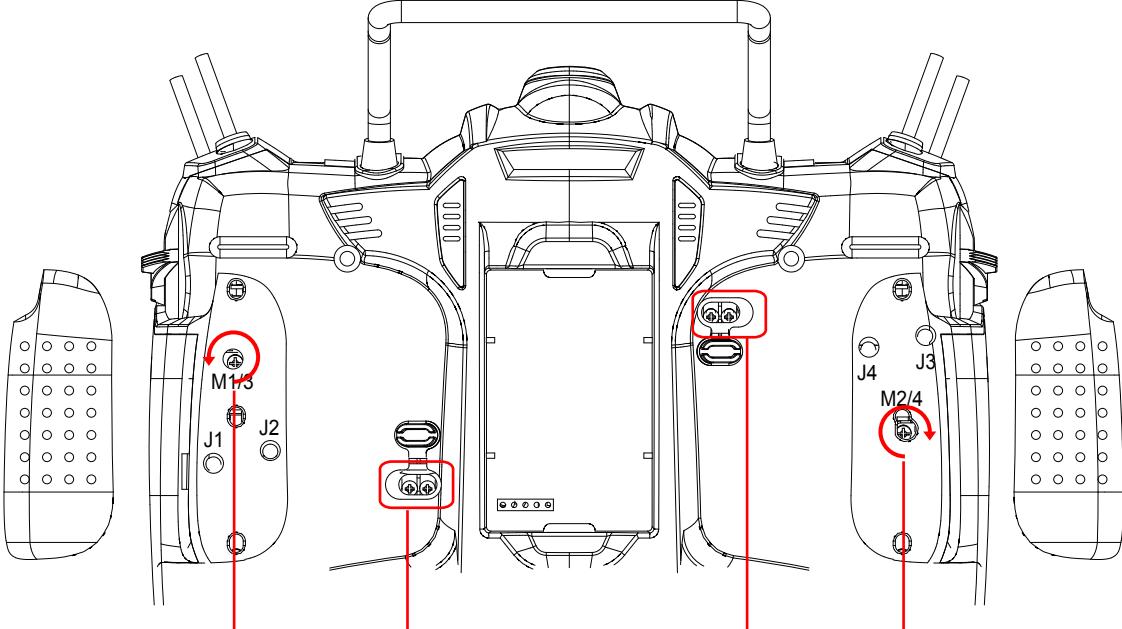
3: モード1～4以外にご自由な設定を行いたい場合は「Manual」アイコンをタッチして設定画面に進みます。

4: スティックイラストで変更したい場所「J1～4」をタッチした後に画面左の設定したい操作名をタッチします。確認したら「EXIT」で完了です。

## [Stick Mode] Manual 1



## スティックメカニズムの変更



詳細はP24～26を参照して構造を理解してから行ってください。

## インフォメーション画面

この画面では以下の情報が確認できます。

- ・ユーザー名
- ・ソフトウェアのVer番号
- ・製造番号 (ID)

## ユーザー名の登録方法

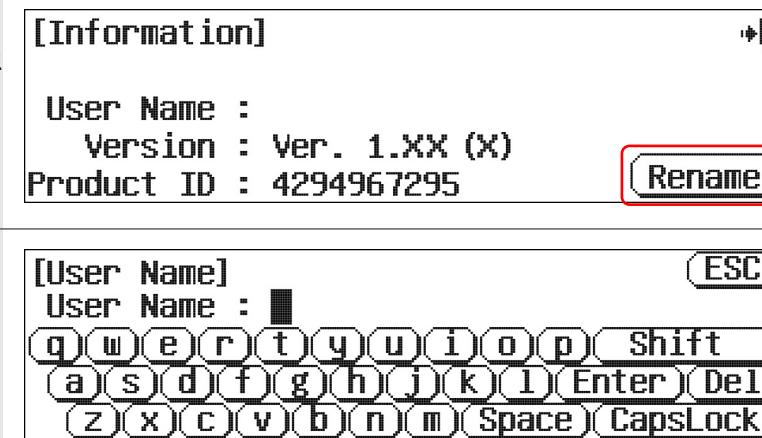
1 : システムメニュー画面から「Info.」をタッチしてこの画面に入ります。

2 : 「Rename」をタッチします。

3 : キーボードが表示されるので任意の名称を入力します。  
このキーボードは基本的にPCのキーボードと同じ操作です。

4 : 名前が入力できたら「Enter」で決定します。

5 : 「EXIT」でこの画面から抜けます。

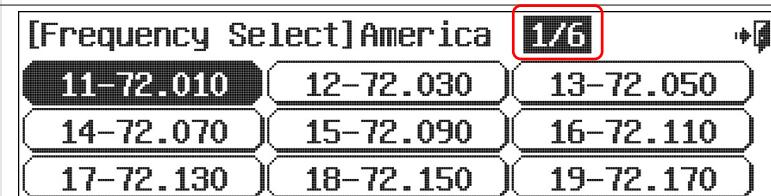


## バンド切替 (72MHz モジュール使用時のみ)

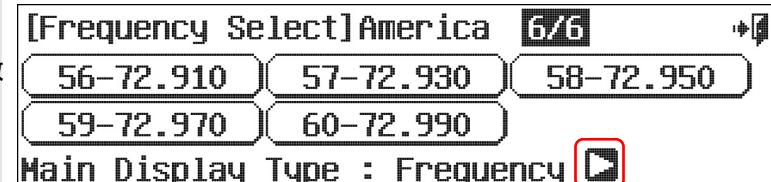
72MHzのSPECTRA-PROモジュールを装着している時にこの画面は使用できます。**(2010年4月現在、日本は未発売です)**  
ここでバンド(周波数)の切替を行います。

1 : ホームスクリーン画面のバンド表示アイコンをタッチしてこの画面に入ります。

2 : このページは数ページありますので希望するバンドを見つけタッチします。



3 : 最後のページでホームスクリーンでの表示方法を「Frequency」周波数か「Channel」バンドNoかを矢印アイコンで選択できます。

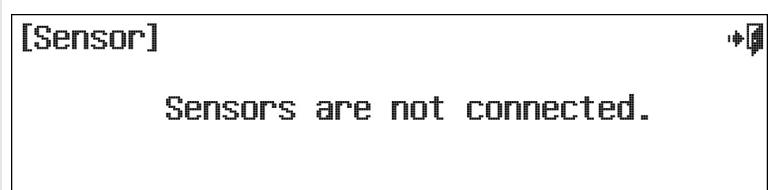


4 : 確認画面が出ますので同じ周波数が使用されていないか、よく確認して「Yes」をタッチします。



## テレメトリーセンサー

この画面は受信機に別売り「センサーステーション」が接続されているときに使用できます。  
未接続の場合はこの表示になります。



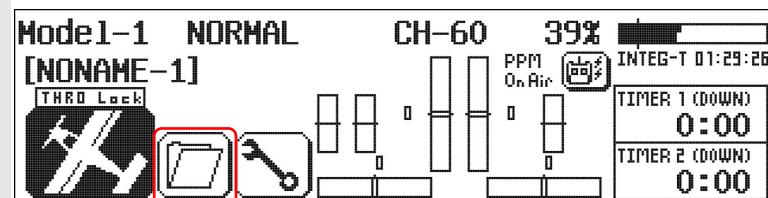
## モデルメニュー・重要なヒント

## \*\*\*\*\* IMPORTANT PROGRAMMING TIPS \*\*\*\*\*

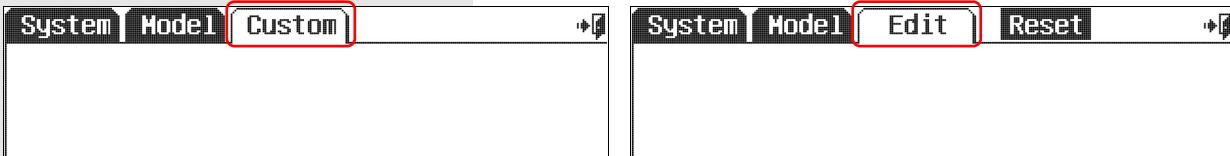
## カスタムメニュー

モデルメニュー やシステムメニューの一覧画面に「Custom」タブがあります。このタブの中にご自由な機能アイコンを登録する事ができます。使用頻度の多い機能を登録すると良いでしょう。

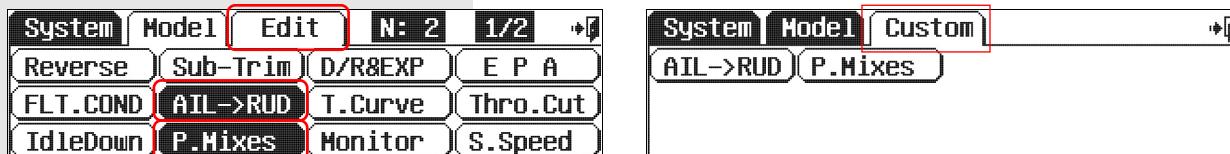
- 1: ホームスクリーン画面のフォルダアイコンをタッチしてカスタム画面に切替えます。



- 2: 「Custom」タブをタッチすると「Edit」と表示が変わり登録受付状態になります。



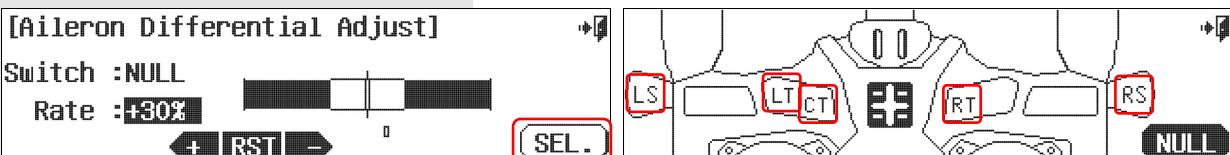
- 3: 次にシステムメニュー やモデルメニューをタブをタッチして必要な機能アイコンをタッチします。



- 4: 「Edit」タブをタッチしてページを切替えると選択した機能アイコンが登録されています。タブが「Edit」状態で登録した機能アイコンを再びタッチすると消去されます。ページ内のアイコンを一括消去するには「Reset」をタッチします。

## アジャストメニュー

多くの機能の中で数値調整をサイドレバーやデジタルスイッチに割当てるアジャストメニュー タブ「Adjust」が追加され、そのアジャストメニュー内に、その機能アイコンも自動的に追加されます。



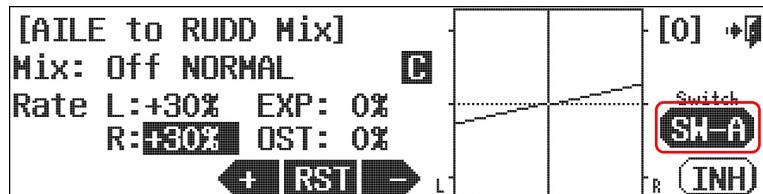
## モデルメニュー・重要なヒント

## \*\*\*\*\* IMPORTANT PROGRAMMING TIPS \*\*\*\*\*

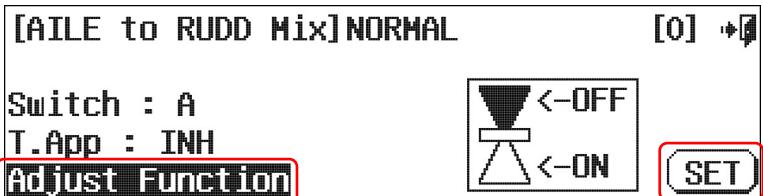
## アジャストメニュー

色々なミキシングや飛行しながら調整したい数値はアジャストファンクション「Adjust Function」を選び、デジタルスイッチやサイドレバーで飛行中に調整できます。

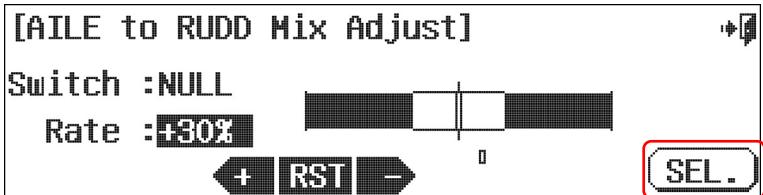
- 1: モデルメニューの「AIL to Rudd Mix」を例にして説明します。  
2: 「SW-A」又は「NULL」アイコンをタッチします。



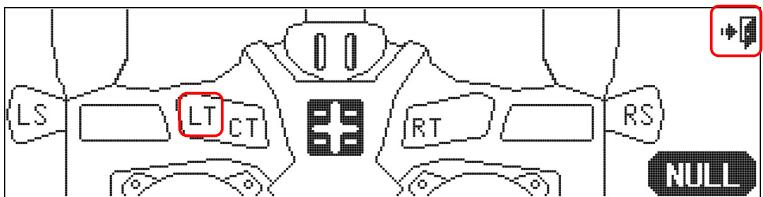
- 3: 「Adjust Function」→「SET」の順でタッチします。



- 4: 「SEL」アイコンをタッチします。



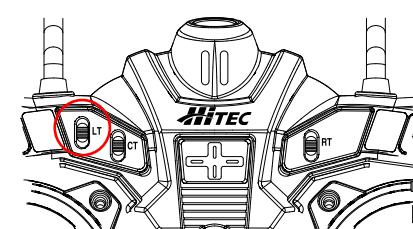
- 5: ミキシング量を調整するデジタルスイッチ&サイドレバーの選択画面になります。



- 6: ここでは「LT」を選択して「EXIT」で抜けます。



- 8: ホームスクリーン画面で飛行中にLTを操作すると自動的に画面が表示されます。



## モデルメニュー・重要なヒント

## \*\*\*\* IMPORTANT PROGRAMMING TIPS \*\*\*\*

## グライダータイプでのキャンバー＆ランチメニュー補足

「CANBERMIX」や「Launch」でアジャストファンクションを設定した場合、  
画面は2ページになります。

ここでは各サーボの最大動作量を  
設定できます。



## ヘリコプターでのホバリングスロットル＆ピッチカーブ

「P.Curve」ピッチカーブや「T.CurveV」スロットルカーブ画面ではステイック動作に対する  
カーブを設定できます。「Adjust Function」でサイドレバーやデジタルスイッチを使用する  
ように設定するとそれぞれ次の操作を割り当てられます。

## ●スロットル機能

- ・ホバリングスロットル
- ・ホバリングピッチ

## ●ピッチカーブ機能

- ・ホバリングピッチ
- ・ハイピッチ
- ・ローピッチ

例としてスロットルカーブ機能での設定を説明します。  
ピッチカーブ機能も同様に設定できます。

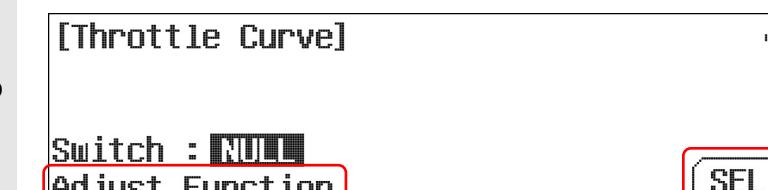
1: システムメニューから「T.Curve」  
スロットルカーブ機能を選びます。



2: 最初は「INH」で機能が停止して  
いますので「ACT」をタッチして  
機能をONにします。



3: 「NULL」をタッチします。



4: 「Adjust Function」→「SEL」の  
順でタッチします。

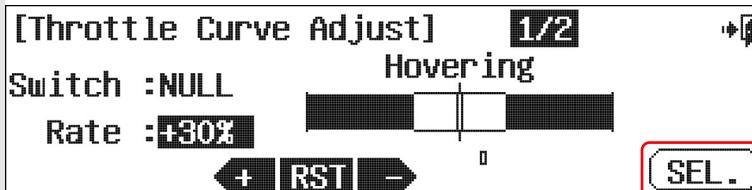
## モデルメニュー・重要なヒント

## \*\*\*\* IMPORTANT PROGRAMMING TIPS \*\*\*\*

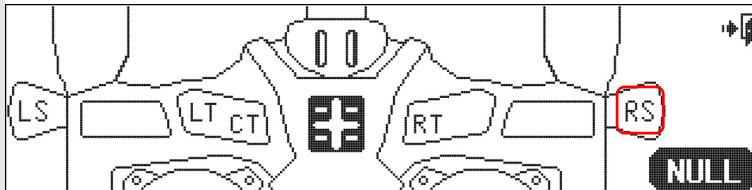
## ヘリコプターでのホバリングスロットル＆ピッチカーブ

5: この画面はホバリングスロットル  
の画面です。

「SEL」をタッチしてレバーやデジタ  
ルスイッチの選択画面に行きます。

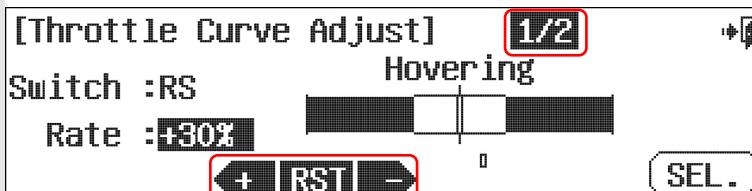


6: 選択画面から設定する箇所を  
タッチして選択します。  
例では「RS」を選択します。  
選択したら「EXIT」で戻ります。

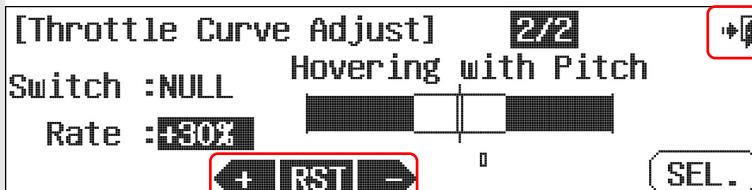


7: 「+・RST・-」で調整幅を設定  
できます。

8: 続いて次ページに「1/2」アイコン  
で進みます。



9: ここではホバリングピッチの設定  
が選択できます。  
操作する場所は上記と同じように  
選択します。



## トリムリンク

各ステイックにはデジタルトリムが装備されています。  
ミキシングや他機能の際にこのトリムの位置をミキシング先にリンク（有効）  
にするかを選択ができます。

例では「Idle Down」画面です。

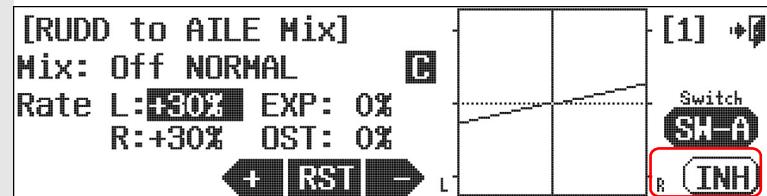
1: 「Adjust to Trim」の「INH」アイコンをタッチして  
「SEL」で「ACT」有効、「INH」無効を選択します。



## モデルメニュー・重要なヒント \*\*\*\* IMPORTANT PROGRAMMING TIPS \*\*\*\*

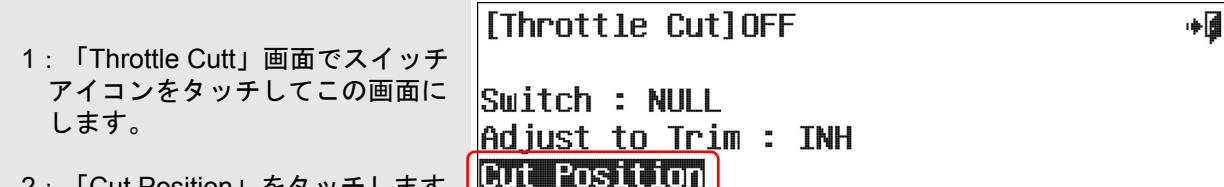
## トリムリンク

この例ではラダー→エルロンミキシングの画面です。  
初期設定ではラダートリムはミキシングされません。「SW-A」をタッチして進む画面に  
「T. App」アイコンがあります。その表示を「INH」から「ACT」にするとミキシングに  
トリムが有効になります。

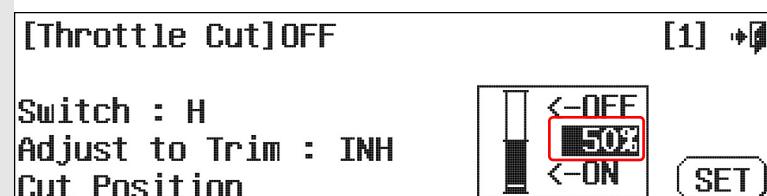


## スロットルカットするスティック位置の設定

スロットルカットはある位置にスロットルスティックが下がった時に、予め設定してある位置までサーボが移動してキャブを閉じてエンジンを停止する機能です。  
この機能はスイッチに割り当て着陸後にONにしてスロットルを下げるエンジン停止するよう  
に使用します。ここでは既に「H」スイッチに割り当ててあります。



3: スロットルスティックを希望する位置にして「SET」をタッチするとこの位置で  
サーボがスロットルカット位置に（前の画面）移動します。



## モデルメニュー・重要なヒント \*\*\*\* IMPORTANT PROGRAMMING TIPS \*\*\*\*

## ランチカットするスティック位置の設定（グライダー）

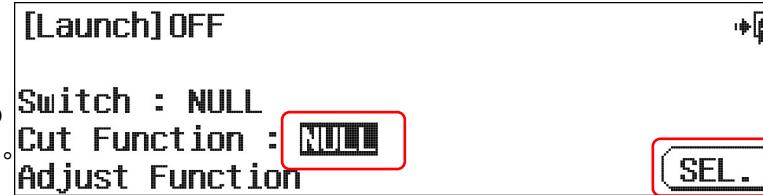
機体をウインチやショックコードで曳航する際の各舵の設定機能です。  
索を外すエレベーター操作を行った時に自動でランチモードを解除する事が出来ます。



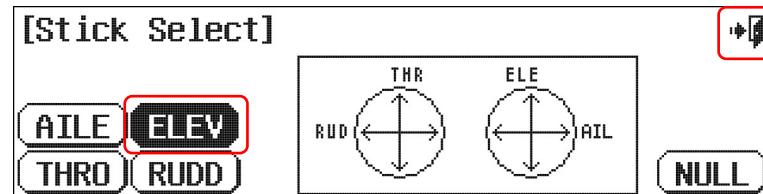
この機能にはON-OFFスイッチの割り当てが必須です。

1: 「Launch」メニューでスイッチ選択の画面にします。

2: スイッチが割り当てられていないので「NULL」→「SEL.」とタッチします。



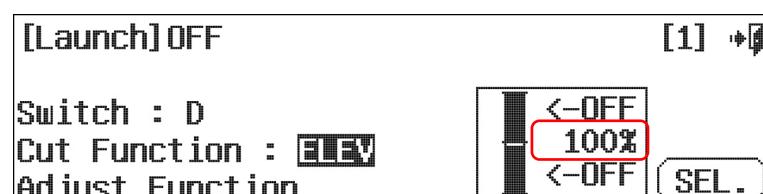
3: ランチモードを解除するスティックを選択します。通常「ELEV」を選択し「EXIT」で戻ります。



4: 「Cut Function」の「ELEV」をタッチします。



5: この画面で解除するエレベーター  
スティックの位置を設定します。



6: スティックを操作すると画面のバー  
が動きます。希望する位置にスティック  
を止めて「SEL」をタッチすると位置  
が設定されます。



7: 次にON-OFFの向きを設定します。  
「OFF」部をタッチして「ON」を  
タッチすれば設定ができます。



## モデルメニュー（標準機能）の詳細説明

この項では各機体タイプに共通の標準的な機能メニューを説明します。

## 主な標準メニュー

EPA	エンドポイント調整
D/R&EXP	デュアルレート&エクスパンシャル
Sub-Trim	サブトリム
Reverse	リバース
S.Speed	サーボスピード
Monitor	サーボモニター
P. Mixs	プログラムミキシング
FailSafe	フェイルセーフ
Gyro	ジャイロ感度

各機能をフルに選んだ場合の飛行機用モデルメニューです。



「1/2」アイコンのタッチで次ページに進めます。

## エンドポイント調整 (EPA)

EPA機能はスティック操作に対して左右、上下別々にサーボの動作角度を調整する機能です。



- この画面は2ページあります。
- 調整できる数値範囲は0~140です。
- サブトリムやデュアルレートの設定値もサーボの動作角度に影響します。

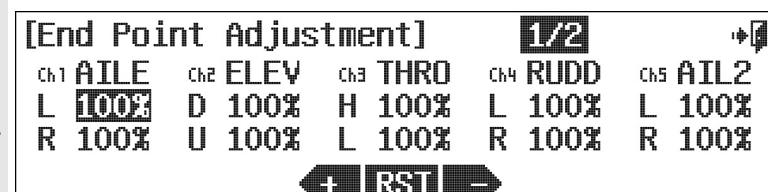
1: モデルメニューから「EPA」画面に入ります。

2: 調整を希望する箇所の名前をタッチするとその下の数値が反転します。

3: そのスティック等を操作すると反転部分が切替ります。

4: 反転している数値を「+・RST・-」アイコン部分で調整します。

5: 設定が完了したら「EXIT」でモデルメニュー画面に戻り完了です。



## デュアルレート&amp;エクスパンシャル (D/R &amp; EXP)

この機能はサーボの左右の動作角度、動作カーブ、オフセット等の設定をスイッチやフライトコンディション切替え等によって飛行中に副数切替える事ができる機能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

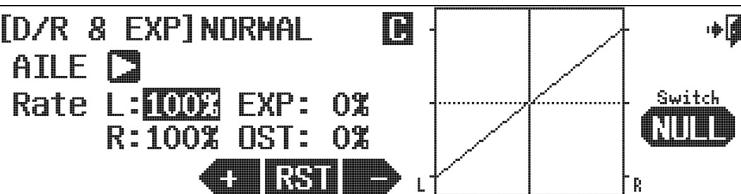
特徴：AUROLA9のこの機能は通常の送信機より細かな設定が可能です。

- D/Rは左右上下別々に設定できますので機体のクセに応じた細かな調整が可能です。
- EXPOはニュートラル付近を細かな動作にするマイルドカーブに加え初期反応を鋭くするクイックカーブにも調整できます。
- OSTオフセットは別トリムとしても使用可能で応用範囲が広がります。
- この機能が適用されるのはエルロン、ラダー操作です。
- スイッチは舵ごとに別にしたり同一のスイッチ（他と兼用可能）に集約したりできます。
- スティックを操作すると画面のグラフに位置が表示されますので理解が容易です。

1: モデルメニューから「D/R & EXP」画面を出します。

2: 「AILE」横の矢印をタッチすると適用されるスティックが切替ります。

3: スイッチ切替えで複数の設定を行う時はスイッチを設定します。  
画面右の「NULL」アイコンをタッチして選択します。（P68参照）  
スイッチは舵毎に別や同じに設定できます。



4: 数値（Rate）のL, R (U, D) 表示部はサーボの左右別の動作角です。  
数値部分をタッチすると反転表示になり、その数値を「+・RST・-」アイコン部分で調整やりセットが行えます。

5: EXPはカーブを変更します。一側がマイルドカーブ、+側がクイックカーブです。  
スティック操作でグラフの縦線が移動しますので効果が分かります。  
サーボは回転ホーンなので直線動作のロッドではクイックな特性を持ちます。  
またリンクエージから各舵へのホーン伝達も同じ特性です。ですから多少一側の設定が本来のリニアな動作となります。

6: OSTオフセットトリムは別トリムとして使用できます。  
サーボの舵角だけでなくエンジン（モーター）がOFFになった際のエレベータートリム変更等に利用できます。

7: 設定が終わりましたら「EXIT」でホームスクリーン画面に戻り完了です。



- それぞれの項目の変更はサーボを動作させながら行うと結果が理解しやすいです。
- 画面で調整すると時は間違って設定のない様に必ずスイッチ位置を確認してください。
- この機能は他で使用中のスイッチにも同時に設定可能です。

## サブトリム

サーボのニュートラルはリンクエジロッドに対してホーンが直角である事がリニアリティ上重要です。スティックのトリムがセンターの時にこのようになれば良いのですが、サーボホーンの穴位置では合わせられない場合にこのサブトリムが有効です。  
機能的には受信機側でのサーボ個別のトリムとお考えください。

1: モデルメニューの「Sub-Trim」でこの画面に入ります。

2: 変更したいサーボ名をタッチして反転表示させます。

3: 「+・RST・-」アイコン部で調整します。

4: 画面右上の「EXIT」でメニューに戻り完了です。



サブトリムで調整変更した場合はリンクエジロッドのロックに注意してください。

## サーボリバース

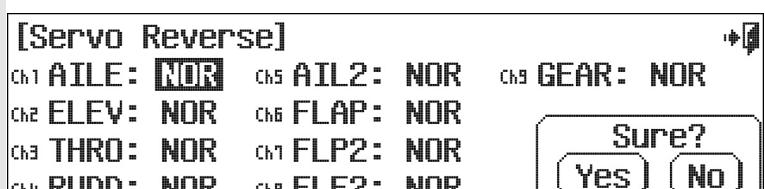
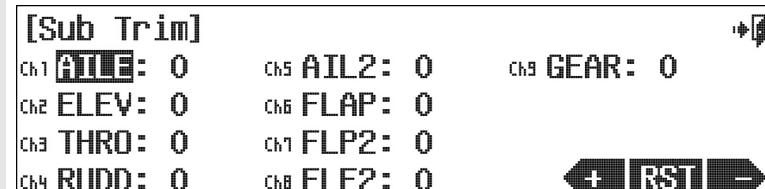
各サーボの回転方向を逆にできます。受信機のチャンネル単位での設定です。

1: モデルメニューから「Reverse」でこの画面に入ります。

2: 変更したいサーボ名をタッチして反転表示させ「REV」アイコンをタッチします。

3: 確認してきますので「Yes」を押します。

4: 画面右上の「EXIT」でメニューに戻り完了です。



## サーボスピード

サーボの動作を実機の様に遅い動作にする機能で受信機のサーボ個別での設定になります。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。



- 調整できるスピードは遅くなる方向のみです。
- 必ずサーボモニター「Monitor」画面、又は実際のサーボ動作で確認してください。
- 正確にはギア比の大きなサーボのような動作ではなく最高速度を抑えるスピードリミッターとお考えください。

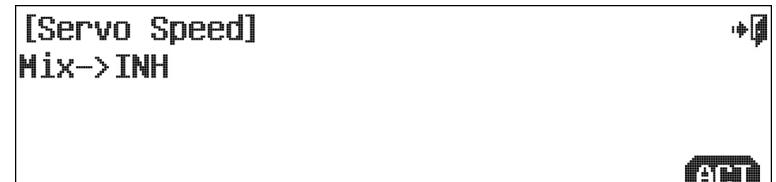
1: モデルメニューの「S.Speed」でこの画面に入ります。

2: 最初は機能停止状態(INH)なので「ACT」をタッチして機能をONにします。

3: 調整したいサーボ名をタッチして反転させ「+・RST・-」部で調整します。  
この数値設定はEPAやD/Rのようにスティック操作の右側操作、左側操作という表現ではありません。

サーボの右回転、左回転とお考えください。単純にサーボの動作を遅くしたい場合は両方向の数値を同じにします。

4: 調整が完了したら画面右上の「EXIT」アイコンでメニュー画面に戻り完了です。

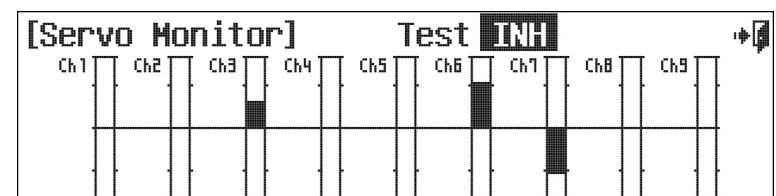


## サーボモニター

サーボモニター画面では最終的な各サーボの動作をバーグラフで確認できます。  
動作角度やミキシングや速度等が事前に確認できます。色々な機能を設定して複雑になった場合は安全の為にも予想外の動作が無いか確認してください。  
又全サーボを自動的に動かすテスト機能も付いています。  
飛行前のサーボ動作確認が容易にできます。

1: モデルメニューの「Monitor」でこの画面に入ります。

2: 各サーボ動作がサーボごとに確認できます。



## ★サーボテスト機能

1: 画面上のTestアイコン横の「INH」をタッチします。  
表示は「ACT」となり全サーボが自動的に動作します。  
テストを停止する場合は再びタッチします。

## プログラム ミキシング (P.Mixes)

AUROLA9はプログラムミキシングを8個装備しています。モデルメニューに無いミキシングが必要な場合に自由な組合わせで新たなミキシングを設定できます。  
ここでは例としてスロットル操作をラダーにミックスする場合を説明します。

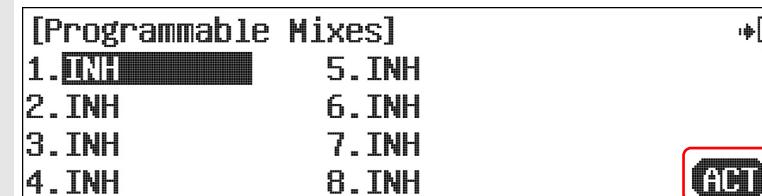
この機能はライトコンディション毎に設定できます。

1: モデルメニューから「P.Mixes」でこの画面に入ります。

2: 8個あるミキサーの中からどれかをタッチして反転表示させます。

3: 現在は「INH」なので「ACT」をタッチして有効にします。

4: 先ずミキサーの入力チャンネル(マスター)を決めます。  
ここでは「THRO」をタッチします。



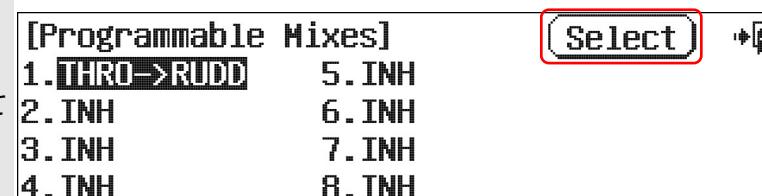
5: 次に出力先(スレーブ)を決めます。ここでは「RUDD」をタッチします。



6: 「EXIT」アイコンで前の画面に戻ります。



7: 今設定したミキサーが表示されています。



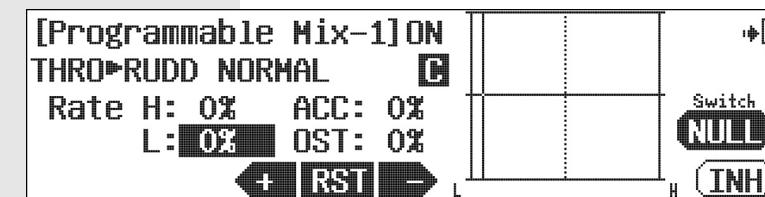
8: 次に詳細設定に入りますので希望するミキサー名をタッチして反転表示にして「Select」をタッチします。

## プログラム ミキシング (P.Mixes)

9: この画面でミキサーの各要素を設定します。

- スロットルスティックを操作するとグラフでバーが移動します。
- RateのHとLでミキシング量を設定します。
- ACCはアクセレーションで加速度ミキシングです。  
実際にサーボを動作させて効果を確認・理解してください。
- OSTはニュートラルオフセットです。

注意: この画面で「INH」をタッチすると設定されているミキシングは消去されてしまいます。



## ●スイッチの設定

このミキシングにもON-OFFスイッチを設定できます。  
画面右の「NULL」をタッチして他機能と同様に設定します。  
ON-OFF制御なので2Pスイッチが適当です。  
トリムもリンク「T.APP」するか選択できます。

この例では飛行機のタキシング時にプロペラトルクによってテールがとられる反動を抑えるミキサーが用意できました。



一つのサーボに複数からのミキシングをかけたい場合は同じ設定でミキサーを設定します。

## フェイルセーフ (Hitec-QPCM 受信機用)

フェイルセーフとは受信機が正常に送信機の電波を受信できなくなった場合に予め設定した位置にサーボを移動する機能です。

この設定をしなかった場合は最後に受信したサーボ位置に固定されてしまいます。エンジンやモーターがフルスロットルで機体が暴走するのは大変危険です。少しでも被害を軽減するための設定をお奨めします。



2.4GHzのフェイルセーフの設定はP20を参照ください。

## Hitec-QPCM受信機用のフェイルセーフ設定

1 : モデルメニューから「Fail Safe」アイコンでこの画面に入ります。



2 : 「F/S」をタッチします。

3 : 送信機のスティックやスイッチを希望するフェイルセーフ位置にします。

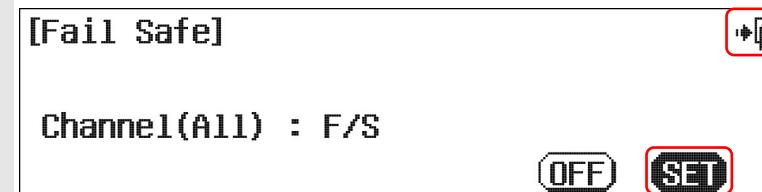
4 : 「SET」をタッチします。

5 : 「EXIT」アイコンで完了です。

6 : 設定完了後に必ず動作確認を行ってください。

送信機でサーボを動作しながら送信機での電源をOFFにします。

各サーボが設定した位置に移動することを確認してください。



## ジャイロ設定

ヘリコプターや飛行機に搭載するジャイロの感度を送信機から切替えることができる機能です。組合せのスイッチで最大3段階の感度を切替えられます。

AUROLA9はこのジャイロ感度を3個装備しています。

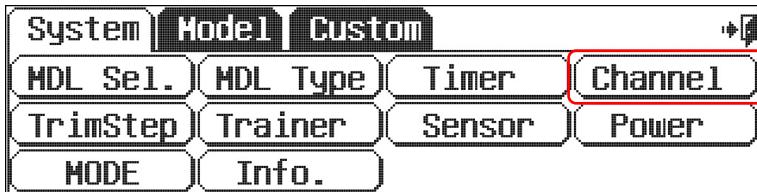
(GY-1、GY-2、GY-3) 異なる機体ごとに設定が可能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。



事前にご使用のジャイロの説明書をよくお読みください。

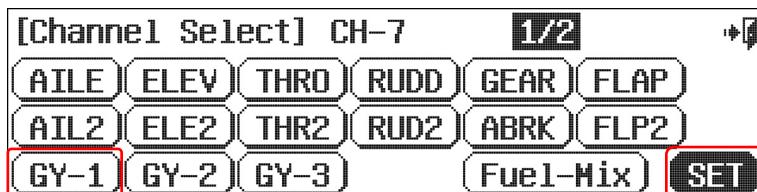
1 : 最初にシステムメニュー画面の「Channel」機能でジャイロ感度に使用するチャンネルを指定します。



2 : ここでは「AUX1」に設定します。「AUX1」→「SEL」とタッチします。



3 : ここで機能を割り当てますので「GY-1」→「SET」とタッチします。



4 : チャンネルの設定を確認したら「EXIT」で戻ります。



5 : モデルメニューの「Gyro」をタッチします。



## ジャイロ感度

6: 「ACT」をタッチして有効にします。



7: 「GY-1」の横の数値が感度になります。「+・RST・-」アイコンで設定します。

8: 完了したら「EXIT」で画面を抜けてください。

## ●スイッチの割当て

画面右の「NULL」をタッチするとスイッチを割当てられます。  
他画面と同じように設定してください。  
2Pスイッチでは2種類の感度、3Pスイッチでは3種類の感度設定が可能です。  
スイッチ位置を確認しながら感度を設定してください。



## モデルメニュー（特殊機能）の詳細説明

この項は飛行機（ACRO）グライダー（GLID）用の特殊機能を説明します。

FLT.COND	フライトコンディション	
Airbrake	エアブレーキ	
ABR-ELE	エアブレーキ→エレベーターミックス	
AIL-RUD	エルロン→ラダーミックス	
ELE-CAM	エレベーター→キャンバーミックス	
RUD-AIL	ラダー→エルロン	
AIL DIFF	エルロンディファレンシャル	
AIL-FLP	エルロン→フラップミックス	
CAMB MIX	キャンバーコントロール	
FLP CON	フラップコントロール	
V.Tail	Vテールミックス	
AILEVATR	エイルベーター	
Elevon	エレボン	
Fuel Mix	フーエルミックス	
Thro.Cut	スロットルカット	
T.Curve	スロットルカーブ	
IdleDown	スロットアイドルダウン	
B-fly	バタフライ（クロウ）ミックス	
SnapRoll	スナップロール	ACRO only
Motor	モーターコントロール	GLID only
Launch	ランチミックス	GLID only

## フライトコンディション（ACRO&amp;GLID）

フライトコンディションとは色々な設定を一括で切替える事ができる機能です。最大8種類のフライトコンディションを設定できます。

下記のモデルメニュー機能をフライトコンディション毎に設定できます。

各機能においてスイッチをフライトコンディション切換えスイッチと同一のスイッチに登録する事により使用できます。

1 : D/R & EXP	デュアルレート&EXP	11 : AIL→FLP	エルロン>フラップ
2 : S.Speed	サーボスピード	12 : CAMBMIX	キャンバーミックス
3 : P.Mixes	プログラムミックス	13 : Launch	ランチモード
4 : T.Curve	スロットルカーブ	14 : FLAP CON	フラップコントロール
5 : Fuel Mix	フーエルミックス	15 : Gyro	ジャイロ感度
6 : ABR→ELE	エアブレーキ>エレベーター	16 : SnapRoll	スナップロール
7 : AIL→RUD	エルロン>ラダー	17 : V.TAIL	Vテール
8 : ELE→CAM	エレベーター>キャンバー	18 : Elevon	エレボン
9 : RUD→AIL	ラダー>エルロン	19 : AILEVATR	エイルベーター
10 : AIL DIFF	エルロンディファレンシャル		

## フライトコンディション (ACRO&amp;GLID)

## ●フライトコンディションの設定方法

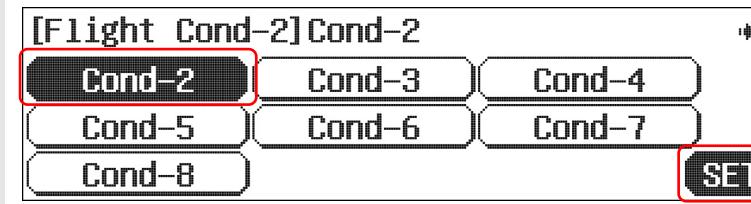
この例では3種類のフライトコンディションをスイッチCで切替える設定を行います。

1: モデルメニューを「FLT.COND」画面を出します。



2: 最初はNORMAL設定だけなので新規に新設します。「INSERT」をクリックして新しいフライトコンディションを追加します。

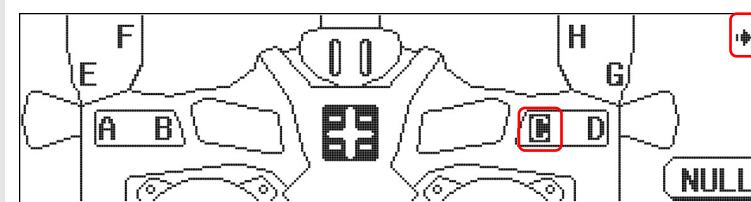
3: 例として「Cond-2」→「SET」とタッチします。



4: 次に切替えスイッチを設定します。「NULL」をタッチして他画面と同じ様にスイッチを選択します。



5: 例として「C」を選択し「EXIT」をタッチします。

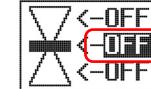


6: 次にスイッチポジションの割当てをします。「Cond-2」を呼び出すスイッチの位置を設定します。希望する位置にスイッチを操作します。そのポイントの「OFF」表示を「ON」アイコンをタッチして「ON」にします。ONの位置が「Cond-2」を呼び出す位置となります。

※他のスイッチ位置には他のフライトコンディションを設定できます。

[Cond-2] NORMAL

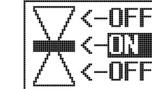
Switch : C  
T.Link : ACT  
Speed : 0



[1] ↪

[Cond-2] Cond-2

Switch : C  
T.Link : ACT  
Speed : 0

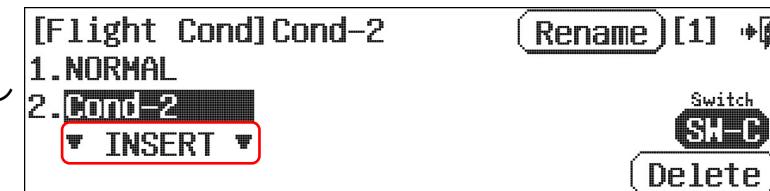


[1] ↪

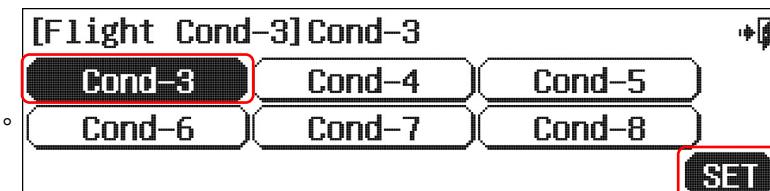
[OFF]

## フライトコンディション (ACRO &amp; GLID)

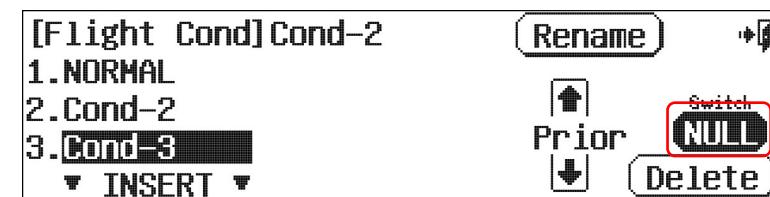
7: 次にもう一つフライトコンディションを設定します。「INSERT」をタッチします。



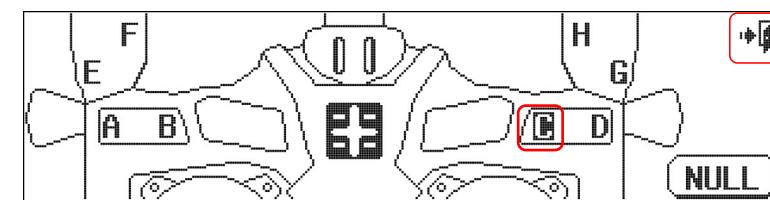
8: 「Cond-3」→「SET」とタッチします。



9: この「Cond-3」を呼び出すスイッチを選択します。「NULL」をタッチしてスイッチ選択画面に入ります。



10: 「Cond-2」と同じスイッチCを選択します。「EXIT」とタッチします。

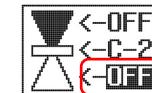


11: 次にスイッチポジションの割当てをします。「Cond-3」を呼び出すスイッチの位置を設定します。既に「Cond-2」の位置は設定済なので違う位置に設定します。希望する位置にスイッチを操作してそのポイントの「OFF」表示を「ON」アイコンをタッチして設定します。ONの位置が「Cond-3」を呼び出す位置となります。

※これでスイッチの3ポジションそれぞれに別々のフライトコンディションが設定されました。

[Cond-3] NORMAL

Switch : C  
T.Link : ACT  
Speed : 0



[0] ↪

[Cond-3] NORMAL

Switch : C  
T.Link : ACT  
Speed : 0



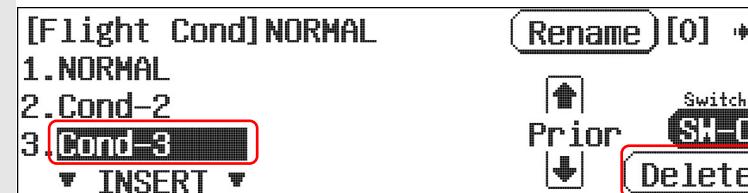
[0] ↪

[OFF]

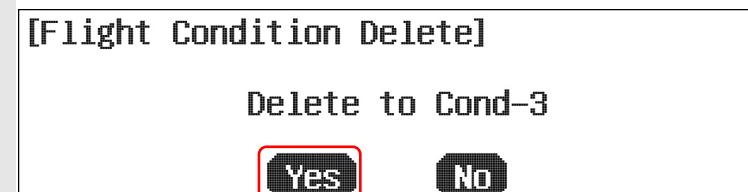
## フライトコンディション (ACRO &amp; GLID)

## ● フライトコンディションの削除

一度作成したフライトコンディションを削除します。



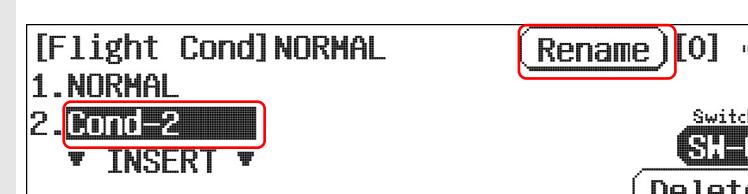
1: 画面で消去したいコンディションをタッチして反転させます。  
そして「Delete」をタッチします。



2: 確認してきますので「Yes」をタッチします。

## ● コンディションネームの登録

設定したフライトコンディションに名前をつけます。



1: 希望するコンディションをタッチして反転表示にします。

2: 「Rename」をタッチするとキーボード画面になりますので名前を入力します。



3: 最後に「Enter」で確定します。

## フライトコンディション (ACRO &amp; GLID) 補足

## ● フライトコンディション間の優先度

画面でどれかのコンディションをタッチして反転表示にします。  
画面右の「Prior」の上下の矢印をタッチすると並びが変更できます

## ● トリムリンク

「NORMAL」をタッチすると画面右に「T.LINK」が表示されます。  
ここを「ACT」にするとトリムリンクが有効になります。



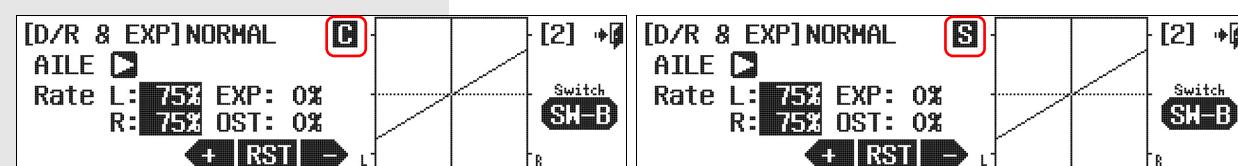
トリムリンクと切換えスピードは「NORMAL」をタッチした時に表示設定できます。

## ● 「Speed」コンディション切換えの時間差

スイッチでコンディションを切替えた後の時間差を設定できます。  
「+・RST・-」部分で時間を設定します。

## ● 「C」「S」の表示説明。

画面上の「C」はコンビネーション、「S」はセパレートを表します。  
各機能の画面で設定数値をフライトコンディションのスイッチ毎に分けるか共通化するかを設定できます。  
各コンディションのポジションにスイッチを切換えてそれぞれ選択します。



## エアブレーキ

スイッチによる着陸用のエアブレーキ設定を行います。



- ここでエアブレーキはスイッチでのON-OFF動作となります。  
調整式のエアブレーキを使用する場合はP-87を参照ください。
- エアブレーキをサイドレバーやデジタルスイッチで操作する設定の場合、  
この画面でスイッチを割当るとスイッチ操作が優先されます。  
それに伴い「ARB→ELE」ミキシングは使用不可能になります。
- 機体に特にエアブレーキを装備していない場合の設定でスパイロンや  
バタフライ動作でのエアブレーキを設定できます。

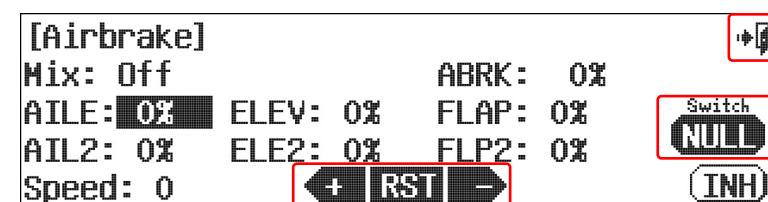
1 : モデルメニューから「Airbrake」をタッチします。



2 : 最初は「INH」で無効なので「ACT」をタッチします。



3 : 最初に操作するスイッチを選択します。「NULL」をタッチして他画面と同じようにスイッチを選択します。



4 : 画面にはエアブレーキとして使用できるチャンネルが表示されます。  
各舵に任意の数値を入れられます。

5 : 「Speed」を設定するとエアブレーキが一旦開いた後に自動的に戻る設定が行えます。

6 : 設定後は「EXIT」で完了です。

## エアブレーキ→エレベーターミックス ABR-ELE (ACRO &amp; GLID)

エアブレーキをサイドレバーでの操作に設定した場合、エアブレーキの操作量に応じてエレベーターにミキシングする機能です。

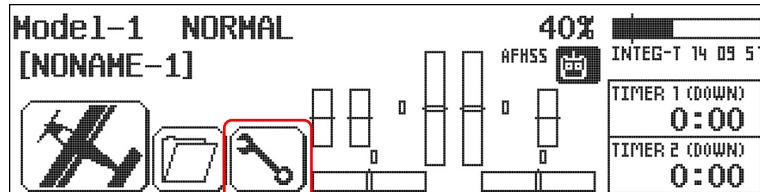


もしエアブレーキをスイッチ操作に設定している場合は、  
このミキシングは動作しません。

## ●エアブレーキの設定

最初にエアブレーキの操作をサイドレバーに設定します。

1 : ホームスクリーン画面からシステムメニュー画面に入ります。



2 : 「Channel」をタッチします。



3 : 「ABRK」が設定してあるチャンネル横の「NULL」→「SEL.」とタッチします。



4 : サイドレバーを設定しますので「RS」又は「LS」をタッチして「SEL.」で決定します。



5 : 「ABRK」の設定を確認したら「EXIT」でシステムメニュー画面に戻ります。



## エアブレーキ→エレベーターミックス ABR-ELE (ACRO&amp;GLID)

前ページの続きです。

6: モデルメニューから「**ABR-ELE**」アイコンをタッチして設定画面に入ります。

7: 「**ACT**」をタッチして、このミキシングをONにします。

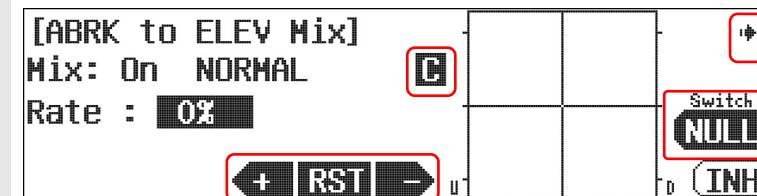


8: Mixの箇所にスイッチが設定されていない場合は画面右の「**NULL**」をタッチしてミキシングのON-OFFスイッチを割り当てます。

フライトコンディションが既に設定されている場合もここに表示されます。

スイッチ別のポジションをよく確認してください。

各フライトコンディションでの数値を別々に設定したい場合は「**S**」表示に、共通で使用する場合は「**C**」表示にします。



9: RATEの数値でエレベーターへのミックス量を調整します。

10: 「**EXIT**」で設定完了です。

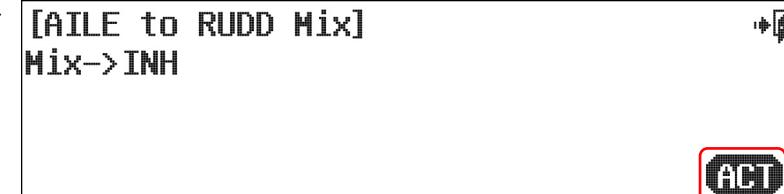
## エルロン→ラダーミキシング AIL-RUD (ACRO&amp;GLID)

エルロンからラダーへのミキシングです。 大型スケール機の操縦に適します。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

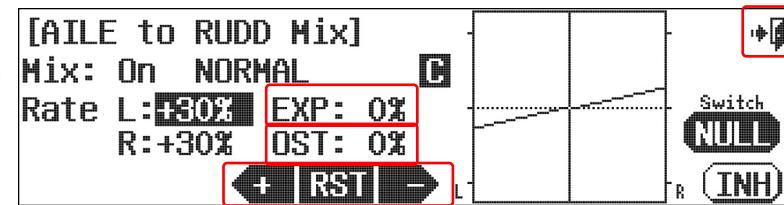
1: モデルメニューの「**AIL-RUD**」アイコンでこの画面に入ります。

2: 「**ACT**」をタッチしてミキシングを有効にします。



3: EXPでミキシングのカーブが設定できます。

4: OSTはオフセットが可能です。



5: Mixの箇所にスイッチが設定されていない場合は画面右の「**NULL**」をタッチしてミキシングのON-OFFスイッチを割り当てます。その画面でトリムリンク「**T.APP**」も設定できます。

6: フライトコンディションが既に設定されている場合もここに表示されます。スイッチ別のポジションをよく確認してください。各フライトコンディションでの数値を別々に設定したい場合は「**S**」表示に、共通で使用する場合は「**C**」表示にします。

6: RATEのLとRで左右別々のミキシング量が設定できます。

7: 「**EXIT**」で設定完了です。

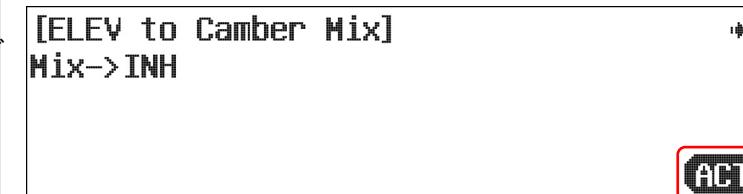
エレベーター→キャンバーミックス ELE-CAM (ACRO & GLID)

エレベーター操作をキャンバー変化にミックスします。  
これはキャンバー変化が可能な舵面構成である必要があります。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

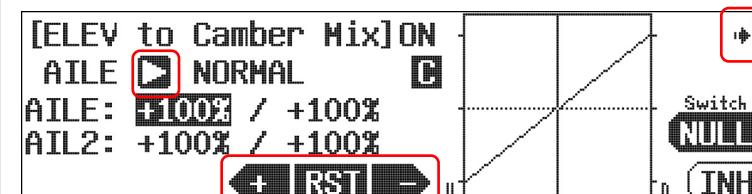
1: モデルメニューの「ELE-CAN」アイコンでこの画面に入ります。

2: 「ACT」をタッチしてミキシングを有効にします。



3: この例の場合は2エルロンの主翼です。それぞれのエルロンへのミックス量を設定します。  
舵面がこれ以上ある場合は三角アイコンをタッチして切換えます。

4: MixのON-OFFスイッチが設定されていない場合は画面右の「NULL」をタッチしてミキシングのON-OFFスイッチを割り当てます。その画面でトリムリンク「T.APP」も設定できます。また「Adjust Function」でミキシング量も飛行中に調整可能の設定可能です。



6: フライトコンディションが既に設定されている場合もここに表示されます。

スイッチ別のポジションをよく確認してください。

各フライトコンディションでの数値を別々に設定したい場合は「S」表示に、  
共通で使用する場合は「C」表示にします。

7: 「EXIT」で設定完了です。

ラダー→エルロンミックス (ACRO & GLID)

ラダー操作をエルロンにミックスします。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

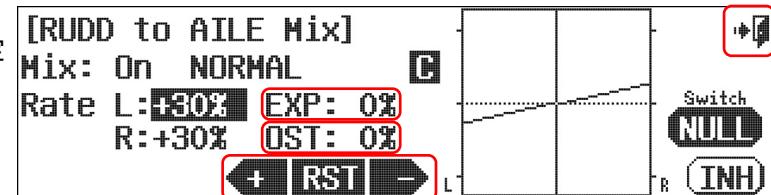
1: モデルメニューの「RUD-AIL」アイコンでこの画面に入ります。

2: 「ACT」をタッチしてミキシングを有効にします。



3: EXPでミキシングのカーブが設定できます。

4: OSTはオフセットが可能です。



5: Mixの箇所にスイッチが設定されていない場合は画面右の「NULL」をタッチしてミキシングのON-OFFスイッチを割り当てます。その画面でトリムリンク「T.APP」も設定できます。

6: フライトコンディションが既に設定されている場合もここに表示されます。  
スイッチ別のポジションをよく確認してください。  
各フライトコンディションでの数値を別々に設定したい場合は「S」表示に、  
共通で使用する場合は「C」表示にします。

6: RATEのLとRで左右別々のミキシング量が設定できます。

7: 「EXIT」で設定完了です。

エルロンデファレンシャル ADIFF (ACRO & GLID)

2 サーボ以上の主翼ではエルロンの上下の舵角に差をつける事ができます。  
特にクーラークYや半対称の翼型では、この差動を付けないと抵抗成分の影響で  
機首が逆に向く現象が出易くなります。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1: モデルメニューの「AIL DIFF」アイコンでこの画面に入ります。

2: この機能のON-OFFスイッチが設定されていない場合は画面右の「NULL」をタッチして  
ON-OFFスイッチを割り当てます。その画面でトリムリンク「T.APP」も設定できます。



3: フライトコンディションが既に設定されている場合もここに表示されます。  
スイッチ別のポジションをよく確認してください。

各フライトコンディションでの数値を別々に設定したい場合は「S」表示に、  
共通で使用する場合は「C」表示にします。

4: 「AILE」と「AIL2」でそれぞれのエルロンの舵角を設定できます。  
必ずサーボを動作させて確認してください。

通常、下側の舵角を50%から試してください。

5: 「EXIT」で設定完了です。

エルロン→フラップミックス AIL-FLP (ACRO & GLID)

2 フラップ以上のフラップを持つ主翼ではエルロン操作をフラップに  
ミックスして全翼エルロンが可能です。

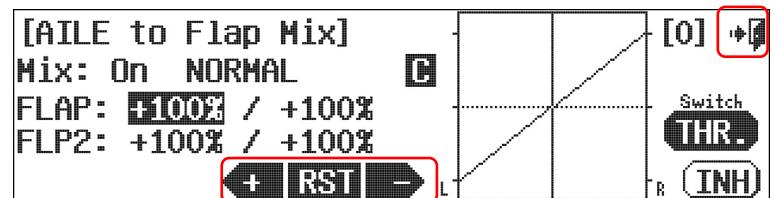
この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1: モデルメニューの「AIL-FLP」アイコンでこの画面に入ります。

2: 「ACT」をタッチしてミキシング  
を有効にします。



3: 機能のON-OFFスイッチが設定されていない場合は画面右の「NULL」をタッチして  
ON-OFFスイッチを割り当てます。その画面でトリムリンク「T.APP」も  
設定できます。



4: フライトコンディションが既に設定されている場合もここに表示されます。  
スイッチ別のポジションをよく確認してください。

各フライトコンディションでの数値を別々に設定したい場合は「S」表示に、  
共通で使用する場合は「C」表示にします。

5: 左右のフラップ「FLAP」と「FLAP2」にそれぞれのエルロン操作量を設定できます。  
必ずサーボを動作させて確認してください。

通常、下側の舵角を50%から試してください。

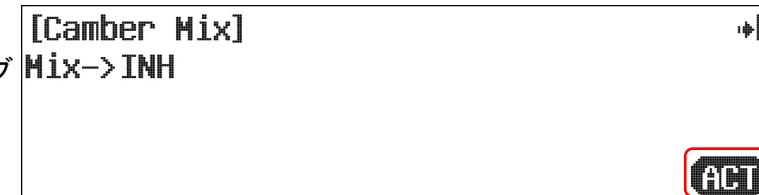
6: 「EXIT」で設定完了です。

キャンバーミックス CAMBMIX (ACRO&GLID)

2エルロン以上の舵面構成の主翼で翼型を可変させる設定  
ができます。同時にエレベーターの補正もできます。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1: モデルメニューの「CANBMIX」アイコンでこの画面に入ります。

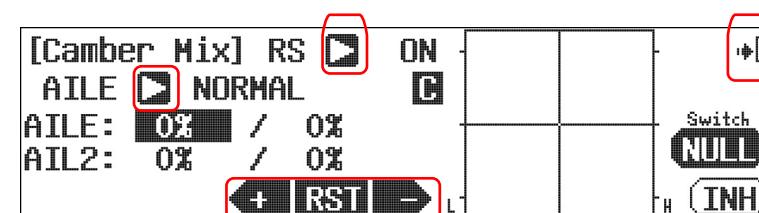


2: 「ACT」をタッチしてミキシングを有効にします。

3: 最初にキャンバーを操作するスイッチ、レバーを選択します。  
画面最上部の三角アイコンをタッチすると選択画面に進みます。

4: 次に、フラップやエルロンの可変量を設定します。  
舵面が複数ある場合は三角アイコンをタッチして各舵面に切換えます。

5: 機能のON-OFFスイッチが設定されていない場合は画面右の「NULL」をタッチしてスイッチを割り当てます。  
また「Adjust Function」でミックス量も飛行中に調整可能です。



6: フライトコンディションが既に設定されている場合もここに表示されます。  
スイッチ別のポジションをよく確認してください。  
各フライトコンディションでの数値を別々に設定したい場合は「S」表示に、  
共通で使用する場合は「C」表示にします。

7: 「EXIT」で設定完了です。

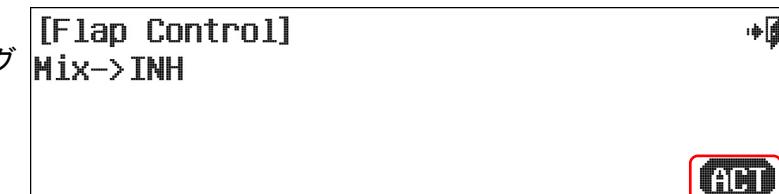
フラップコントロール FLAP CON (ACRO&GLID)

フラップ動作角度の設定とエレベーターへのミックスを行います。

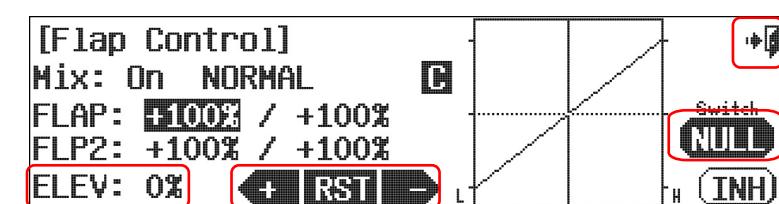
この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1: モデルメニューの「FLAP CON」アイコンでこの画面に入ります。

2: 「ACT」をタッチしてミキシングを有効にします。



3: 最初にこの機能を切替えるイッチを選択します。  
画面右の「NULL」をタッチすると選択画面に進みます。  
「Adjust Function」でミックス量も飛行中に調整可能です。



4: 次に、フラップの動作量を設定します。  
設定する箇所をタッチして反転表示させて「+・RST・-」部分で調整します。  
「ELEV」でエレベーターの補正も設定できます。

5: フライトコンディションが既に設定されている場合もここに表示されます。  
スイッチ別のポジションをよく確認してください。  
各フライトコンディションでの数値を別々に設定したい場合は「S」表示に、  
共通で使用する場合は「C」表示にします。

6: 「EXIT」で設定完了です。

## Vテール V.Tail (ACRO &amp; GLID)

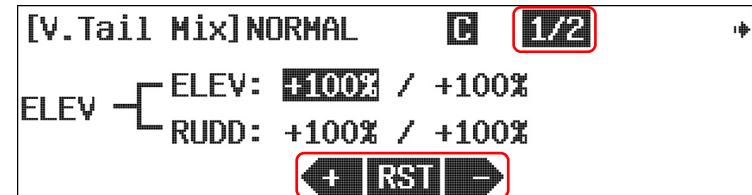
尾翼がV型（ラダベーター）の機体に使用します。  
エレベーターとラダーをクロスマックスします。



この機能の初期設定は各100%になっていますので  
通常、改めて調整する必要はありません。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

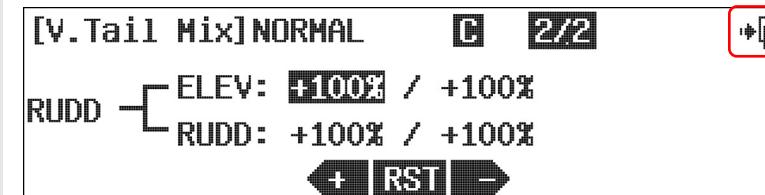
1: モデルメニューの「V.Tail」アイコンでこの画面に入ります。



2: 最初にエレベーター操作のミックス量を設定します。  
設定する箇所をタッチして反転表示させてスティックを操作しながら  
「+・RST・-」部分で調整します。

5: 次にラダー操作のミックス量を設定します。画面右上のページアイコンをタッチして次画面に切替えます。設定する箇所をタッチして反転表示させてスティックを操作しながら  
「+・RST・-」部分で調整します。

6: 「EXIT」で設定完了です。



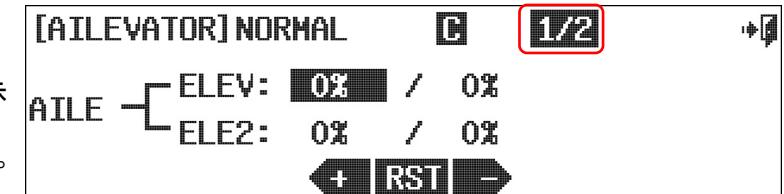
## エイルベーター AILEVATR (ACRO &amp; GLID)

エレベーターを2つのチャンネルで構成されている場合に  
エレベーター動作にエルロン動作をミックスできます。  
テイルロンとも呼びます。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

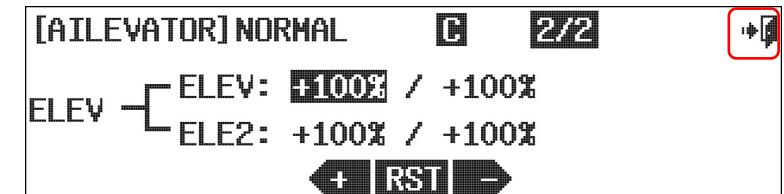
1: モデルメニューの「AILEVATR」アイコンでこの画面に入ります。

2: 最初にエルロン操作のミックス量を設定します。  
設定する箇所をタッチして反転表示させてスティックを操作しながら  
「+・RST・-」部分で調整します。



5: 次にエレベーター操作のミックス量を設定します。画面右上のページアイコンをタッチして次画面に切替えます。設定する箇所をタッチして反転表示させてスティックを操作しながら  
「+・RST・-」部分で調整します。

6: 「EXIT」で設定完了です。



## エレボン Elevon (ACRO&amp;GLID)

無尾翼の機体でのエルロンとエレベーターのミックスです。

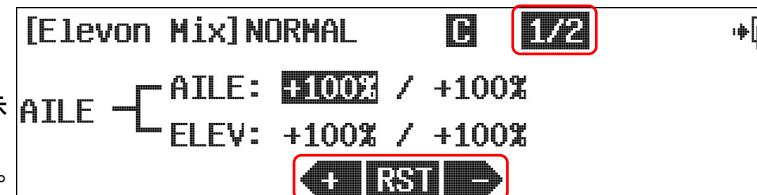


この機能の初期設定は各100%になっていますので通常、改めて調整する必要はありません。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

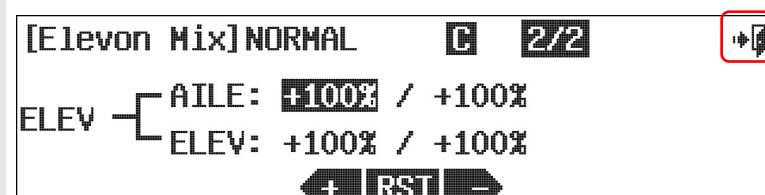
1: モデルメニューの「Elevon」アイコンでこの画面に入ります。

2: 最初にエルロン操作のミックス量を設定します。  
設定する箇所をタッチして反転表示させてスティックを操作しながら「+・RST・-」部分で調整します。



5: 次にエレベーター操作のミックス量を設定します。画面右上のページアイコンをタッチして次画面に切替えます。設定する箇所をタッチして反転表示させてスティックを操作しながら「+・RST・-」部分で調整します。

6: 「EXIT」で設定完了です。



## フューエルミックス Fuel Mix (ACRO)

スロットル操作からニードルコントロールへミックスする機能です。  
スイッチでミックス量の切替えや飛行しながらの調整も可能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。



ニードルコントロールのリンクエージは確実に行ってください。

1: モデルメニューの「Fuel Mix」アイコンでこの画面に入ります。

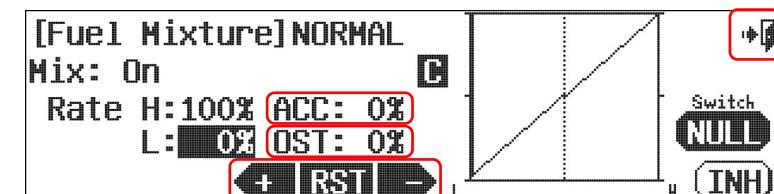
2: 「ACT」をタッチしてこの機能を有効にします。



3: Rateでミックス量を「+・RST・-」部分で調整します。

4: 「ACC」はアクセレーション量で加速度ミキシングです。  
サーボを動作させてご確認ください。

5: 「OST」はオフセット量です。スイッチで切替えると便利です。



6: 「NULL」で機能の切替え用のスイッチ選択ができます。  
その画面の「Adjust Function」でミックス量を飛行しながら調整する事も可能です。

7: 「EXIT」で設定完了です。

## スロットルカット Tho.Cut (ACRO)

スロットルカット機能は通常のスティック操作範囲外の位置にサーボを動作させてエンジンを停止させる為の機能です。これはスティックの任意の位置でスイッチ動作する事ができます。

1: モデルメニューから「Tho.Cut」アイコンでこの画面に入ります。



2: 「ACT」でこの機のを有効にします。

3: 「NULL」でスイッチ選択画面に行きます。

その画面で機能のON-OFFスイッチを選択すると「CutPosition」が使用できます。これはスロットルスティックの位置でサーボをカット位置にロックする動作をします。実際にサーボを動作させて確認してください。

4: Rateでキャブが閉じる位置にサーボを調整します。

5: 「EXIT」で完了です。



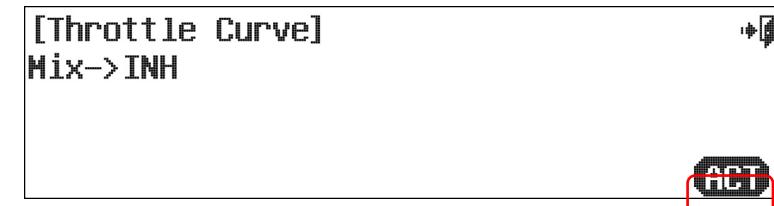
## スロットルカーブ T.Curve (ACRO)

スロットルカーブはスティック操作でのサーボ動作にカーブをつける機能です。スイッチでの切換えやアクセレーション効果も調整できます。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

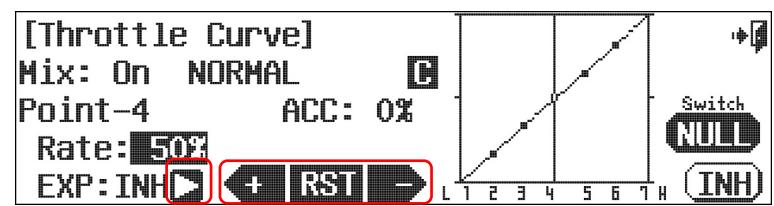
1: モデルメニューから「T.Curve」アイコンでこの画面に入ります。

2: 「ACT」をタッチしてこの機能を有効にします。



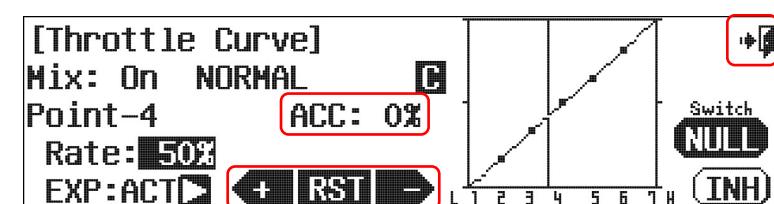
3: スティック動作に対するカーブ曲線を画面のグラフで確認できます。スティックをグラフの各ポイントに置いて「Rate」の数値を調整します。

4: 「EXP」は各ポイントの接続を曲線で滑らかにします。



5: 「ACC」はアクセレーション機能でスティックの操作速度に応じてサーボがオーバーシュート動作をするものです。実際にサーボの動作で確認してください。スロットルレスポンスの改善に役立ちます。

6: 設定を確認したら「EXIT」で完了です。

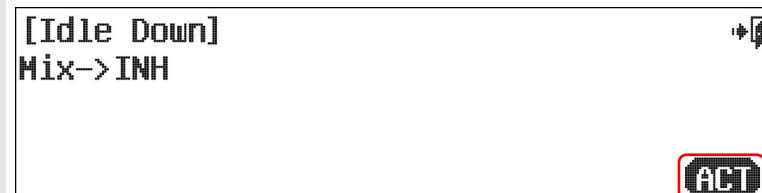


## アイドルダウン Idle Down(ACRO)

アイドルダウン機能は通常のスティックのスロー側より下に操作範囲を広げる機能です。スイッチによってON-OFFできます。

1: モデルメニューから「Idle Down」アイコンでこの画面に入ります。

2: 「ACT」でこの機能を有効にします。



3: 画面右の「NULL」でスイッチ選択画面に行きます。

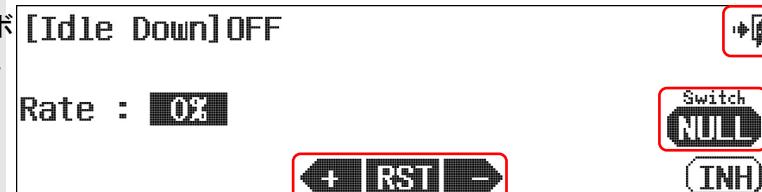
その画面で機能のON-OFFスイッチを選択します。

また「Adjust to Trim」でトリムの有効-無効も選択できます。

4: この機能が動作した時のサーボのスロー側は「Rate」の数値で設定します。

実際にサーボを動作させてリンクエージがロックしないか確認してください。

5: 「EXIT」で完了です。



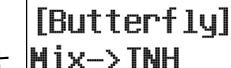
## バタフライミックス B-fly (GLID)

バタフライミックスはエルロンとフラップを交互に展開させてエアブレーキを実現する機能です。スイッチでの操作以外にスロットルスティックでの比例操作、またはスティックの任意の位置でのスイッチ動作も設定できます。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

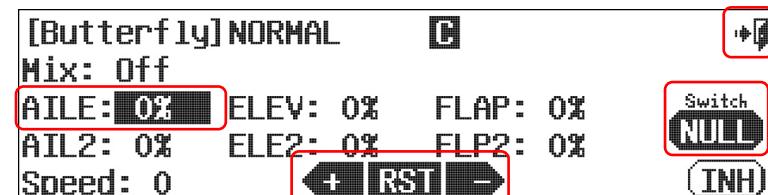
1: モデルメニューから「B-fly」でこの画面に入ります。

2: 「ACT」でこの機能を有効にします。



3: 最初に操作するスイッチやスティックを設定します。画面右の「NULL」から画面に進みます。スイッチ選択画面でスロットル「THR」を選択するとスロットルスティックでのリニア操作ができます。

4: また、スイッチを選択している場合「Cut Position」でスティックの任意の位置でスイッチ動作する設定もできます。ONの方向、そして数値をタッチして「SEL」で現在のスティック位置が切換えポイントとなります。 「Adjust Function」ではミックス量を飛行しながら調整できます。



5: ミックス量はこの機能画面の各チャンネルの数値をタッチして設定します。エレベーターにもミックスが可能です。

6: 「Speed」はスイッチ動作時の切換え速度を調整できます。

7: 設定が終わりましたら「EXIT」で完了です。

## スナップロール SnapRoll (ACRO)

スナップロール機能はスイッチ操作でエルロン、エレベーター、ラダーを設定してある位置に自動で切換えてスナップロール操作を自動化する機能です。

この機能はライトコンディション毎に設定できます。

●次の4種類のスナップロールを設定できます。

R/U=右インサイドスナップ

L/U=左インサイドスナップ

R/D=右アウトサイドスナップ

L/D=左アウトサイドスナップ

●この機能は二種類の使用方法があります。

1: いずれかの方向をシングル動作で行う。

2: 4方向のスナップを設定したスイッチで切替えて操作を行う。

●シングル動作の設定

1: モデルメニューから「SnapRoll」アイコンをタッチします。 (2ページ目にあります)



2: 「ACT」をタッチして機能を有効にします。

3: 画面右の「NULL」からスイッチ設定画面に入ります。

通常はセルフリターンの「H」をマスター（操作）スイッチとして設定します。



## スナップロール SnapRoll (ACRO)

4: 「Direction」右横の三角アイコンをタッチするとスナップの方向選択ダイアログが表示されます。どれかをタッチして選択します。

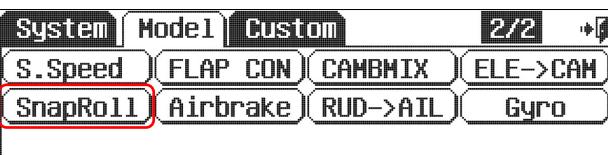
5: 続いて各舵の角度を設定します。画面左の各舵の名称右側の数値をタッチして反転表示させて「+・RST・-」で設定します。

6: 「H」スイッチで各サーボが設定の位置になる事を確認してください。

7: 「EXIT」で画面を抜け完了です。

●マルチ「Multi」動作の設定

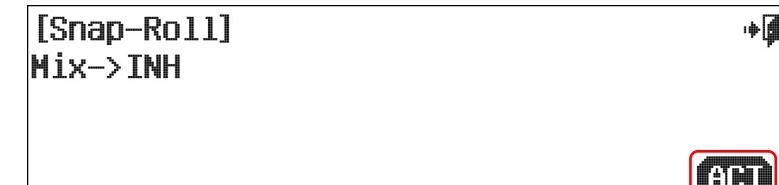
1: モデルメニューから「SnapRoll」アイコンをタッチします。 (2ページ目にあります)



2: 「ACT」をタッチして機能を有効にします。

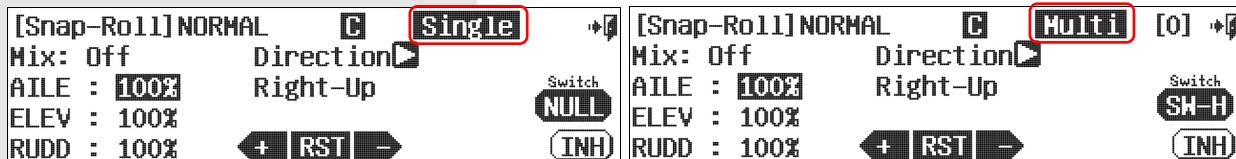
3: 画面右の「NULL」からスイッチ設定画面に入ります。

通常はセルフリターンの「H」をマスター（操作）スイッチとして設定します。



## スナップロール SnapRoll (ACRO)

4: 「Single」アイコンをタッチすると「Multi」に切換ります。



5: 「Direction」横の三角アイコンをタッチすると全方向のスイッチ選択ダイアログが出ます。

6: 各方向、それぞれに画面右の「NULL」でスイッチを設定します。

※各方向のスイッチは別々に設定してください。

7: スイッチを設定した後に各方向スイッチを操作して希望のスナップ方向が表示されるか確認してください。方向スイッチは後に操作したもののが優先となります。

8: 各方向別にスナップ時の舵の動作角度を設定します。

「Direction」横の三角アイコンでダイアログを開いて方向を選びます。

9: 続いて各舵の角度を設定します。  
画面左の各舵の名称右側の数値をタッチして反転表示させて「+・RST・-」で設定します。

10: 「EXIT」で画面を抜け完了です。



## モーター制御 Motor (GLID)

モーターをスイッチでON-OFFする機能です。急な回転変化は好ましくないのでスティックで操作するように自動的にESCへの信号をなだらかに変化させることができます。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1: モデルメニューの「Motor」アイコンで機能画面に入ります。

2: 「ACT」で機能を有効にします。 [Motor Control]  
Mix->INH



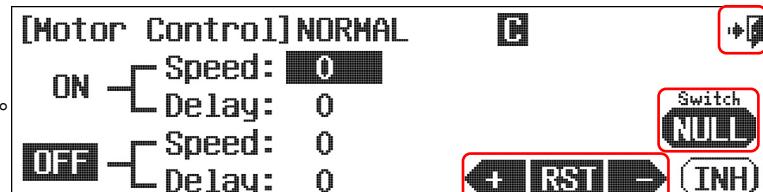
3: モーターをON-OFFをするスイッチを選択します。  
画面右の「NULL」からスイッチ選択画面に進みます。

4: モーター回転の切換えタイミングを設定します。

ON: Speed=モーターが停止～最大出力になるまでの時間です。  
ON: Dely=ONのスイッチ操作が反映される遅延時間です。  
OFF: Speed=モーターが最大出力～停止になるまでの時間です。  
OFF: Dely=OFFスイッチ操作が反映される遅延時間です。

※時間の単位は0.1秒ステップです。

5: 設定が済みましたら「EXIT」でメニュー画面に戻り完了です。



注意: 「ON」の「Speed」は必ずある程度の数値を入れてください。急な切換えでは電池やESCに大きな電流が流れ危険です。



時間の設定は最初は受信機にサーボを接続して動作を確認してから行ってください。  
Delayで待機中、送信機はアラーム音を出します。

## ランチモード Launch (GLID)

グライダーをウインチやショックコードで発航する時のエルロンやフラップ、エレベーターをプリセットする機能です。

この機能はライトコンディション毎に設定できます。

1: モデルメニューから「Launch」でこの画面に入ります。



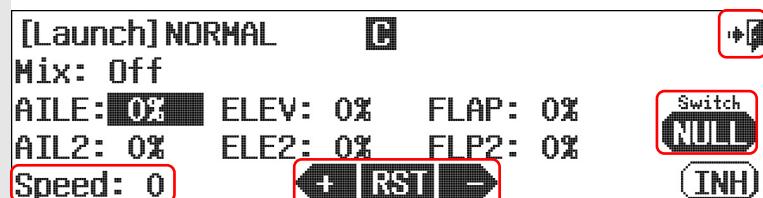
2: 「ACT」でこの機能を有効にします。

3: この機能のON-OFFスイッチを選択します。画面右の「NULL」から選択画面に入れます。その画面の「Cut Function」でスティックでのカットが可能です (P71参照)

4: 各舵の位置を設定します。希望箇所をタッチして反転表示にして「+・RST・-」で部分で変更します。

5: 「Speed」はカットした後、各舵が戻るまでの変化時間です。サーボ動作でご確認ください。

6: 「EXIT」で設定完了です。



曳航索から離脱する時のカット方法はP71を参照ください。スティック操作でのカットが可能です。

## モデルメニュー (特殊機能) の説明

ここではヘリコプター (HELI) 用の特殊機能を説明します。

## Section Seven



AUROLA9のお客様で最初の機体がヘリコプターの場合は、この項の前に下記の項目を最初にお読みください。

- 1.セクション3 (Section three) ヘリクイックスタートガイド
- 2.セクション4 (Section four) システムメニュー
- 3.セクション5 (Section five) モデルメニュー標準機能

## ヘリ用の特殊機能

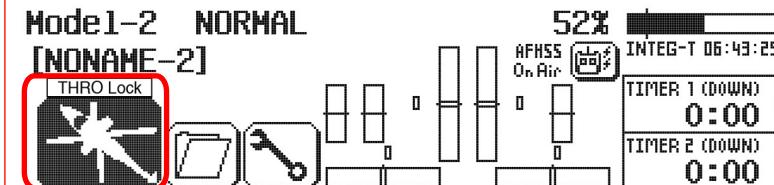
Flight Conditions	ライトコンディション
P. Curve & T. Curve	ピッチ&スロットルカーブ
Needle	スワッシュースロットルミックス
SWH->THR	ラダー→スロットルミックス
RUD->THR	スロットル・ホールド
T. HOLD	スワッシュミキシング
SwashMix	レヴォリューションミックス
REVO Mix	ジャイロ感度
Gyro	ガバナーコントロール
Governor	

## 他モデルタイプ共通の標準機能

EPA	エンドポイント調整
D/R & EXP	デュアルレート&エクスパンション
Sub-Trim	サブトリム
Reverse	リバース
S. Speed	サーボスピード
Monitor	サーボモニター
P. Mixs	プログラムミキシング
FailSafe QPCM	フェイルセーフ 72MHz
FailSafe 2.4	フェイルセーフ 2.4GHz

## スロットルロック

エンジンが始動した機体や電動機を離陸場所に移動中に誤ってスロットルスティックに触れてローターが不用意に回ってしまう事故を防ぐ為の機能です。

Model-2 NORMAL  
[NONAME-2]

画面左下のモデルアイコンを1秒間押し続けるとアイコンは黒になり「THRO LOCK」マークが表示されまスロットル位置はアイコンを押した時の位置に固定されます。

## フライトコンディション (HELI)

フライトコンディションとは  
色々な設定を一括で切替える事ができる機能です。  
最大8種類のフライトコンディションを設定できます。

下記のモデルメニュー機能をフライトコンディション毎に設定できます。

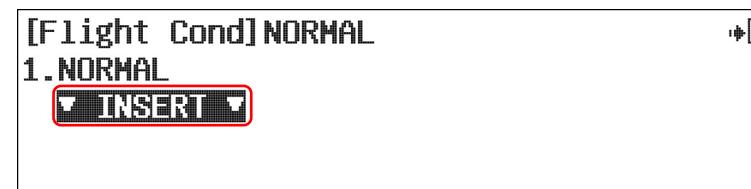
各機能においてスイッチをフライトコンディション切替えスイッチ  
と同一のスイッチに登録する事により使用できます。

- 1 : D/R & EXP デュアルレート&EXP
- 2 : S.Speed サーボスピード
- 3 : P.Mixes プログラムミックス
- 4 : T.Curve ピッチカーブ
- 5 : P.Curve スロットルカーブ
- 6 : Fuel Mix フューエルミックス
- 7 : Needle Contril ニードルコントロール
- 8 : Gyro ジャイロ感度
- 9 : Swash→Throttle Mix スワッシュ>スロットルミックス
- 10 : Rudder→Throttle Mix ラダー>スロットルミックス
- 11 : Gavener ガバナーコントロール

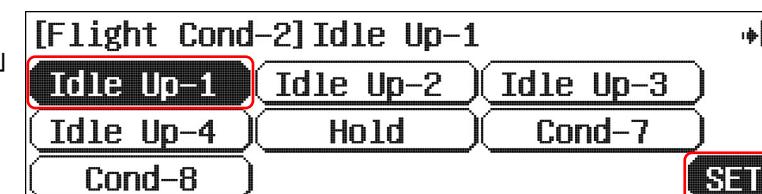
## ●フライトコンディションの設定方法

この例では3種類のフライトコンディションをスイッチEで切替える設定を行います。

1 : モデルメニューを「FLT.COND」  
画面を出します。



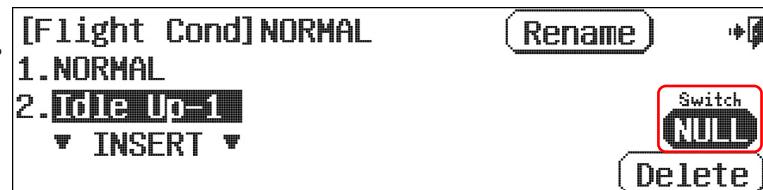
2 : 最初はNORMAL設定だけなので  
新規に新設します。「INSERT」  
をクリックして新しいフライト  
コンディションを追加します。



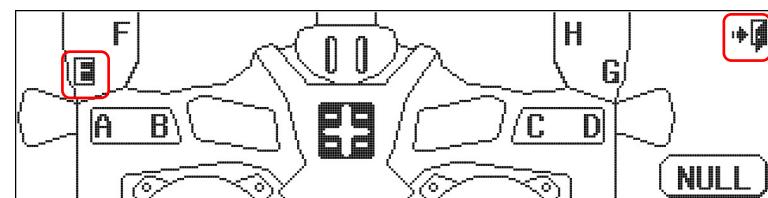
3 : 例として「Idle Up-1」→「SET」  
とタッチします。

## フライトコンディション (HELI)

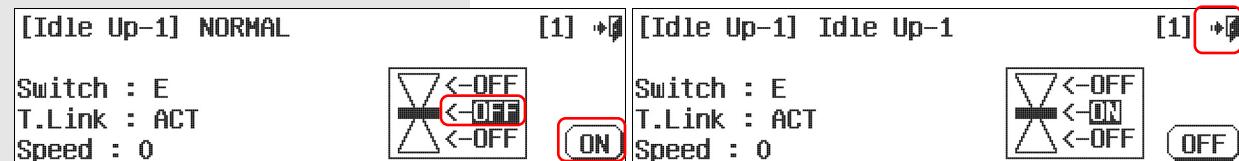
4 : 次に切替えスイッチを設定します。  
「NULL」をタッチして他画面と同  
じくスイッチを選択します。



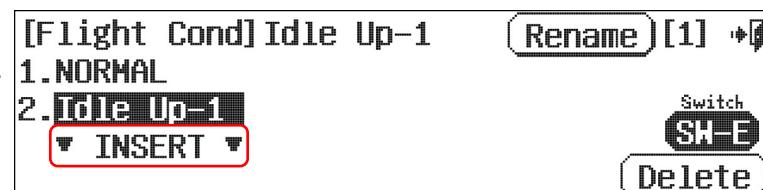
5 : 例として「E」を選択し「EXIT」  
をタッチします。



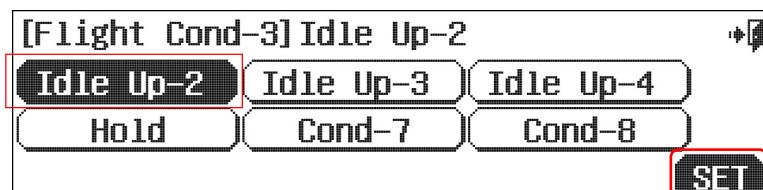
6 : 次にスイッチポジションの割当てをします。「Idle Up-1」を呼び出すスイッチの位置を設定します。  
希望する位置にスイッチを操作します。そのポイントの「OFF」表示を「ON」アイコンをタッチ  
して「ON」にします。ONの位置が「Idle Up-1」を呼び出す位置となります。  
※他のスイッチ位置には他のフライトコンディションを設定できます。



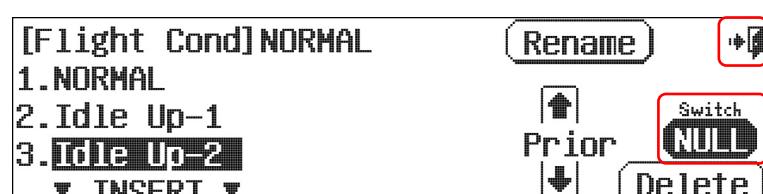
7 : 次にもう一つコンディションを  
設定します。「INSERT」をタッチ  
します。



8 : 「Idle Up-2」→「SET」と  
タッチします。



9 : この「Idle Up-2」を呼び出す  
スイッチを選択します。「NULL」  
をタッチしてスイッチ選択画面に  
入ります。

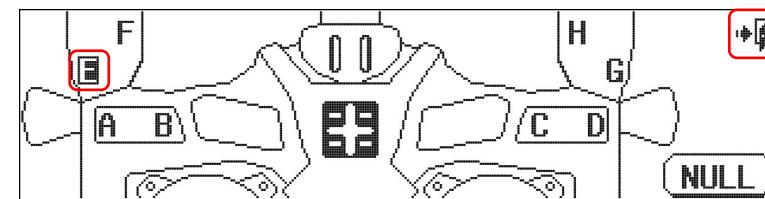


## フライトコンディション (HELI)

10: 「SEL」をタッチしてスイッチ選択画面に進みます。



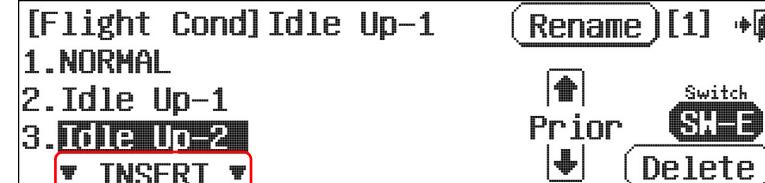
11: 「Idle Up-2」と同じスイッチEを選択します。  
「EXIT」とタッチします。



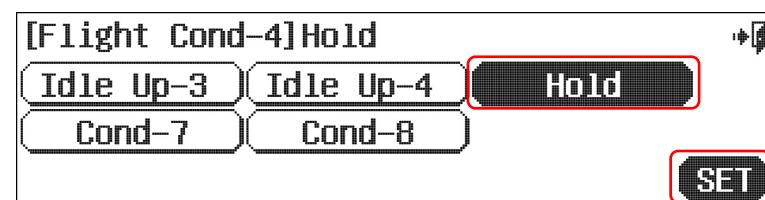
12: 次にスイッチポジションの割当てをします。「Idle Up-2」を呼び出すスイッチの位置を設定します。  
既に「Idle Up-1」の位置は設定済なので違う位置に設定します。  
希望する位置にスイッチを操作してそのポイントの「OFF」表示を「ON」をタッチして設定します。ONの位置が「Idle Up-2」を呼び出す位置となります。  
※これでEスイッチに3つのコンディションが設定されました。



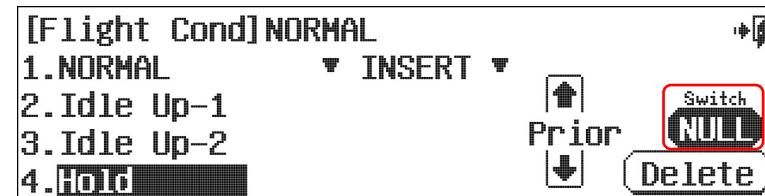
13: 次にスロットルホールドの為のコンディションを追加します。  
「INSERT」をタッチします。



14: 「Hold」→「SET」とタッチします。

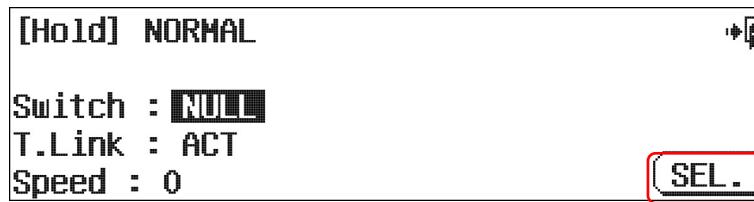


15: このコンディション用のスイッチを設定します。  
「NULL」をタッチします。

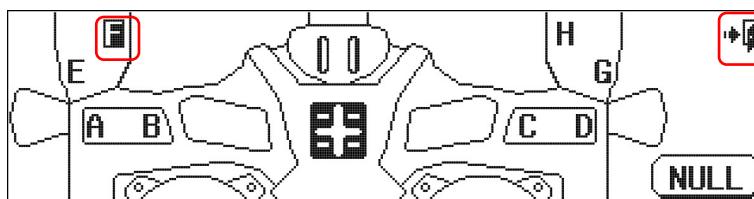


## フライトコンディション (HELI)

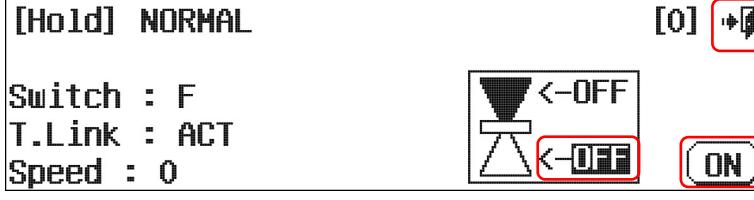
16: 現在、スイッチは未設定「NULL」なので「SEL」をタッチしてスイッチ選択画面に進みます。



17: 例として「F」→「EXIT」とタッチします。これがスロットルホールドスイッチになります。



18: スイッチの向きを設定します。  
希望の方向にスイッチを倒し、その場所の「OFF」表示を「ON」にします。



19: 「EXIT」で完了です。  
スロットルホールドの詳細設定はP124を参照ください。

## ● フライトコンディション間の優先度

画面でどれかのコンディションをタッチして反転表示にします。  
画面右の「Prior」の上下の矢印をタッチすると並びが変更できます

## ● トリムリンク

「NORMAL」をタッチすると画面右に「T.LINK」が表示されます。  
ここを「ACT」にするとトリムリンクが有効になります。



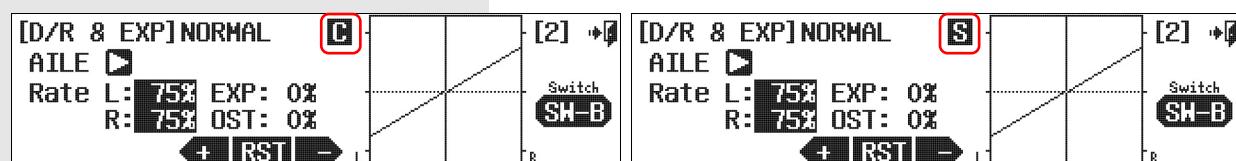
トリムリンクと切換えスピードは「NORMAL」をタッチした時に表示設定できます。

## ● 「Speed」コンディション切換えの時間差

スイッチでコンディションを切替えた後の時間差を設定できます。  
「+・RST・-」部分で時間を設定します。

## ● 「C」「S」の表示説明。

画面上の「C」はコンビネーション、「S」はセパレートを表します。  
各機能の画面で設定数値をフライトコンディションのスイッチ毎に分けるか共通化するかを設定できます。  
各コンディションのポジションにスイッチを切換えてそれぞれ選択します。

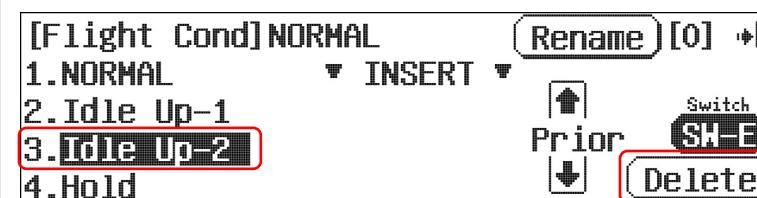


フライトコンディション (HELI)

●フライトコンディションの削除

一度作成したフライトコンディションを削除します。

1: 画面で消去したいコンディションをタッチして反転させます。  
そして「Delete」をタッチします。



2: 確認してきますので「Yes」をタッチします。

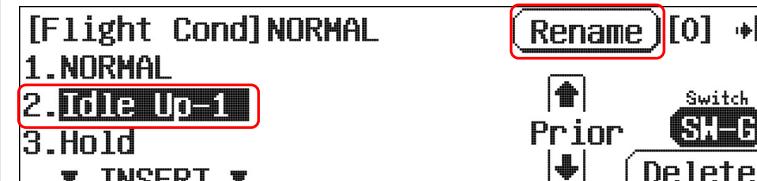


●コンディションネームの登録

設定したフライトコンディションに名前をつけます。

1: 希望するコンディションをタッチして反転表示にします。

2: 「Rename」をタッチするとキーボード画面になりますので名前を入力します。



3: 最後に「Enter」で確定します。



ピッチ&スロットルカーブ (HELI)

ピッチカーブとスロットルカーブは名称以外は同じ表示画面です。  
ここでの説明は両方の画面で説明してありますが設定はそれぞれの画面にて行ってください。

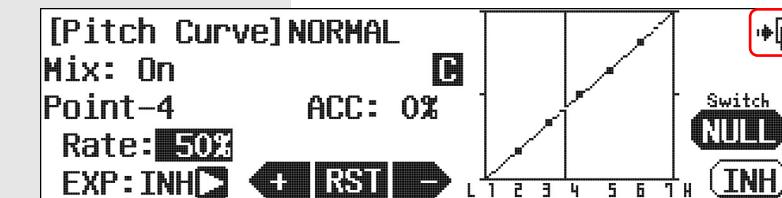
この機能はフライトコンディション毎に設定できます。



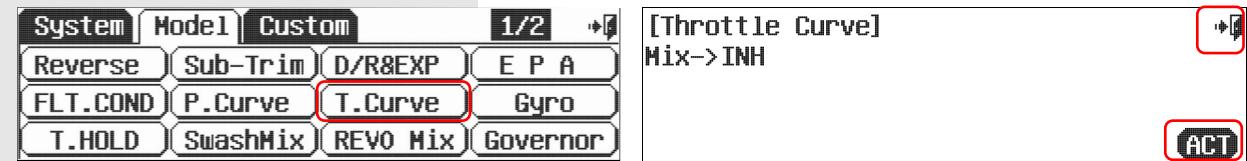
1: モデルメニューから「P. Curve」をタッチして設定画面に入ります。  
2: 「ACT」を押して機能を有効にします。



3: 「EXIT」で一旦モデルメニューに戻ります。



4: モデルメニューから「T. Curve」をタッチして設定画面に入ります。  
5: 「ACT」を押して機能を有効にします。



6: 「EXIT」で一旦モデルメニューに戻ります。

7: 両方の画面で赤枠の三角アイコンをタッチするとピッチ画面とスロットル画面をモデルメニューに戻る事無く切替えられます。



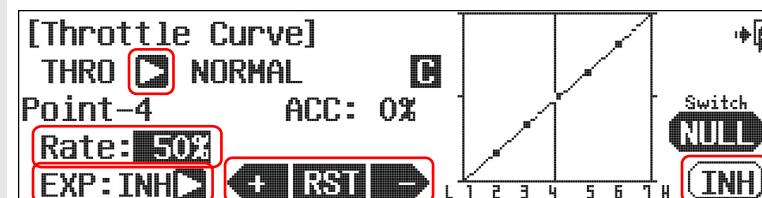
## ピッチ&amp;スロットルカーブ (HELI)

8: フライトコンディションとは別にスイッチを割当てると各コンディションごとに複数（最大3種類）のカーブが設定可能です。スイッチの割り当ては画面右の「NULL」から行ってください。

9: スロットルスティックを操作すると画面右のグラフのバーが移動します。  
調整したいポイントにスティックを操作して「Rate」の数値を設定してください。  
結果はグラフに反映されます。

10: 「EXP」はポイント間を曲線で結ぶカーブになります。

11: 「EXIT」でメニュー画面に戻り完了です。



コンディションスイッチの位置やサブスイッチごとに異なった設定が可能です。  
画面の表示をよく確認しながら設定変更を行ってください。

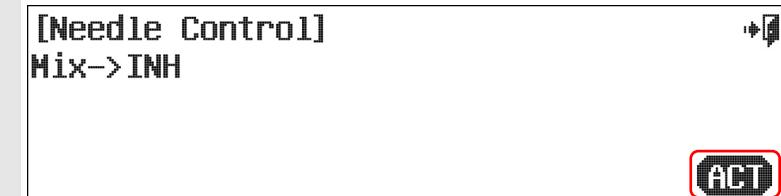
## ニードルコントロール (HELI)

キャブレターのニードルをサイドレバー「LS」で調整できると同時に  
ピッチチャンネルからもミキシングが掛けられます。  
この機能の方がフーエルミックスチャよりヘリコプターには適します。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

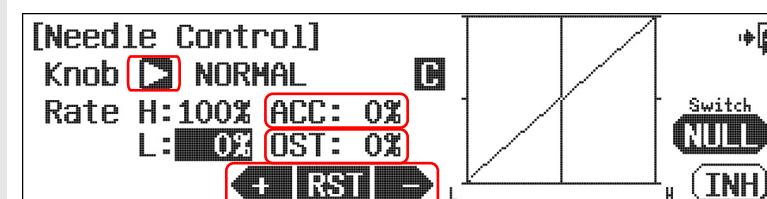
1: モデルメニューから「Needle」をタッチして画面に入ります。

2: 「ACT」で機能を有効にします。



3: 必要であれば画面右の「NULL」から機能のON-OFFスイッチを設定できます。

4: 「△」アイコンでニドルサーボへの入力先画面を切換えられます。  
「Knob」はサイドレバー「LS」です。



5: それぞれ調整したい箇所の数値アイコンをタッチして反転表示させて  
「+・RST・-」部分で設定します。

6: 「ACC」や「OST」は必要であれば設定してください。  
尚「ACC」はピッチからの入力のみに適用されます。

7: 設定が済みましたら「EXIT」で完了です。

## スワッシュプレート→スロットルミックス SWH-THR (HELI)

スワッシュプレートが変化する（エルロン、エレベーター）動作に対してスロットルヘミックスして高度低下を防ぐ為の機能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1: モデルメニューから「SWH-THR」でこの画面に入ります。

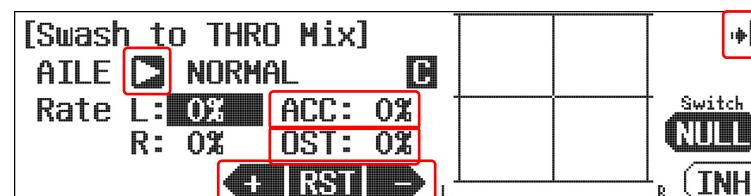


2: 「ACT」で機能を有効にします。

3: この機能のON-OFFを飛行中に行いたい場合は画面右の「NULL」でスイッチ選択画面に進みます。

4: スイッチ選択画面の「Adjust Function」でトリムのように微調整できます。

サーボ動作でよく確認してください。



5: 三角アイコンで入力操作を切替えられます。  
それぞれの画面でミックス量の設定を行います。

6: 「ACC」「OST」も必要であれば設定します。

7: 「EXIT」で完了です。

## ラダー→スロットルミックス RUD-THR (HELI)

ラダー操作からスロットルヘミックスして高度低下を防ぐ為の機能です。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1: モデルメニューから「SWH-THR」でこの画面に入ります。

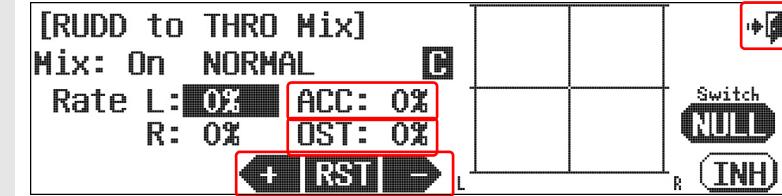


2: 「ACT」で機能を有効にします。

3: この機能のON-OFFを飛行中に行いたい場合は画面右の「NULL」でスイッチ選択画面に進みます。

4: スイッチ選択画面の「Adjust Function」でトリムのように微調整できます。

サーボ動作でよく確認してください。



5: 三角アイコンで入力操作を切替えられます。  
それぞれの画面でミックス量の設定を行います。

6: 「ACC」「OST」も必要であれば設定します。

7: 「EXIT」で完了です。

**スロットルホールド T.HOLD (HELI)**

オートローテーションの時に使用する機能です。  
スロットルを設定した位置に固定します。

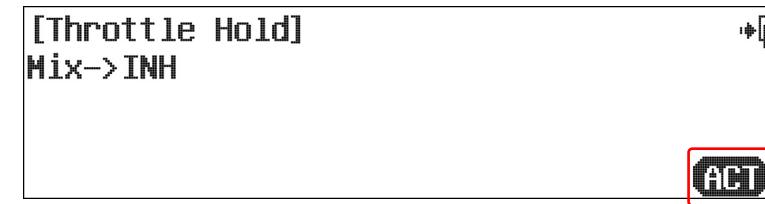
この機能はフライトコンディション毎に設定できます。



この機能はフライトコンディション (P112) でスイッチの割当が完了していないと機能しません。尚この説明書ではスイッチF1に設定しています。

1: モデルメニューから「T.HOLD」でこの画面に入ります。

2: 「ACT」で機能を有効にします。



3: 「Rate1」で固定するサーボ位置を「+・RST・-」で設定します。

4: 「Delay」でスイッチを操作してからサーボが移動する時間を設定できます。

5: 「EXIT」で完了です。



この機能では通常画面右横の「NULL」スイッチ選択画面は使用しません。

**スワッシュミキシング Swash Mix (HELI)**

スワッシュプレートが120° CCPM等の場合、この機能で各サーボのミックス量を調整してズレを補正できます。



送信機の各スティック（舵）の操作が他の軸の動作に影響しないように調整します。

1: モデルメニューから「SwashMix」でこの画面に入ります。

2: それぞれのサーボの比率は60%になっていますが変更したい場合は各舵のアイコンをタッチして変更できます。



3: 反転は「REV」をタッチして行います。

4: 確認画面が出ますので「Yes」で決定です。



●上の調整ではバランスがとれない場合、「Calibration」で各サーボの細かいカーブを7ポイントで調整できます。

1: 「Calibration」アイコンをタッチします。



2: 調整したい舵（軸）の動作をタッチします。  
例としてピッチをタッチします。

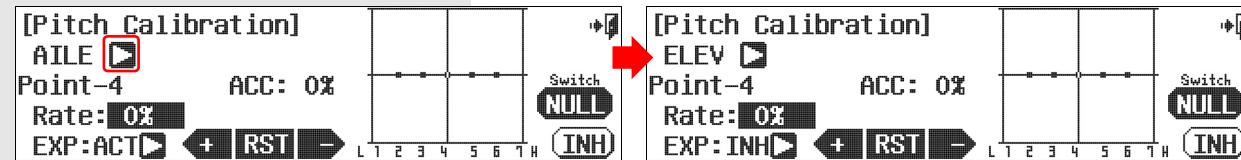


3: 「ACT」で有効にします。  
(各動作ごとです)



スワッシュミキシング Swash Mix (HELI)

4:赤枠の三角アイコンで補正入力したいスティック操作を切換えます。



5:スティックを操作すると画面右のグラフのバーが移動します。

補正したいポイントで「Rate」の数値を調整します。グラフには補正量が反映されます。

6:「EXP」はポイント間の接続を直線から曲線に変えます。

7:必要であれば画面右の「NULL」アイコンでスイッチの割り当てができます。

飛行中に2~3組の補正組み合わせを切換え可能です。

8:「EXIT」でモデルメニューまで戻り完了です。



**注意** : 設定や動作が複雑ですのでサーボ動作で必ず確認してください。

レボリューションミックス REVO-Mix (HELI)

ローターの反動トルクを消す為にピッチからテールローター（ラダー）にかけるミキシングです。



ヘッドロックジャイロを搭載している場合、この機能は使用しません。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1: モルメニューの「REVO Mix」でこの画面に入ります。

**[Revolution Mix]**  
Mix->INH

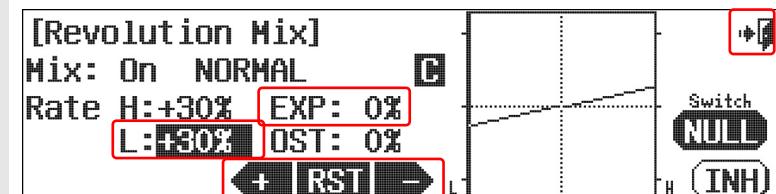


2:「ACT」で機能を有効にします。

3:ピッチを操作すると画面右のグラフのバーが移動します。  
ミキシング量は「Rate」の数値をタッチして反転表示にして「+・RST・-」部分で調整します。

4:「EXP」はミキシングカーブを調整できます。

5:「OST」は必要であれば使用します。



6:「EXIT」でモデルメニューに戻り完了です。

## ジャイロ感度 Gyro (HELI)

ジャイロの感度調整を管理する機能です。フライトコンディションごとに異なった感度を設定できます。またコンディションごとに最大3種類の感度も設定できます。お使いのジャイロの説明書を良く理解してから設定作業に入ってください。

この機能はフライトコンディション毎に設定できます。

1: モデルメニューから「Gyro」でこの画面に入ります。

2: 「ACT」で気のを有効にします。



●この機能はフライトコンディションごとに1つの感度設定ができる「Single」モードと、それに2~3種類の感度設定が可能な「Dual」モードがあります。これはスイッチを割当てることで可能になります。

1: モードの切換えは赤枠の三角アイコンで行います。

感度は「Rate」の数値で調整します。

2: 多くのヘッドロックジャイロはニュートラルを境にノーマルジャイロ側とヘッドロックジャイロ側の感度調整をします。

この場合は「Dual」モードにして「NULL」アイコンからスイッチ選択仮面に進みます。

そこでスイッチを割当るとスイッチのポジション数に応じた「Rate1~3」が表示されるようになります。実際にスイッチを操作してそれぞれの感度を設定してください。

3: 「EXIT」でモデルメニューに戻り完了です。



信号は目に見えないのでサーボを接続すると信号の変化が見て理解し易く確認できます。

## Governor (HELI)

ガバナーの回転数を管理する機能です。フライトコンディションごとに異なった回転数を設定できます。またコンディションごとに最大3種類の回転数が設定できます。

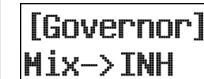
この機能はフライトコンディション毎に設定できます。



ご使用になるガバナーの説明書を良く理解してください。

1: モデルメニューの「Gavarner」でこの画面に入ります。

2: 「ACT」で機能を有効にします。

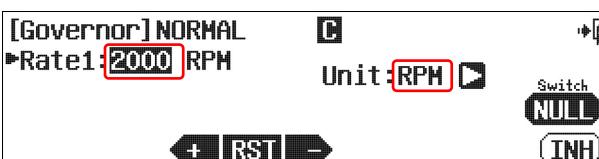


3: 表示の単位は「Unit」横の三角アイコンで回転数/%を選択できます。

4: 回転数は「Rate」の数値で調整します。

5: 複数の回転数を設定したい「NULL」アイコンからスイッチ選択仮面に進みます。

そこでスイッチを割当るとスイッチのポジション数に応じた「Rate1~3」が表示されるようになります。実際にスイッチを操作してそれぞれの回転数を設定してください。



信号は目に見えないのでサーボを接続すると信号の変化が見て理解し易く確認できます。